

少子化等に関するアンケート調査
地方移住に関するアンケート調査
将来の進路や仕事に関する意識・希望アンケート調査
高校生まちづくりアンケート調査
—報告書—

令和6年3月

高山市

目 次

1	調査概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 実施概要	1
	(3) その他	2
2	少子化等に関する調査結果	3
	(1) 回答者の属性	3
	(2) 結婚について	9
	(3) 出産について	14
	(4) 子育てについて	18
	(5) ワーク・ライフ・バランスについて	23
	(6) 少子化について	28
3	地方移住に関する調査結果	34
	(1) 回答者の属性	34
	(2) I・Jターン者・Uターン者の状況と特徴	39
	(3) I・Jターンの状況	41
	(4) Uターンの状況	47
	(5) 仕事・住居の見つけ方	52
	(6) 地域・暮らしについて	61
	(7) 移住者増加に向けて	69
4	将来の進路や仕事に関する意識・希望調査結果	71
	(1) 回答者の属性	71
	(2) 就職希望者の進路について	73
	(3) 進学希望者の進路について	75
	(4) 希望する仕事の業種や職種	79
	(5) 仕事を選ぶ上で重視していることや希望する働き方	84
	(6) 飛騨地域の企業や職場の認知度等	87
	(7) 就職先を検討する際の情報源や就職ガイダンス等への参加意向	89
	(8) 住んでいる地域への愛着や住みやすさ	91
	(9) 地域の祭り等への参加状況や都会への憧れ	94
	(10) 地域の将来や人口減少の実感、必要な取り組み	97
5	高校生まちづくりアンケート調査	101
	(1) 回答者の属性	101
	(2) 回答者の高山市への愛着	102
	(3) 地域の祭り等への参加状況	104
	(4) 居住地や仕事について	105
	(5) 高山市との関わり仕事を選ぶ上で重視していることや希望する働き方	110

6 考察.....	115
（1）結婚・子育ての現状・課題.....	115
①結婚に関する現状・課題・特徴.....	115
②子育てに関する現状・課題・特徴.....	116
（2）移住・定住に関する現状・課題.....	118
（3）高校生の地元への就職意向等の現状・課題.....	120
①地元への就職意向.....	120
②高校生の地元企業への関心.....	120
③高校生の高山市に対する評価.....	121
（4）高校生から見たまちづくりの現状・課題.....	120
①高校生の高山市に対する愛着度.....	120

1 調査概要

(1) 調査目的

第九次総合計画の策定に向け、高山市が今後目指すべき方向性やまちの将来や人口を展望するために、「少子化等」、「地方移住」、「将来の進路や仕事」、「高校生目線でのまちづくり」に関する市民アンケート調査を実施した。また、平成30年度の「高山市人口ビジョン」及び「高山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定時に実施した同様のアンケート調査結果と比較し、経年変化を把握する。

(2) 実施概要

少子化等に関する市民アンケート調査

- ・調査対象：満20歳以上～45歳未満の市民 2,000名
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・実施方法：郵送による配布、郵送・インターネットによる回答
- ・調査期間：2023年8月17日～10月11日
- ・回収数及び回収率：643件（無効回答5件含む） 32.2%
（前回調査時：665件 33.3%）

地方移住に関する市民アンケート調査

- ・調査対象：岐阜県外から本市に3年以内に移住した満20歳以上の市民 1,000名
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・実施方法：郵送による配布、郵送・インターネットによる回答
- ・調査期間：2023年8月3日～10月1日
- ・回収数及び回収率：294件 29.4%
（前回調査時：301件 30.1%）

将来の進路や仕事に関する意識・希望アンケート調査

- ・調査対象：飛騨地域の高校及び特別支援学校高等部に通う本市在住の生徒（3年生668人※）
 - ・実施方法：各学校を通じて配布、インターネットによる回答（一部学校にて回収）
 - ・調査期間：2023年9月8日～10月6日
 - ・回収数および回収率：318件 47.6%
（前回調査時：786件 92.8%）
- ※令和5年度学校要覧（高校別）の出身中学校別生徒数（住所変更、休・退学等による増減あり）

高校生まちづくりアンケート調査

- ・調査対象：飛騨地域の高校及び特別支援学校高等部に通う本市在住の生徒（2年生699人※）
- ・抽出方法：各学校を通じて配布、インターネットによる回答（一部学校にて回収）
- ・調査期間：2023年9月8日～10月6日
- ・回収数及び回収率：311件 44.5%

(初回調査)

※令和5年度学校要覧(高校別)の出身中学校別生徒数(住所変更、休・退学等による増減あり)

(3) その他

- ・小数点第2位を四捨五入しているため、合計の数値が100%にならない場合がある。
- ・アンケートの回答が無かった選択肢(項目)については、集計表及びグラフにおいて除外している場合がある。
- ・各回答項目で「その他」の割合が10%を上回るものには、「その他」の主だった内容を掲載している。

2 少子化等に関する市民アンケート調査結果

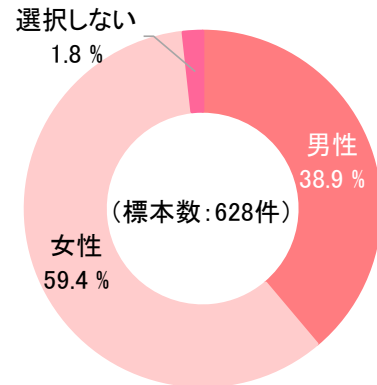
(1) 回答者の属性

- 回答者の性別は、「男性」が38.9%、「女性」が59.4%、「選択しない」が1.8%となっている。
- 年代は40～44歳が31.4%で最も高く、次いで35～39歳が25.0%となっている。
- 居住地域は、「高山地域」が67.2%、次いで「国府地域」が7.7%となっている。

図表 1 性別

	回答数(件)	回答率(%)
男性	244	38.9
女性	373	59.4
選択しない	11	1.8
合計	628	100.0

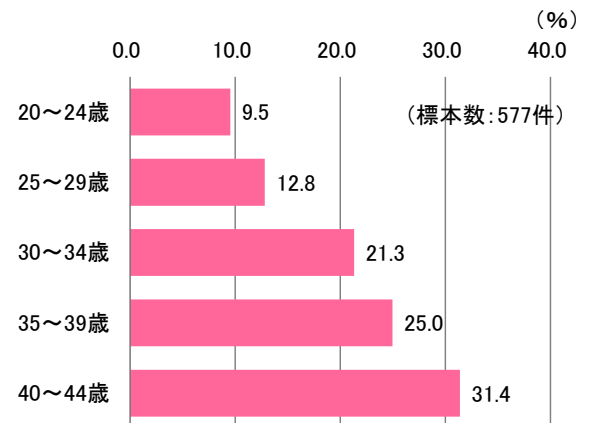
(標本数:628件)



図表 2 年代

	回答数(件)	回答率(%)
20～24歳	55	9.5
25～29歳	74	12.8
30～34歳	123	21.3
35～39歳	144	25.0
40～44歳	181	31.4
合計	577	100.0

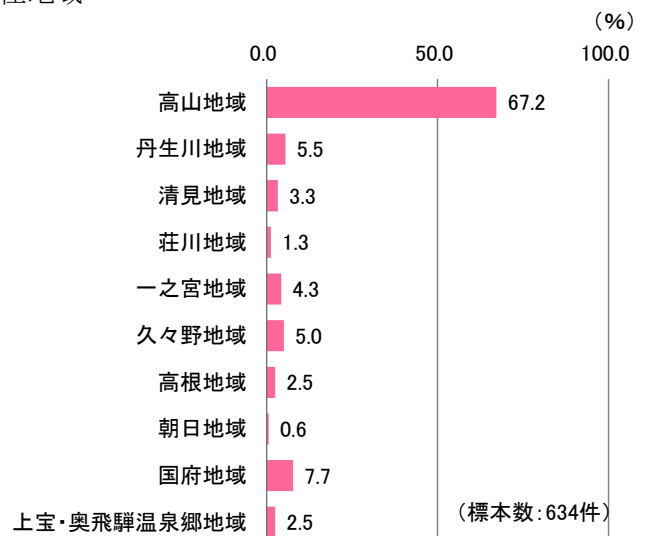
(標本数:577件)



図表 3 居住地域

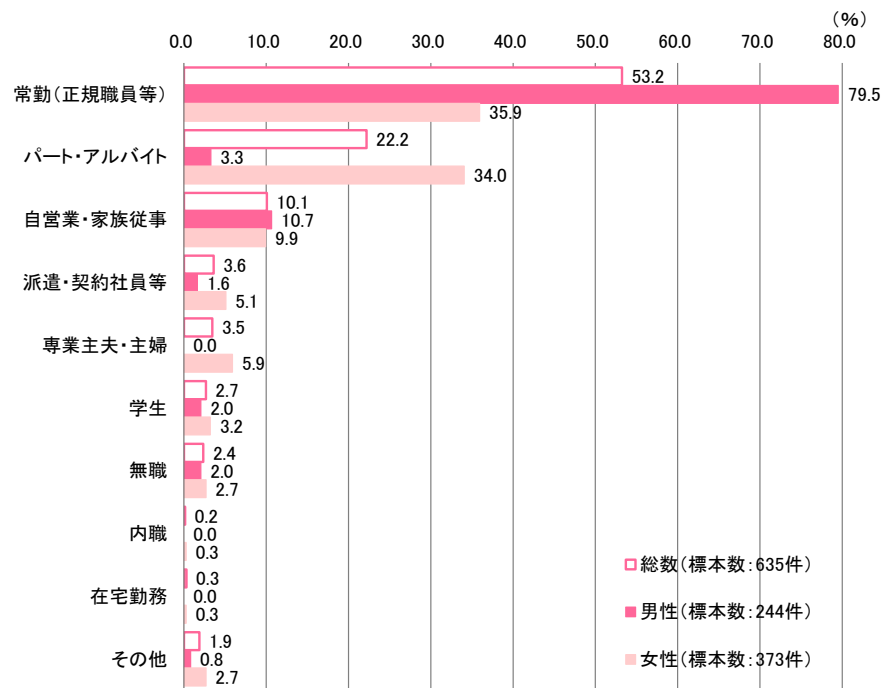
	回答数(件)	回答率(%)
高山地域	426	67.2
丹生川地域	35	5.5
清見地域	21	3.3
荘川地域	8	1.3
一之宮地域	27	4.3
久々野地域	32	5.0
高根地域	16	2.5
朝日地域	4	0.6
国府地域	49	7.7
上宝・奥飛騨温泉郷地域	16	2.5
合計	634	100.0

(標本数:634件)

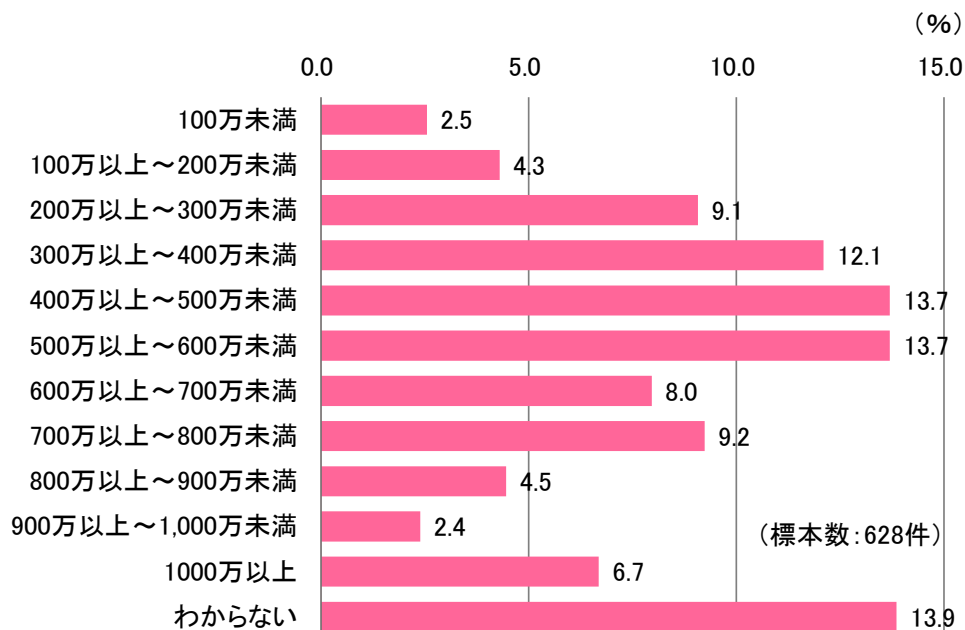


- 就業形態は、「常勤（正規職員等）」が53.2%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」が22.2%、「自営業・家族従事」が10.1%の順となっている。
- 性別でみると、「常勤（正規職員等）」は男性が79.5%、女性が35.9%となっており、女性の「パート・アルバイト」の34.0%、「専業主夫・主婦」の5.9%は、男性に比べ比率が高くなっている。
- 世帯収入は、「わからない」を除くと、「400～500万未満」と「500～600万未満」が13.7%で最も高く、次いで「300～400万未満」が12.1%、「700～800万未満」が9.2%の順となっている。

図表 4 就業形態



図表 5 世帯収入

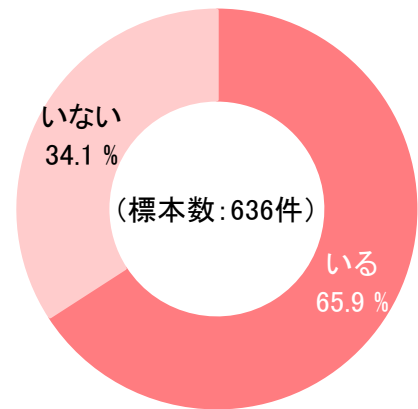


- 回答者の 65.9%に配偶者がいる。配偶者の 66.4%は「常勤（正規職員等）」として就労している。

図表 6 配偶者有無

	回答数(件)	回答率(%)
いる	419	65.9
いない	217	34.1
合計	636	100.0

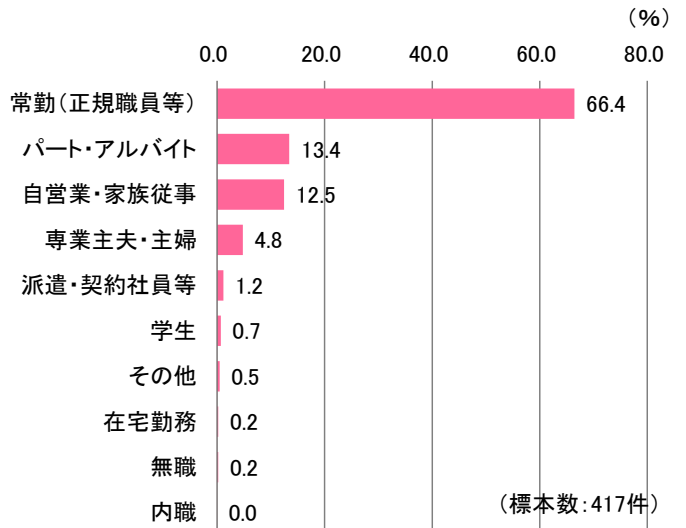
(標本数:636件)



図表 7 配偶者の就業形態

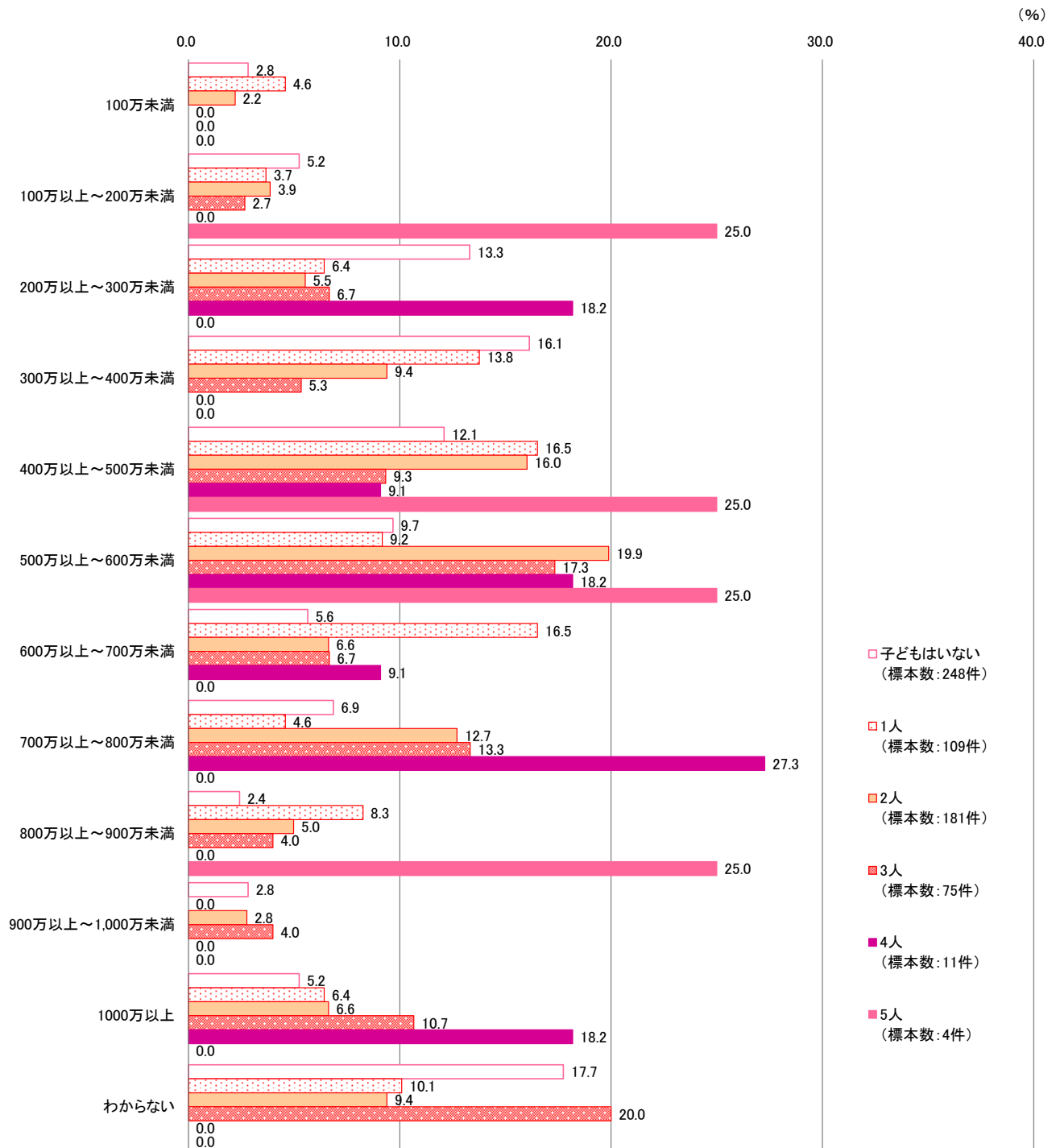
	回答数(件)	回答率(%)
常勤(正規職員等)	277	66.4
パート・アルバイト	56	13.4
自営業・家族従事	52	12.5
専業主夫・主婦	20	4.8
派遣・契約社員等	5	1.2
学生	3	0.7
その他	2	0.5
在宅勤務	1	0.2
無職	1	0.2
内職	0	0.0
合計	417	100.0

(標本数:417件)



- 子どもの人数別の世帯収入は、「わからない」を除くと、子どもがいない世帯の場合は「300万～400万未満」、子どもがいる世帯で1人の場合は「400万～500万未満」、「600万～700万未満」、2人、3人の場合は「500万～600万未満」、4人の場合は「700万～800万未満」が最も高くなっている。

図表 8 子どもの人数別の世帯収入

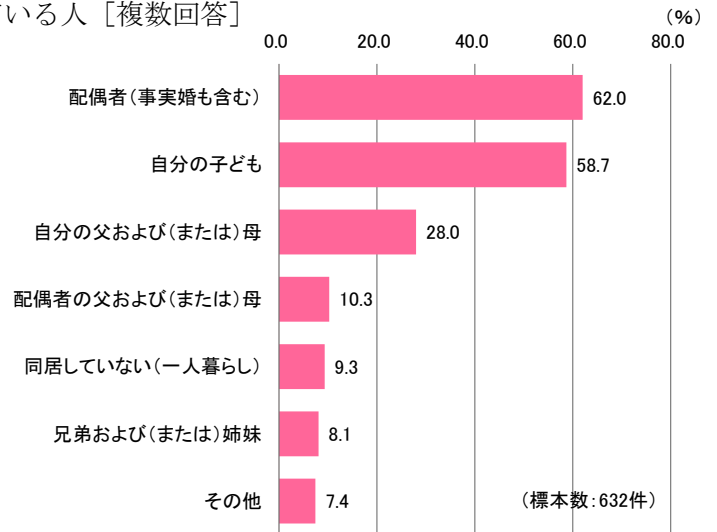


- 一緒に暮らしている人は、「配偶者（事実婚も含む）」、「自分の子ども」、「自分の父および（または）母」の順となっている。
- 一緒に暮らしている子どもの年齢は、「3歳～小学校入学前」、「0～2歳児」、「小学校低学年」の順となっている。

図表 9 一緒に暮らしている人 [複数回答]

	回答数(件)	回答率(%)
配偶者(事実婚も含む)	392	62.0
自分の子ども	371	58.7
自分の父および(または)母	177	28.0
配偶者の父および(または)母	65	10.3
同居していない(一人暮らし)	59	9.3
兄弟および(または)姉妹	51	8.1
その他	47	7.4

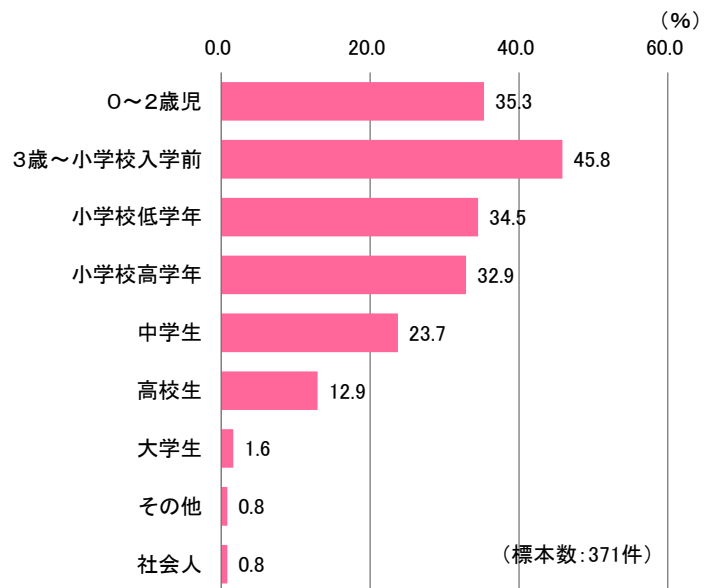
(標本数:632件)



図表 10 一緒に暮らしている子どもの年齢 [複数回答]

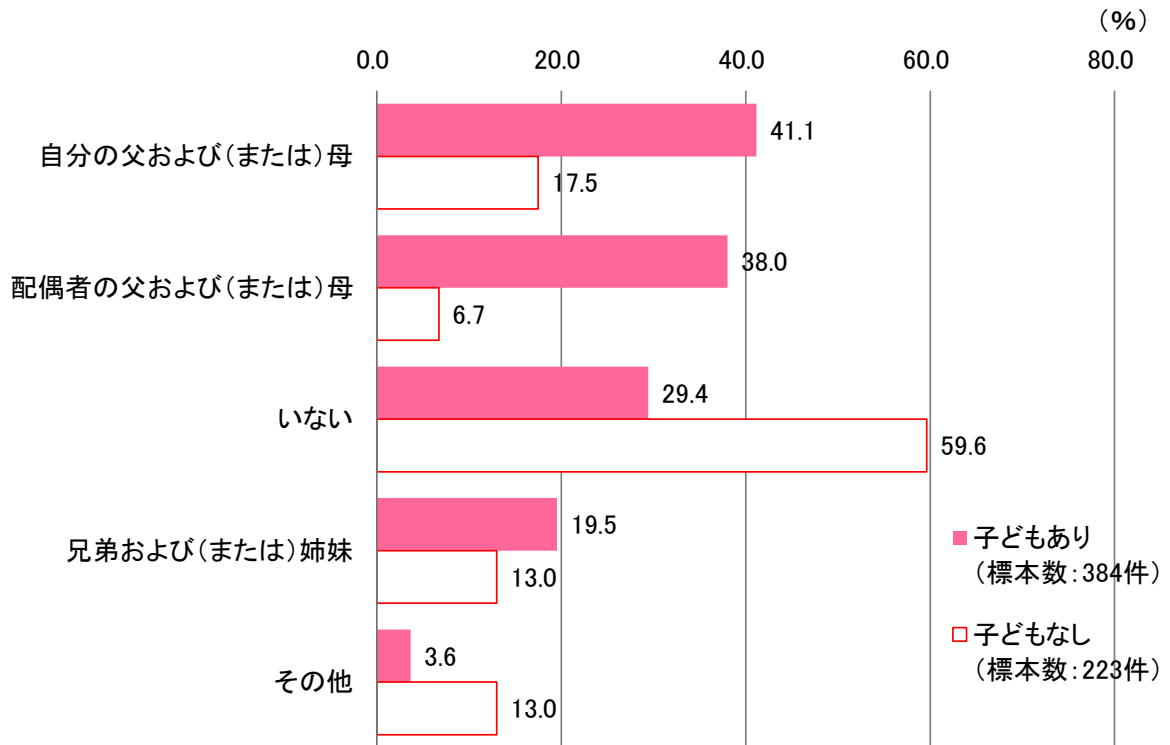
	回答数(件)	回答率(%)
0～2歳児	131	35.3
3歳～小学校入学前	170	45.8
小学校低学年	128	34.5
小学校高学年	122	32.9
中学生	88	23.7
高校生	48	12.9
大学生	6	1.6
その他	3	0.8
社会人	3	0.8

(標本数:371件)



- 近居の親族は、子どもがいる回答者では、「自分の父および（または）母」が41.1%で最も高く、「配偶者の父および（または）母」が38.0%、「いない」が29.4%の順となっている。
- 子どもがいない回答者では、「いない」が59.6%と最も高くなっている。

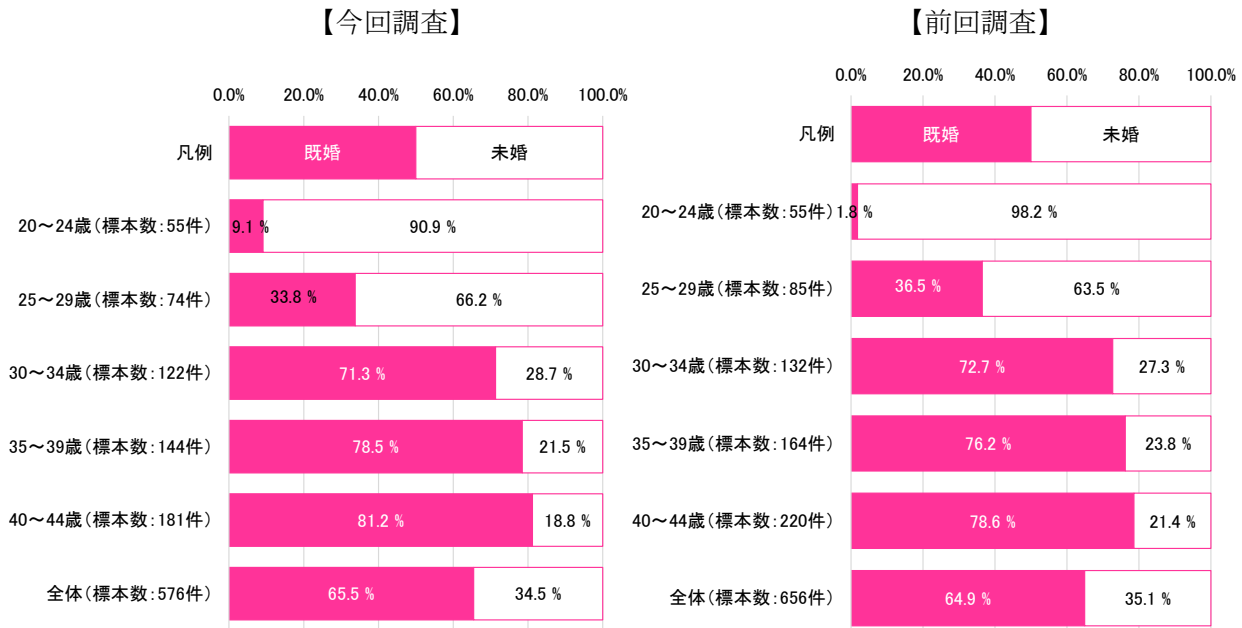
図表 11 近居の親族 [複数回答]



(2) 結婚について

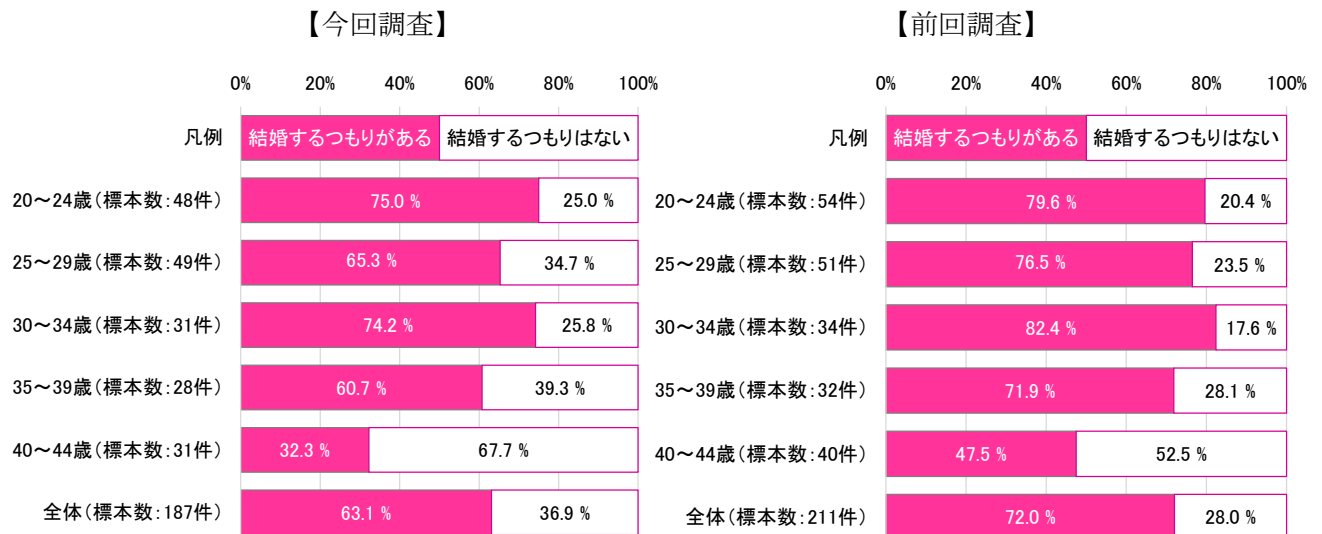
- 年代別の結婚状況は、未婚の割合は、20～24歳は90.9%で最も高く、次いで25～29歳は66.2%となっている。それ以降の年代では2～3割が未婚となっている。前回調査と既婚割合を比較すると、25～29歳が2.7ポイント減少しているものの、20～24歳と35歳以上の年代における既婚割合の増加が見られており、全体としての既婚割合も微増している。

図表 12 年代別 婚姻状況



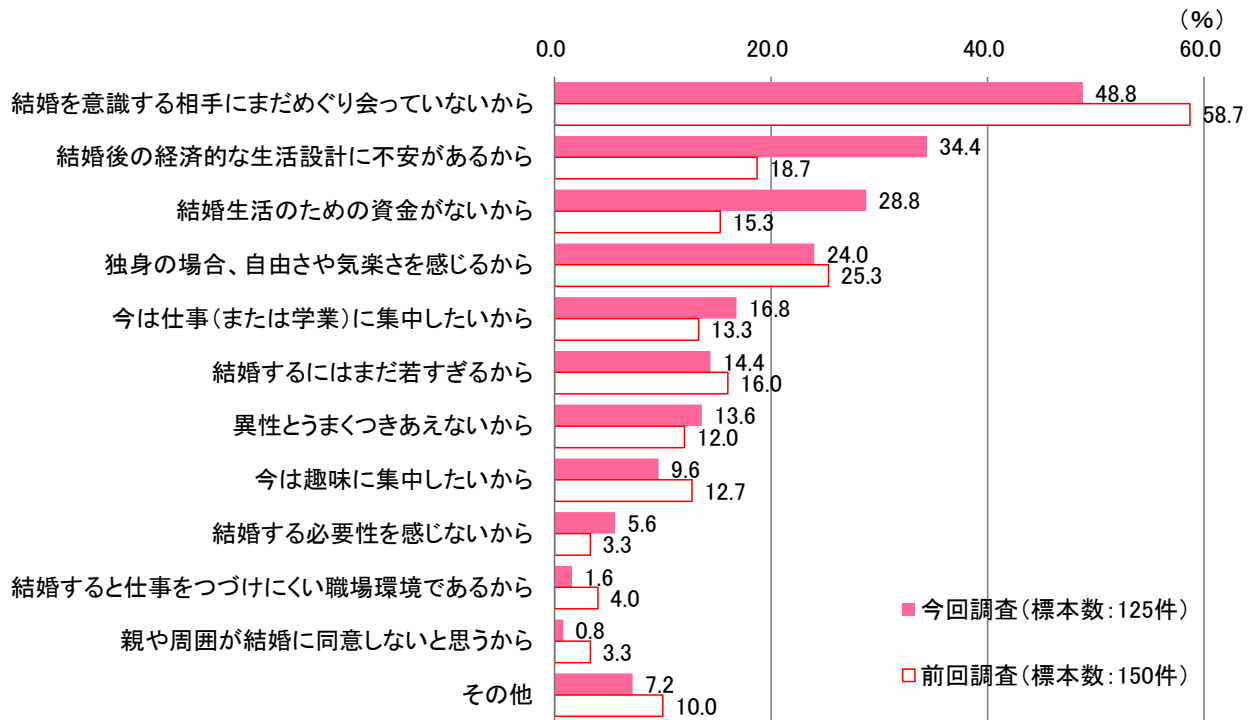
- 未婚者の63.1%が「結婚するつもりがある」と回答している。前回調査と比較すると、全体では結婚の意向が8.9ポイント減少している。いずれの年代においても結婚の意向が減少しており、20～24歳では4.6ポイント、25～29歳では11.2ポイント、30～34歳では8.2ポイント、35～39歳では11.2ポイント、40～44歳では15.2ポイント減少している。

図表 13 【未婚者】結婚の意向



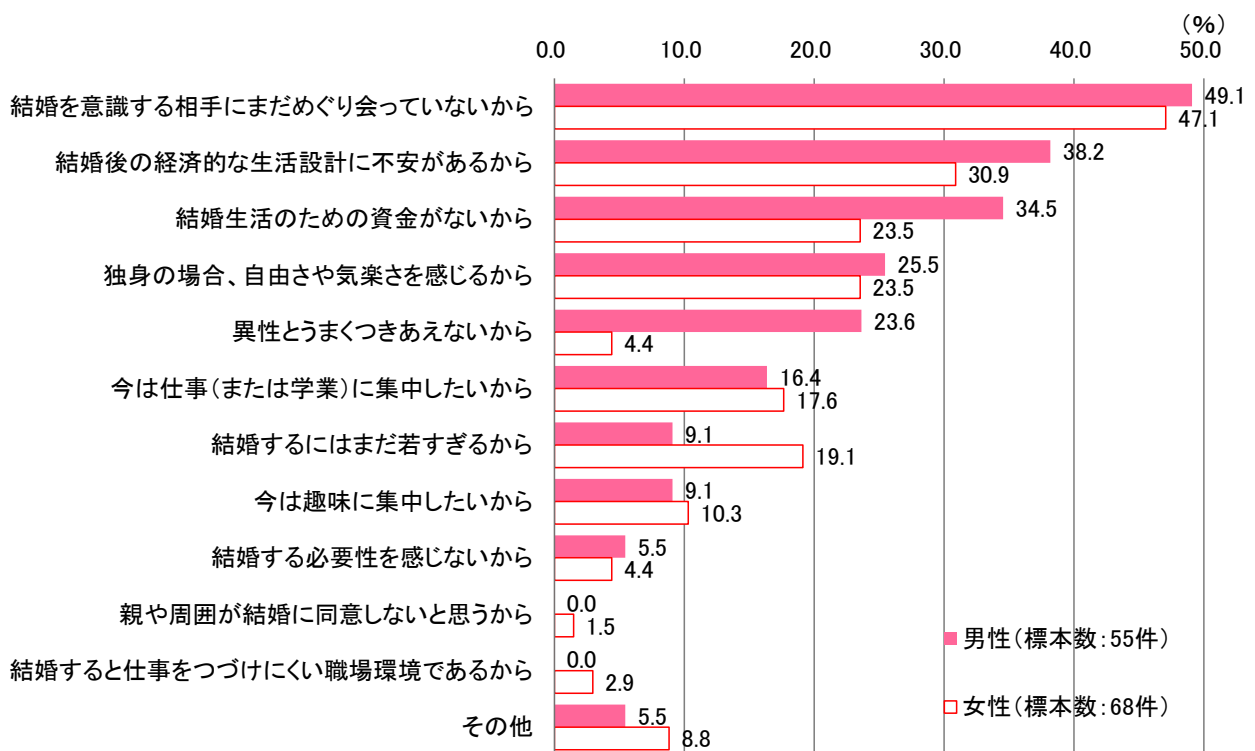
- 独身でいる理由は、「結婚を意識する相手にまだめぐり会っていないから」が最も高くなっているものの、前回調査よりも9.9ポイント減少している。
- 次いで「結婚後の経済的な生活設計に不安があるから」、「結婚生活のための資金がないから」の順となっており、どちらも前回調査より10ポイント以上増加している。

図表 14 【未婚者のうち結婚希望者】独身でいる理由 [複数回答]



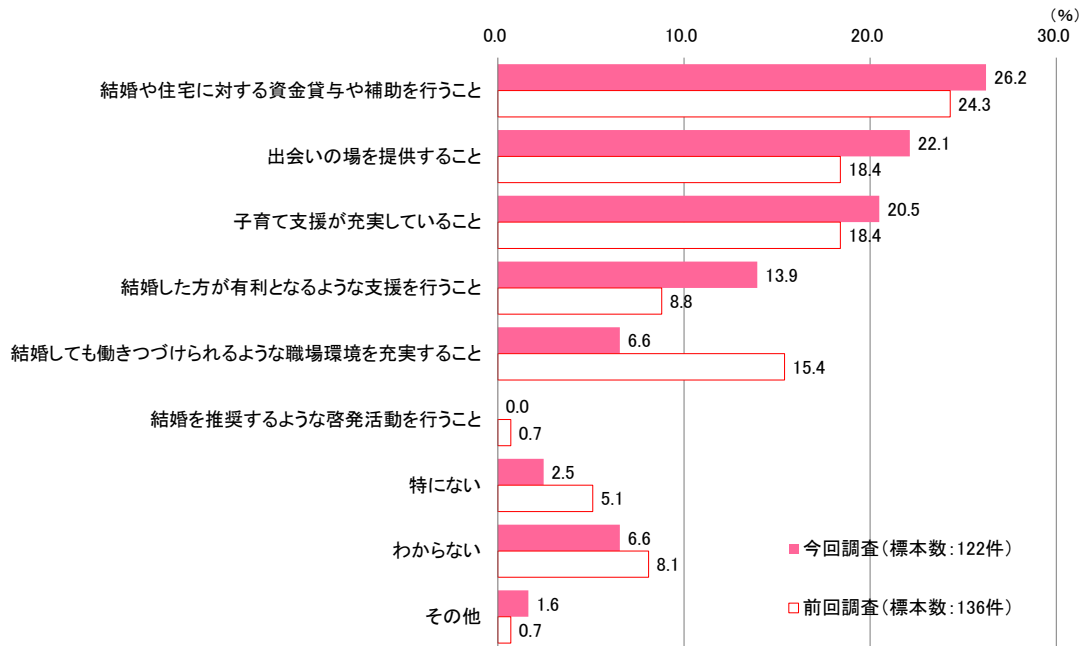
- 性別で見ると、男性、女性ともに「結婚を意識する相手にまだめぐり会っていないから」が最も高くなっている。
- 男性、女性ともに、「結婚後の経済的な生活設計に不安があるから」、「結婚生活のための資金がないから」が2番目、3番目に高く、経済的不安から結婚をためらっている状況がうかがえる。
- 男性の場合は、「異性とうまくつきあえないから」が23.6%となっており、異性との付き合いに苦手意識を持つため、継続した関係性の構築が難しくなっている。
- 女性の場合は、「結婚するにはまだ若すぎるから」が19.1%であり、ライフステージや経済状況などを考慮した上で、結婚することが現実的ではないと判断していると思われる。

図表 15 【未婚者のうち結婚希望者】性別 独身でいる理由

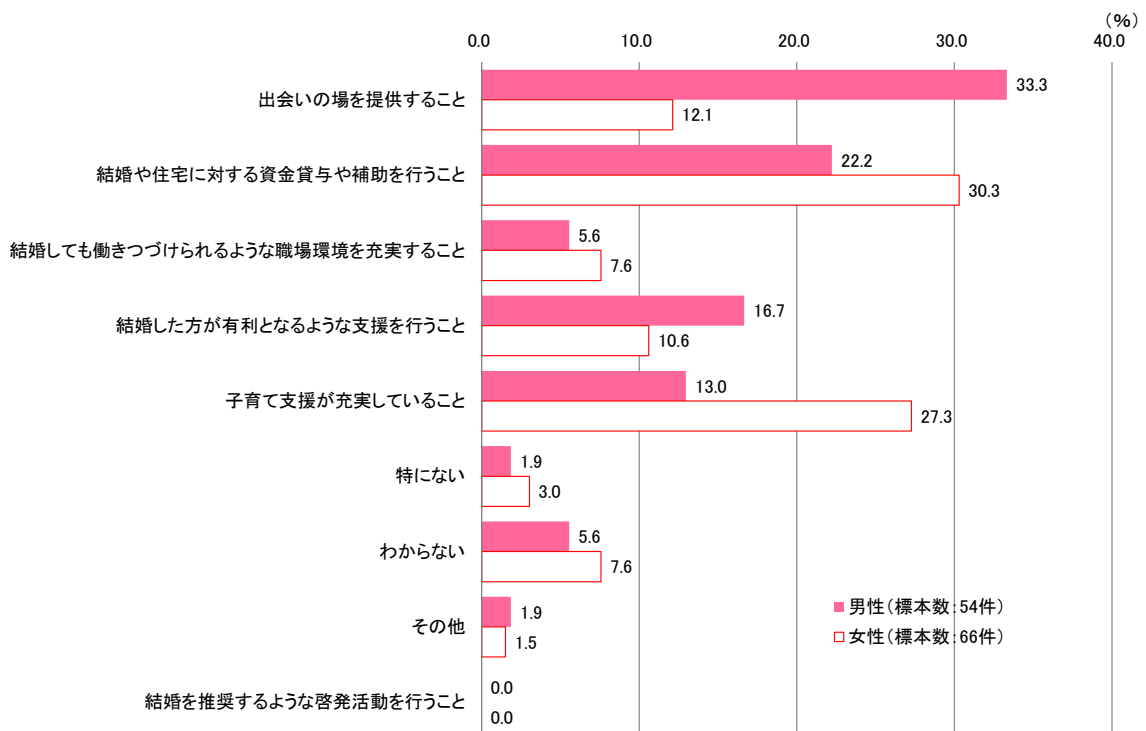


- 結婚希望者が求める支援策は、「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと」が26.2%で最も高く、前回調査から1.9ポイント増加している。次いで「出会いの場を提供すること」、「子育て支援が充実していること」がそれぞれ22.1%、20.5%となっている。
- 男性は「出会いの場を提供すること」が、女性は「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと」がそれぞれ最も高くなっており、男女で傾向が異なっている。また女性は「子育て支援が充実していること」が27.3%で、男性と比較して14.3ポイント高くなっている。

図表 16 【未婚者のうち結婚希望者】結婚を希望する人への支援策



図表 17 【未婚者のうち結婚希望者】性別 結婚を希望する人への支援策

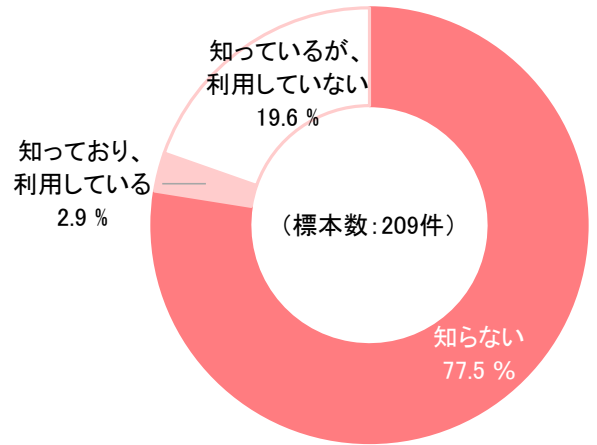


- 高山市が開設している結婚相談所の認知度については、77.5%が「知らない」と回答している。「知っており、利用している」が2.9%、「知っているが、利用していない」が19.6%となっている。
- 結婚ポータルサイトの認知度については、89.4%が「知らない」と回答している。

図表 18 【未婚者】高山市が開設している結婚相談所の認知度

	回答数(件)	回答率(%)
知らない	162	77.5
知っており、利用している	6	2.9
知っているが、利用していない	41	19.6
合計	209	100.0

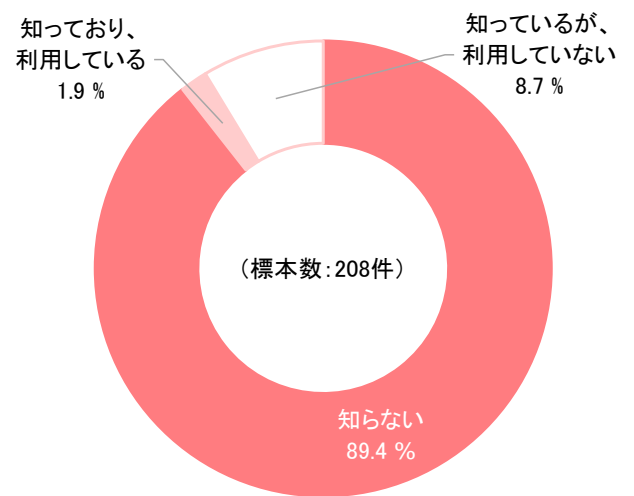
(標本数: 209件)



図表 19 【未婚者】高山市が開設している結婚ポータルサイトの認知度

	回答数(件)	回答率(%)
知らない	186	89.4
知っており、利用している	4	1.9
知っているが、利用していない	18	8.7
合計	208	100.0

(標本数: 208件)



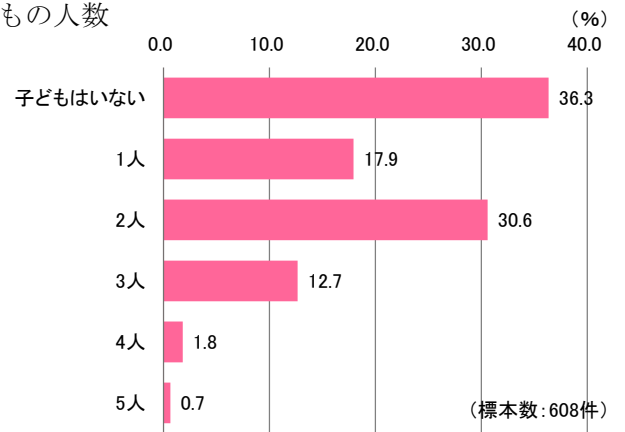
(3) 出産について

- 現在いる子どもの人数は「0人(いない)」が36.3%で最も高く、次いで「2人」、「1人」、「3人」の順となっている。
- 最終的に持ちたい子どもの人数の平均は「2.03人」、理想とする子どもの人数の平均は「2.37人」で、理想と現実には差が生じていることがわかる。また、前回調査と比較すると、最終的に持ちたい子どもの人数と、理想とする子どもの人数の平均値が減少している。

図表 20 現在いる子どもの人数

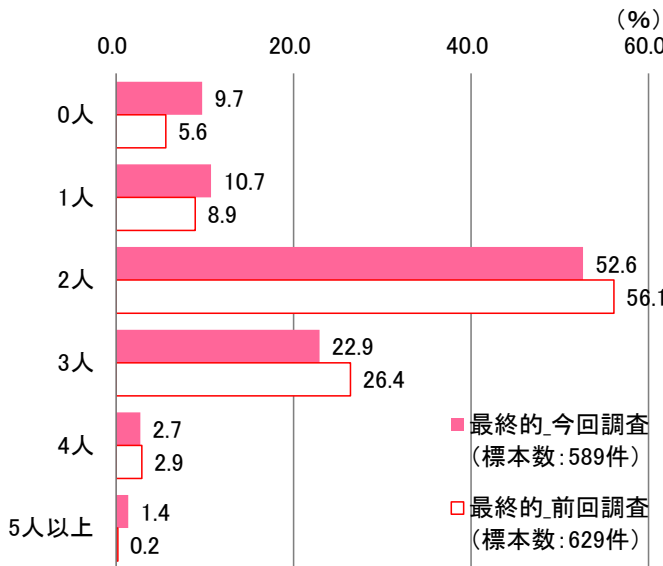
	回答数(件)	回答率(%)
子どもはいない	221	36.3
1人	109	17.9
2人	186	30.6
3人	77	12.7
4人	11	1.8
5人	4	0.7
合計	608	100.0

(標本数:608件)

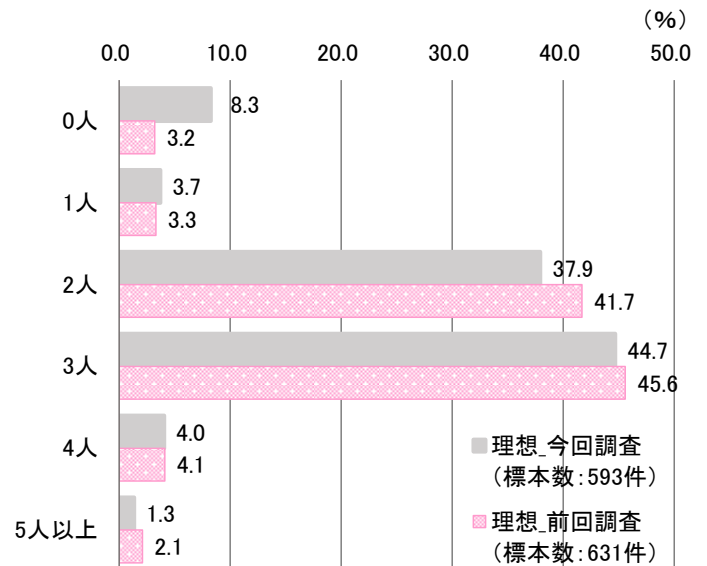


(標本数:608件)

図表 21 最終的に持ちたい子どもの人数



図表 22 理想としている子どもの人数



最終的に持ちたい子どもの人数
(回答者数=589人)

平均：2.03人

<前回調査 2.13人>

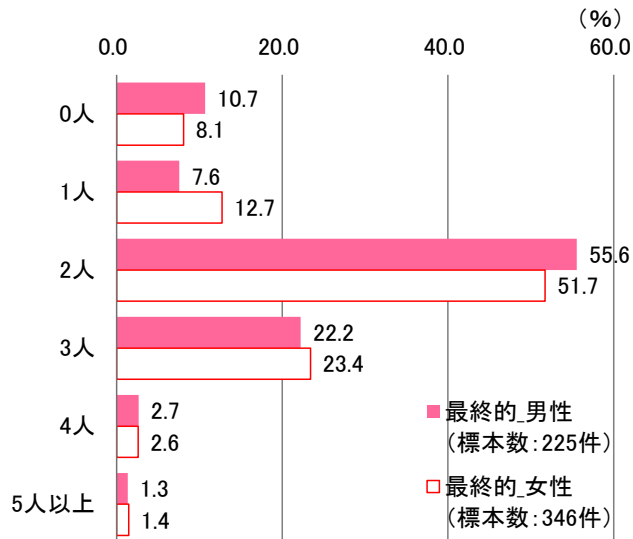
理想とする子どもの人数
(回答者数=593人)

平均：2.37人

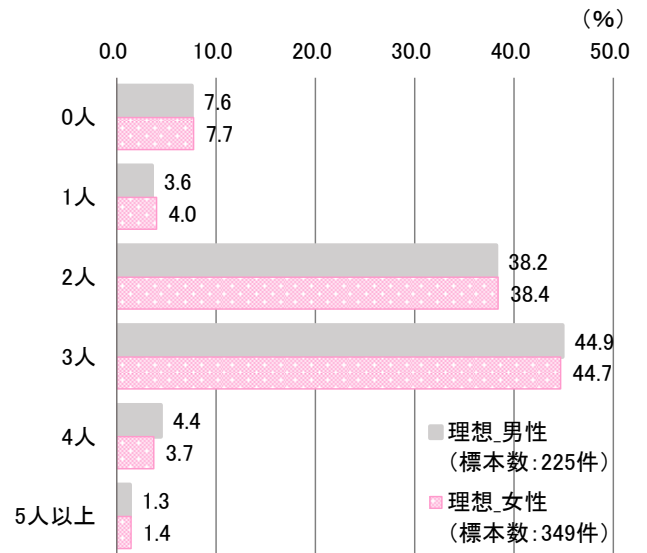
<前回調査 2.51人>

- 性別でみると、最終的に持ちたい子どもの人数は男性、女性ともに「2人」が最も高くなっている。
- 理想としている子どもの人数は、男性、女性ともに「3人」が最も高くなっている。

図表 23 性別 最終的に持ちたい子どもの人数

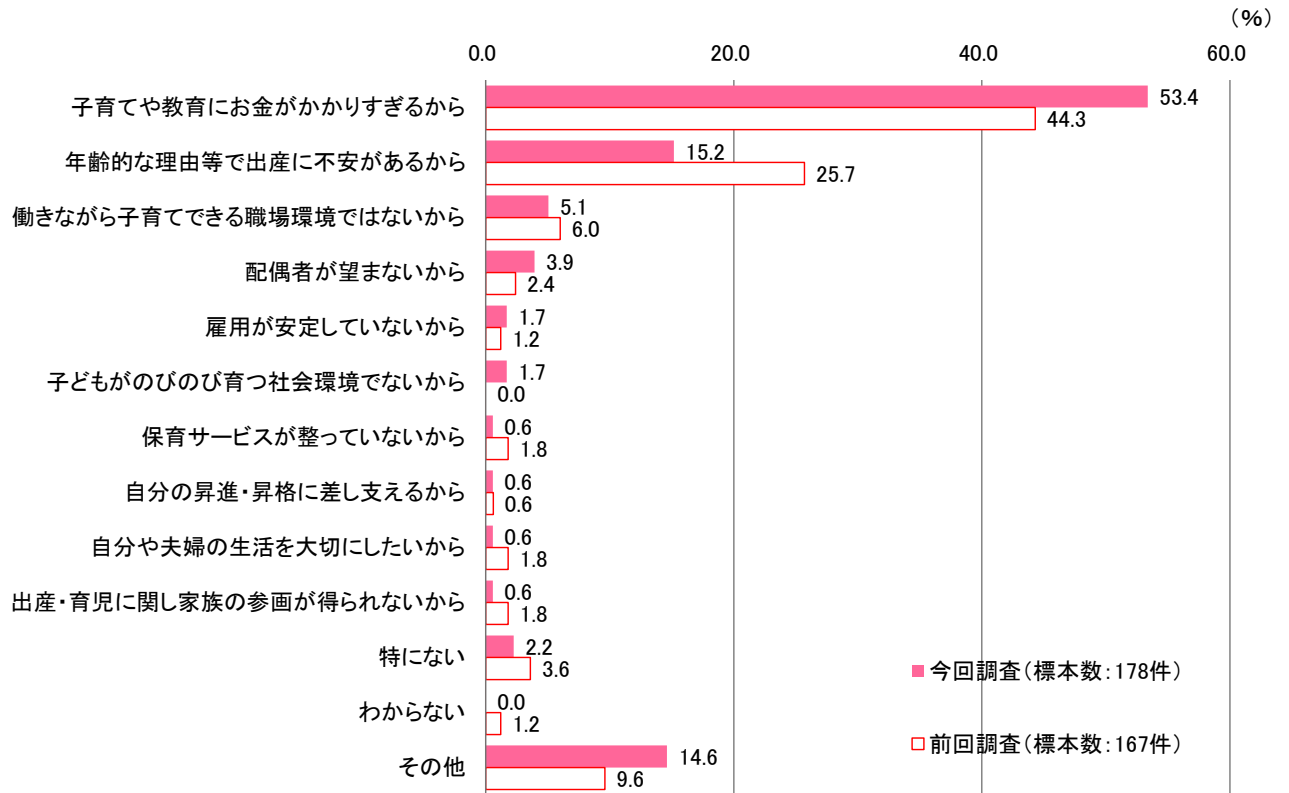


図表 24 性別 理想としている子どもの人数



- 最終的に持ちたい子どもの人数が理想を下回っている理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」53.4%で最も高く、次いで「年齢的な理由等で出産に不安があるから」が15.2%となっており、全体的に前回調査とほぼ同様の傾向となっている。

図表 25 【理想より最終的に持ちたい子どもの人数が少ないと回答した人】下回っている理由

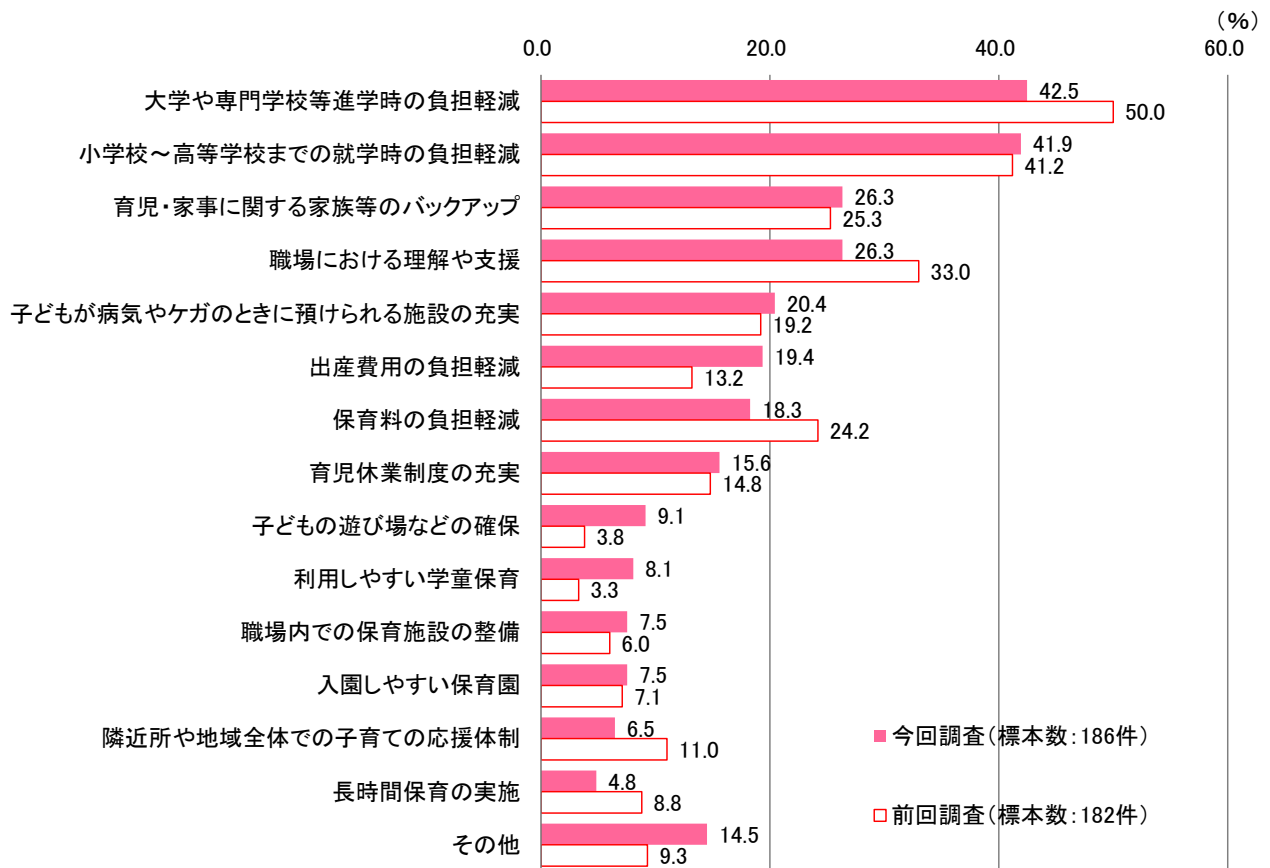


※「その他」の内容

- ・「自身及び世帯の収入に不安がある」、「理想の人数の子どもを授からなかった」、「不妊治療の費用がかかる」など

- 理想の人数に近づくために必要な条件は、「大学や専門学校等進学時の負担軽減」が42.5%で最も高いものの、前回調査よりも7.5ポイント減少している。
- 次いで「小学校～高等学校までの就学時の負担軽減」、「育児・家事に関する家族等のバックアップ」、「職場における理解や支援」が高くなっている。
- 前回調査から「大学や専門学校等進学時の負担軽減」、「職場における理解や支援」、「保育料の負担軽減」が約6ポイント減少している。

図表 26 【理想より最終的に持ちたい子どもの人数が少ないと回答した人】
理想の人数に近づくために必要な条件 [複数回答]



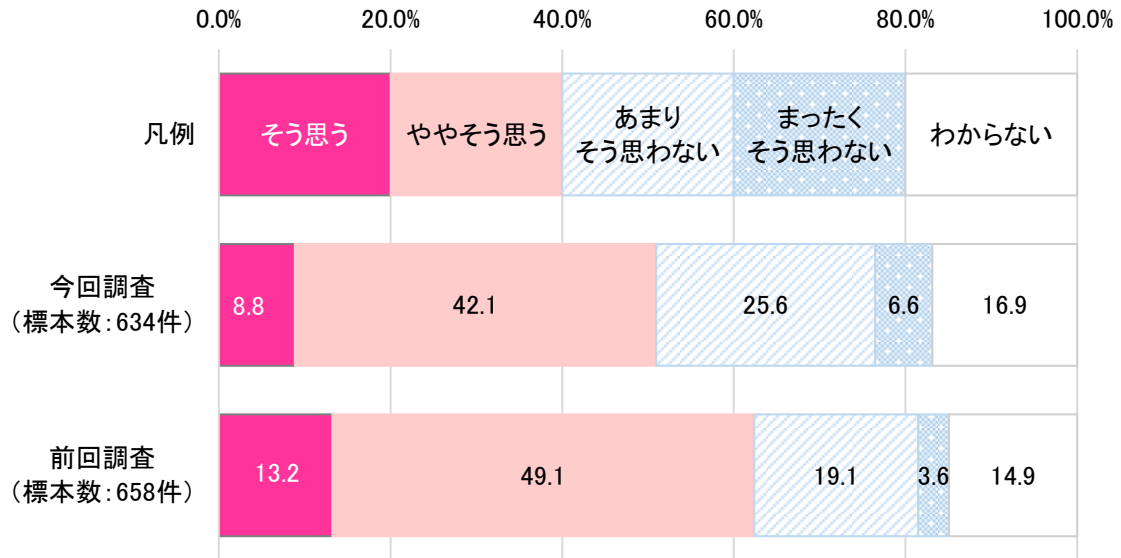
※「その他」の内容

- ・「自身及び世帯の収入増加」、「不妊治療費用の負担軽減」など

(4) 子育てについて

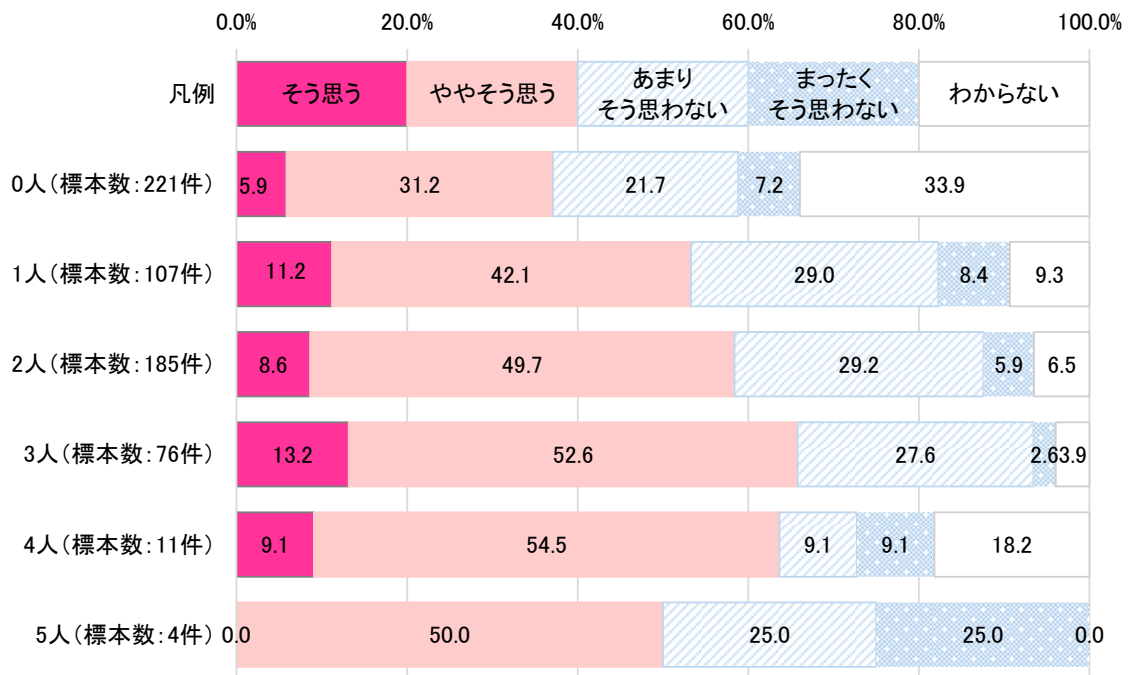
- 高山市は子どもを生き育てやすいまちであるかについては、「そう思う」が 8.8%、「ややそう思う」が 42.1%で、合わせて 50.9%となっている。前回調査と比較して「そう思う」、「ややそう思う」が減少しており、子どもを生き育てやすいと考える人が少なくなっている。

図表 27 高山市は子どもを生き育てやすいまちか

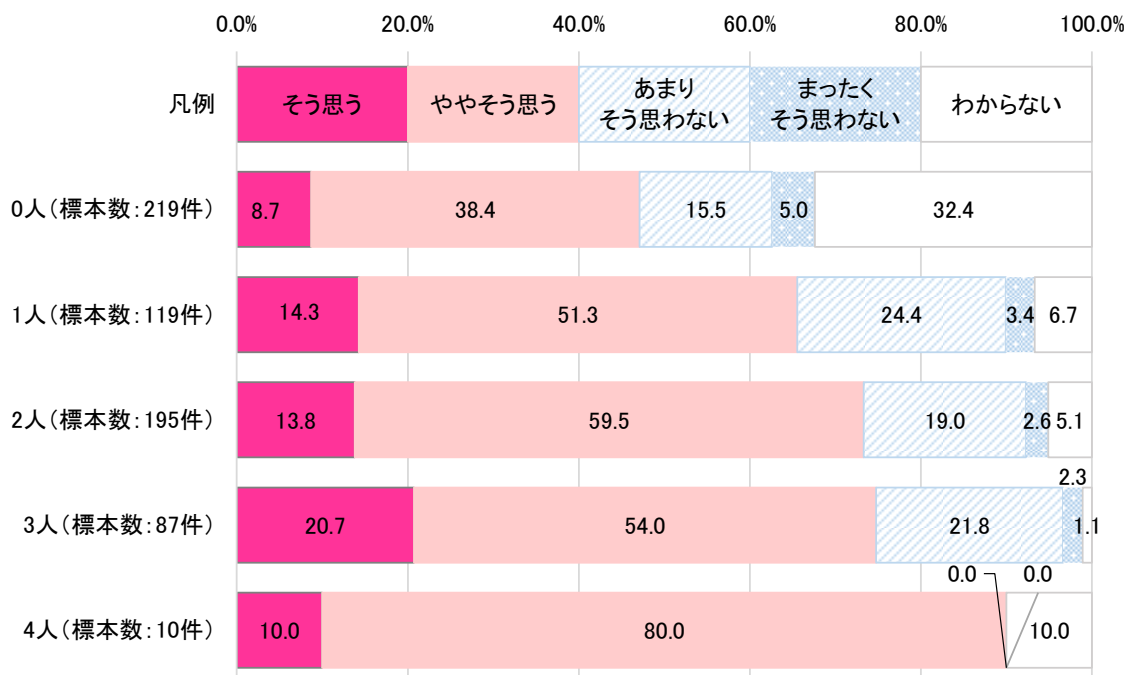


- 子どもの人数別に高山市は子どもを生き育てやすいまちかどうかをみると、全体的に、「そう思う」、「ややそう思う」の合計が前回調査と比較して減少している（前回標本がなかった子ども5人の回答者を除く）。
- 特に、子どもが0人では10.0ポイント、1人では12.3ポイント、4人では26.4ポイント減少している。

図表 28 子ども的人数別 高山市は子どもを生き育てやすいまちか<今回調査>

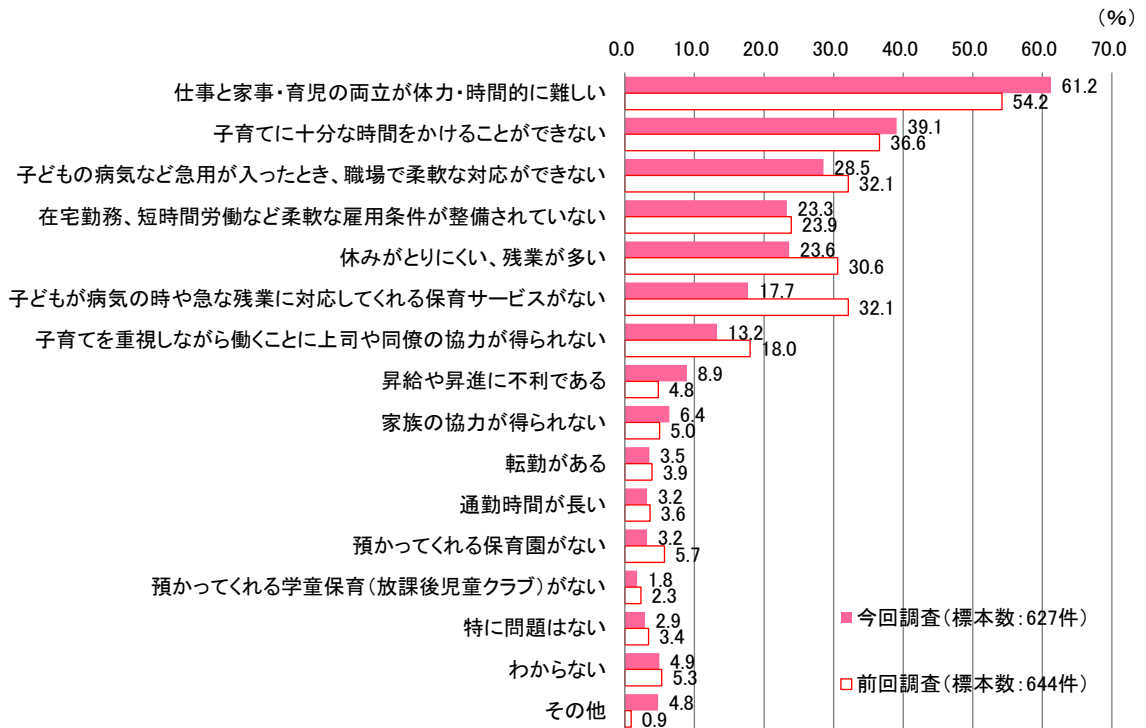


図表 29 子ども的人数別 高山市は子どもを生き育てやすいまちか<前回調査>



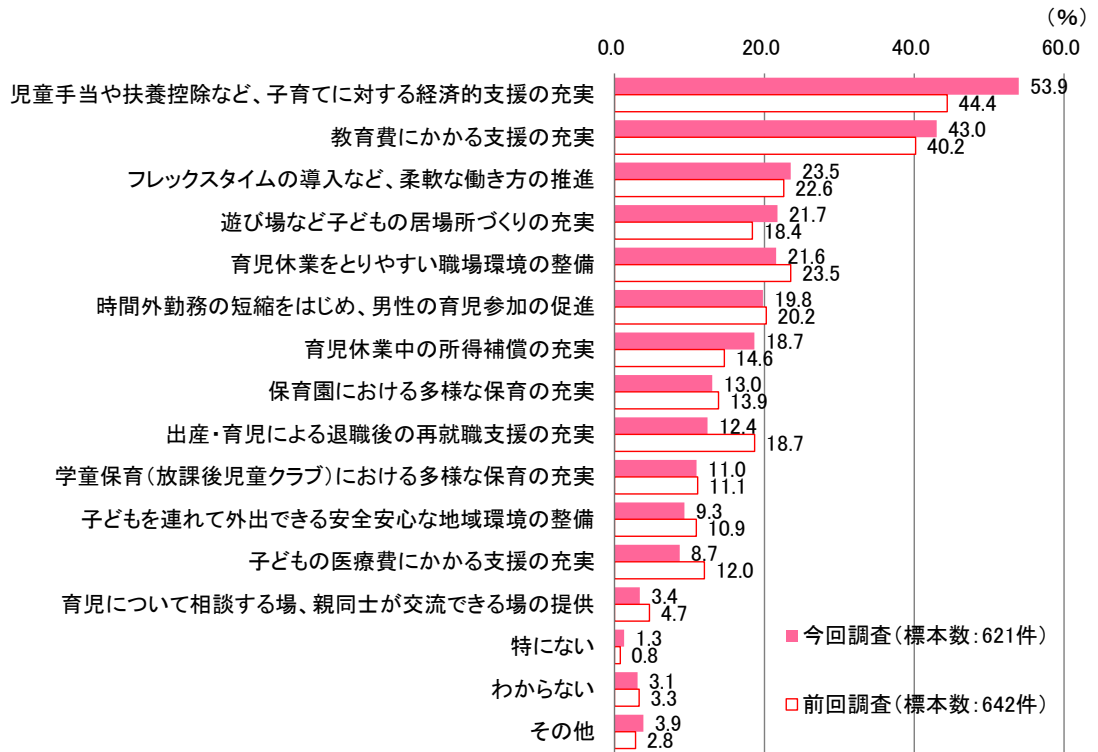
- 子育て中の親が働く上で課題になっていることは、「仕事と家事・育児の両立が体力・時間的に難しい」が61.2%で最も高く、次いで「子育てに十分な時間をかけることができない」が39.1%、「子どもの病気など急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない」が28.5%の順となっており、前回調査と概ね同様の傾向である。
- 前回調査と比較して「子どもが病気の時や急な残業に対応してくれる保育サービスがない」が14.4ポイント減少しており、保育サービスの不足が改善されてきていることがうかがえる。

図表 30 子育て中の親が働く上で課題になっていること [複数回答]



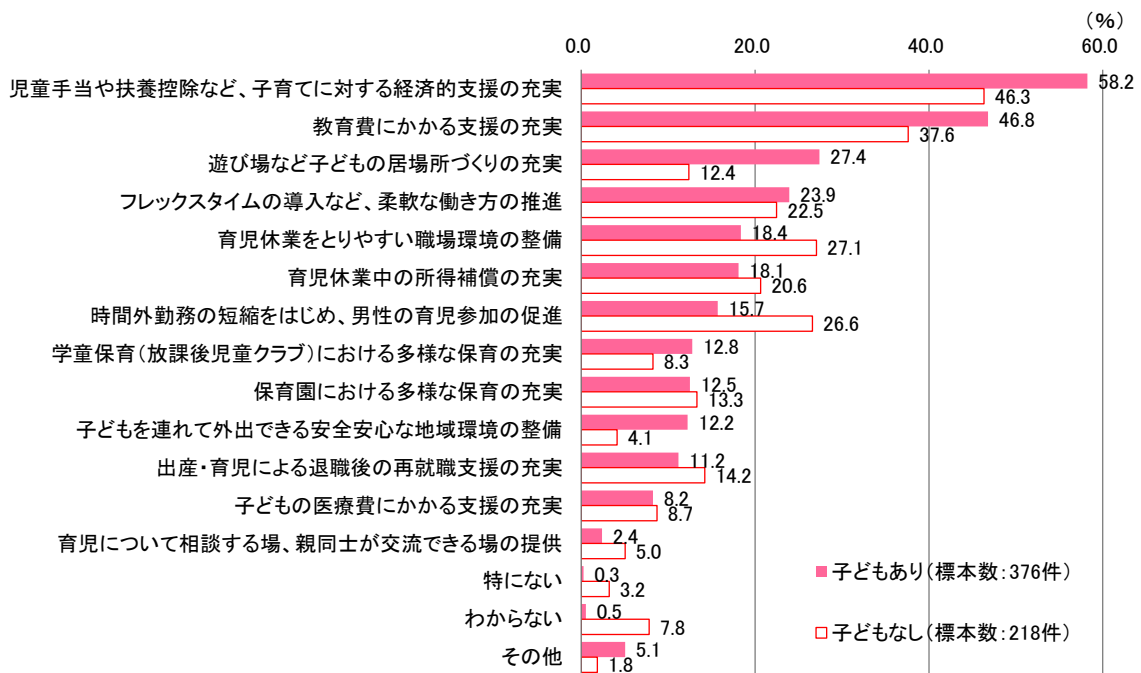
- 重要だと考えている子育て支援策は、「児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援の充実」が53.9%で最も高く、次いで「教育費にかかる支援の充実」が43.0%となっており、経済的支援を求める声が上位を占めている。前回調査とほぼ同様の傾向である。

図表 31 重要だと考えている子育て支援策 [複数回答]



- 子どもの有無別に重要だと考えている子育て支援策をみると、子どもがいる回答者では「児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援の充実」が 58.2%で最も高く、次いで「教育費にかかる支援の充実」が 46.8%、「遊び場など子どもの居場所づくりの充実」が 27.4%の順となっている。
- 子どもがいない回答者では、「児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援の充実」が 46.3%で最も高く、次いで「教育費にかかる支援の充実」が 37.6%、「育児休業をとりやすい職場環境の整備」が 27.1%の順となっている。

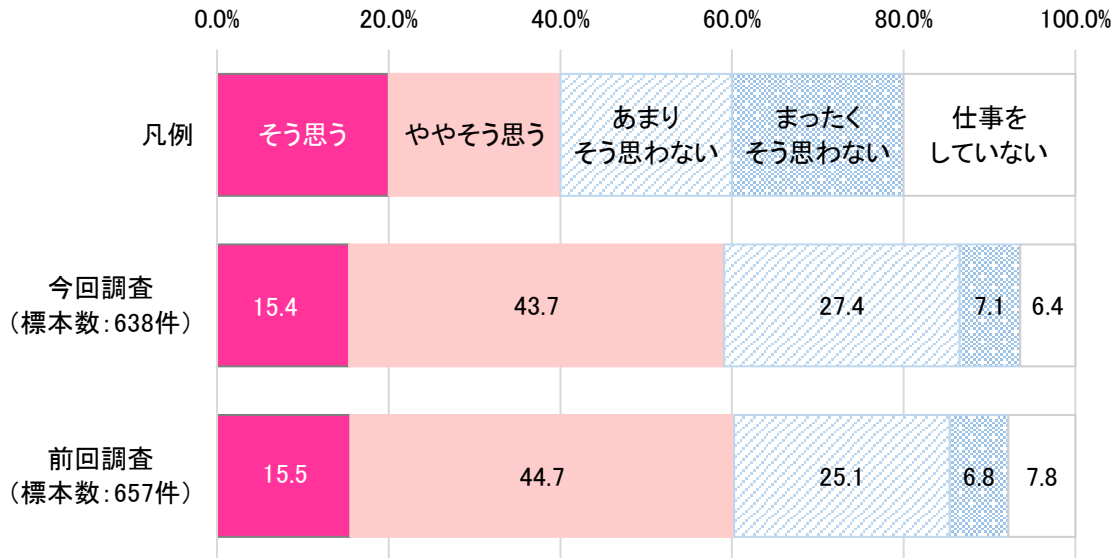
図表 32 子どもの有無別 重要だと考えている子育て支援策 [複数回答]



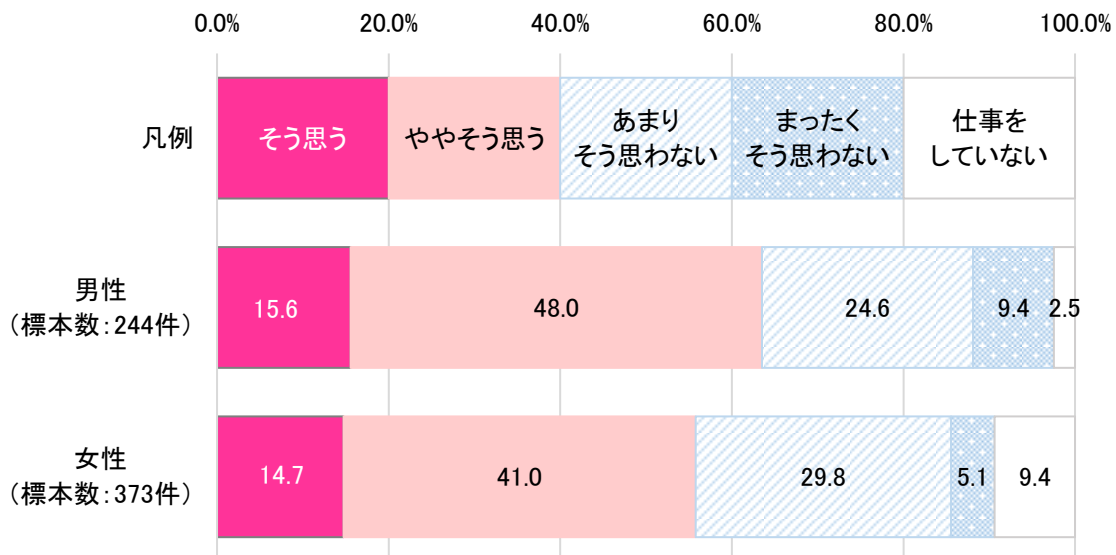
(5) ワーク・ライフ・バランスについて

- 仕事と生活の調和がうまく取れているかについては、「ややそう思う」が最も高く 43.7%、次いで「あまりそう思わない」が 27.4%となっている。
- 男女別でみると、男性の方が「そう思う」、「ややそう思う」の合計が高い。女性は「あまりそう思わない」が 29.8%となっており、男性よりも 5.2ポイント高くなっている。

図表 33 仕事と生活の調和はうまく取れているか

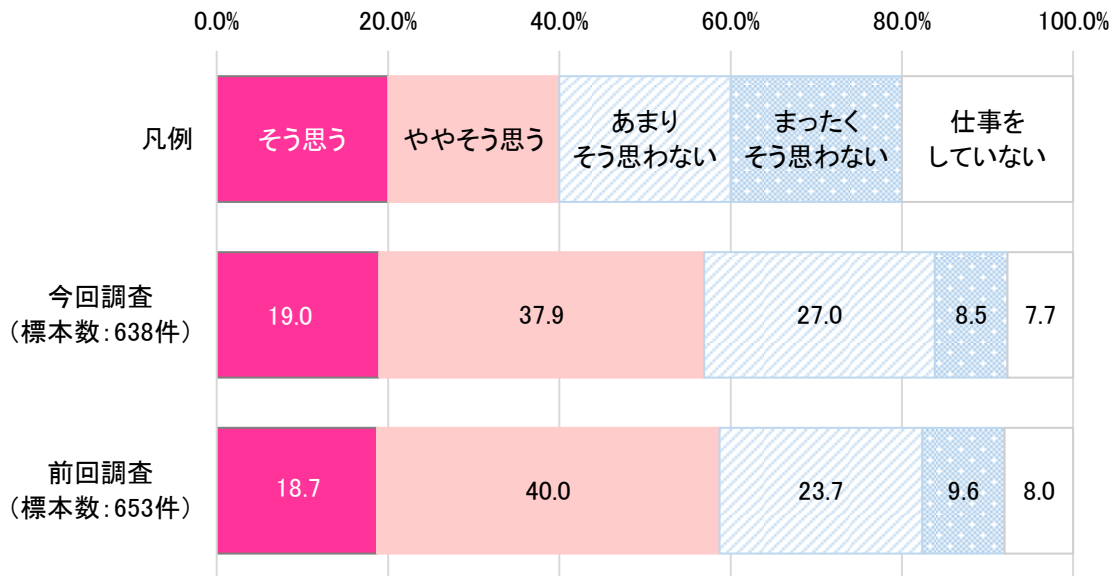


図表 34 性別 仕事と生活の調和はうまく取れているか

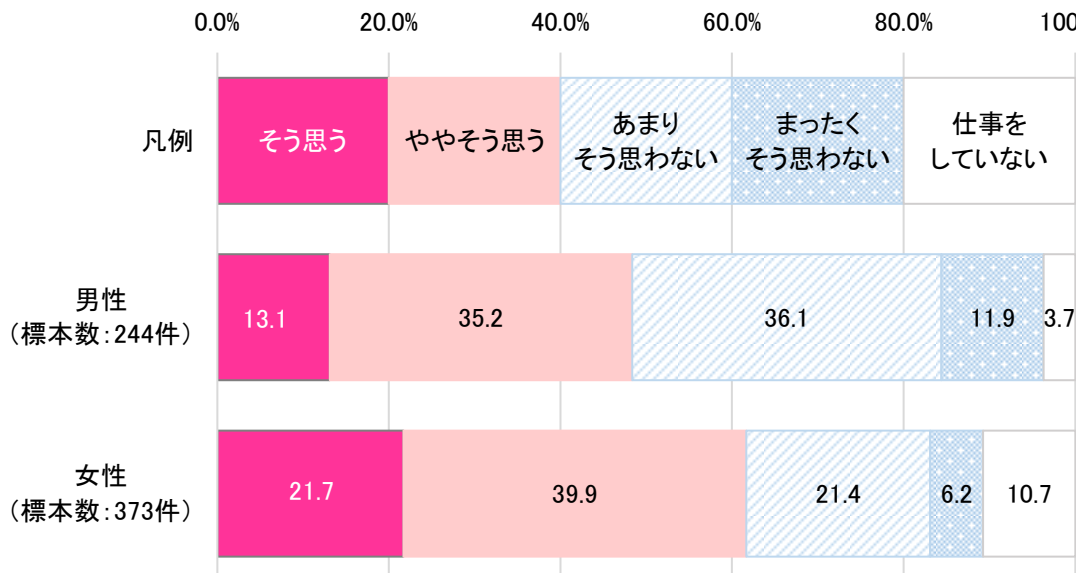


- 自身の職場は子育てをする人にとって働きやすいかについては、「そう思う」が19.0%、「ややそう思う」が37.9%で、合わせて56.9%となっている。一方、「あまりそう思わない」は27.0%となっており、前回調査から微増している。
- 男女別にみると、子育てをする人にとって働きやすい職場とは「あまりそう思わない」の回答は、男性が女性の約1.7倍の36.1%、「まったくそう思わない」は約2倍の11.9%となっている。

図表 35 あなたの職場は子育てをする人（男女問わず）にとって働きやすいか

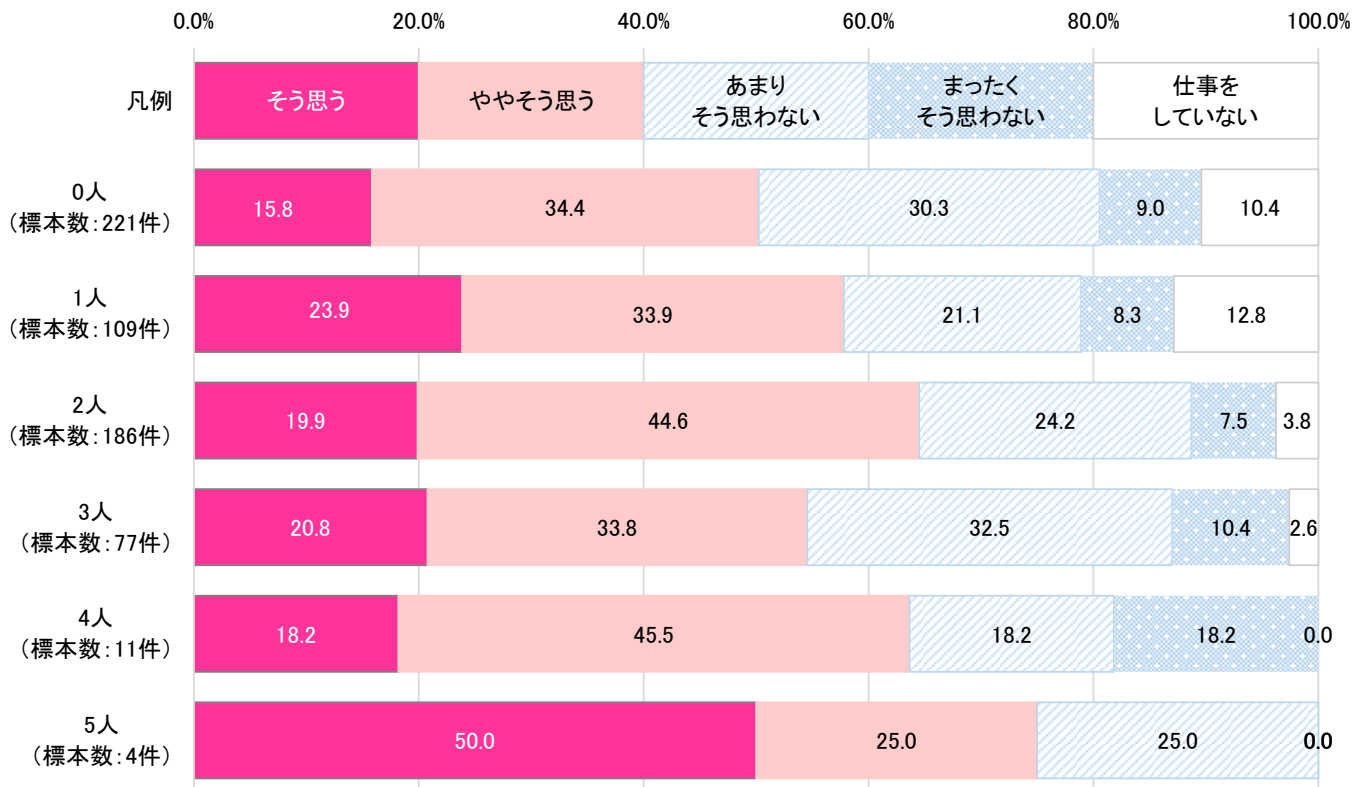


図表 36 性別 あなたの職場は子育てをする人（男女問わず）にとって働きやすいか



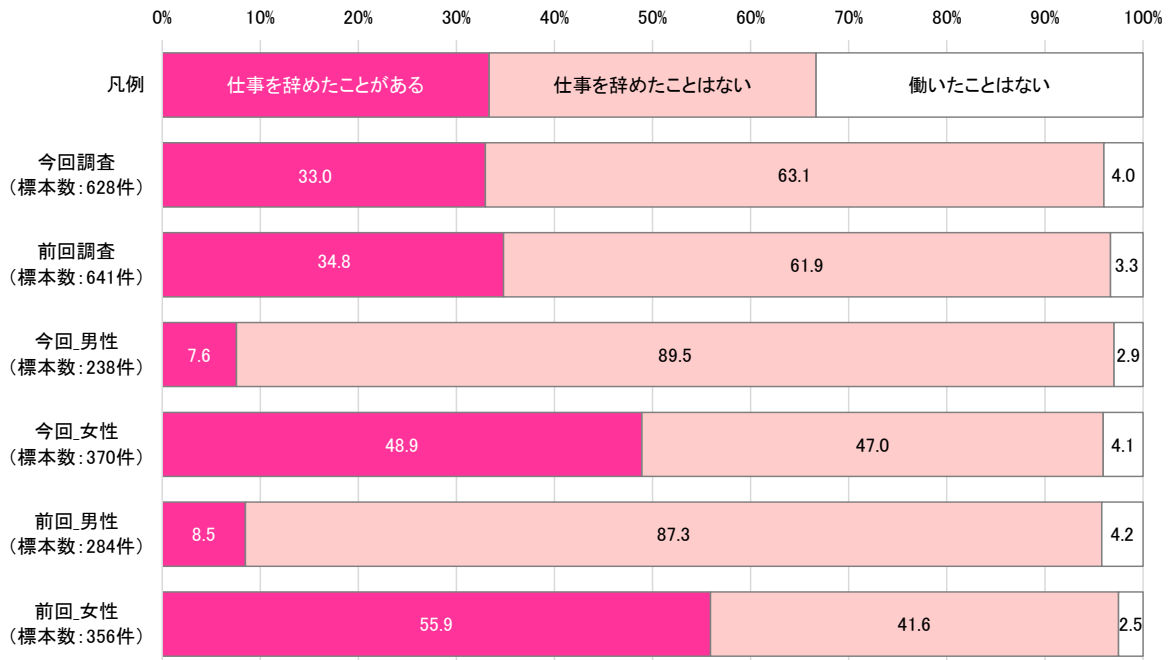
- 子どもの人数別でみると、子どもを持つ回答者は、子どもを持たない回答者と比較して「そう思う」、「ややそう思う」の合計が多くなっており、子どもを持つ人にとっては働きやすいと回答している人が多い。

図表 37 子どもの人数別 あなたの職場は子育てする人（男女問わず）にとって働きやすいか

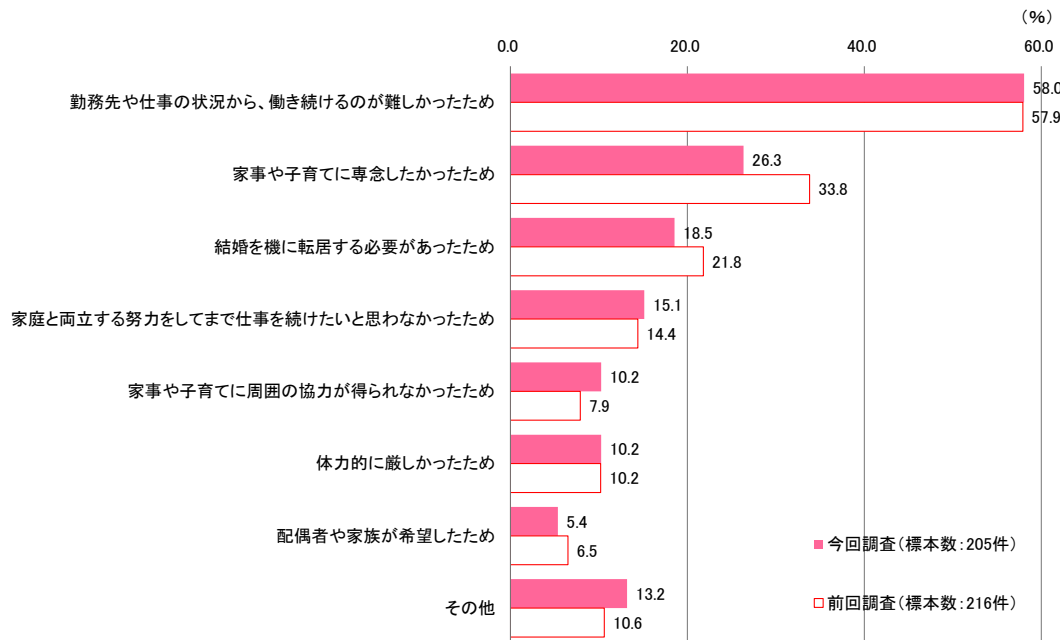


- 結婚・出産・子育てを機に仕事を辞めたことがある人は、全体で 33.0%となっている。女性では 48.9%が「仕事を辞めたことがある」と回答している。
- 辞めた理由としては、「勤務先や仕事の状況から、働き続けるのが難しかったため」が 58.0%で最も高く、次いで「家事や子育てに専念したかったため」が 26.3%となっている。

図表 38 結婚・出産・子育てを機に仕事を辞めたか



図表 39 【仕事を辞めたことがある人】仕事を辞めた理由 [複数回答]

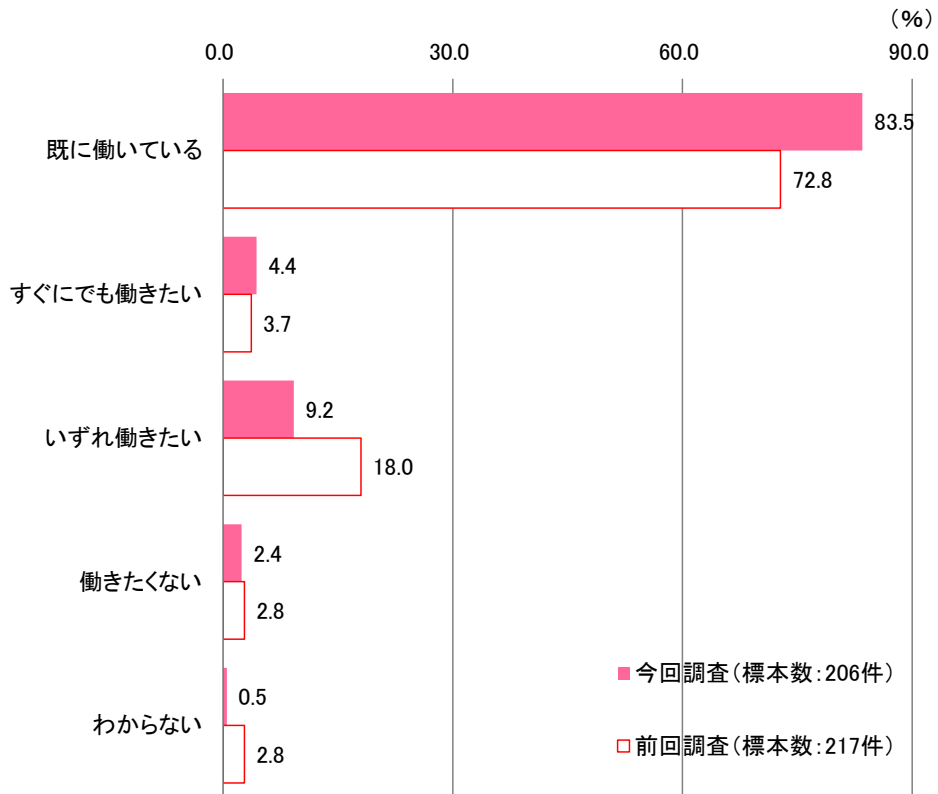


※「その他」の内容

- ・「勤務先に産休・育休制度がなかったため」、「出身地や異なる地域で子育てをしたかったため」など

- 仕事を辞めた人のうち、「既に働き始めている」が83.5%で最も高く、次いで「いずれ働きたい」が9.2%、「すぐにでも働きたい」が4.4%の順となっている。

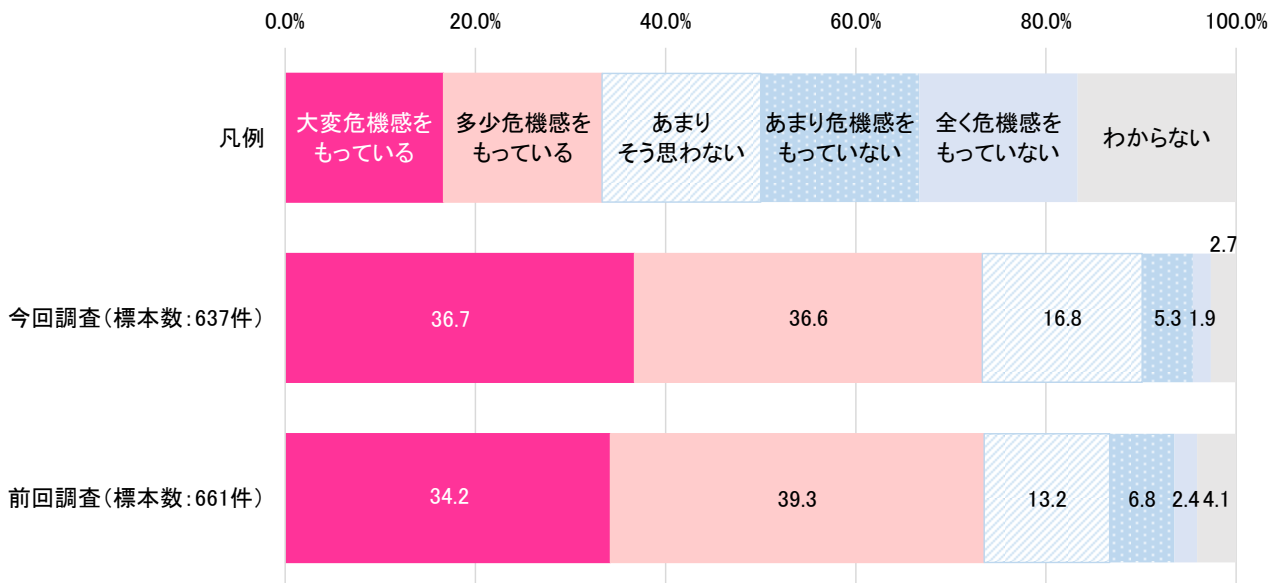
図表 40 【仕事を辞めたことがある人】再び働きたいか



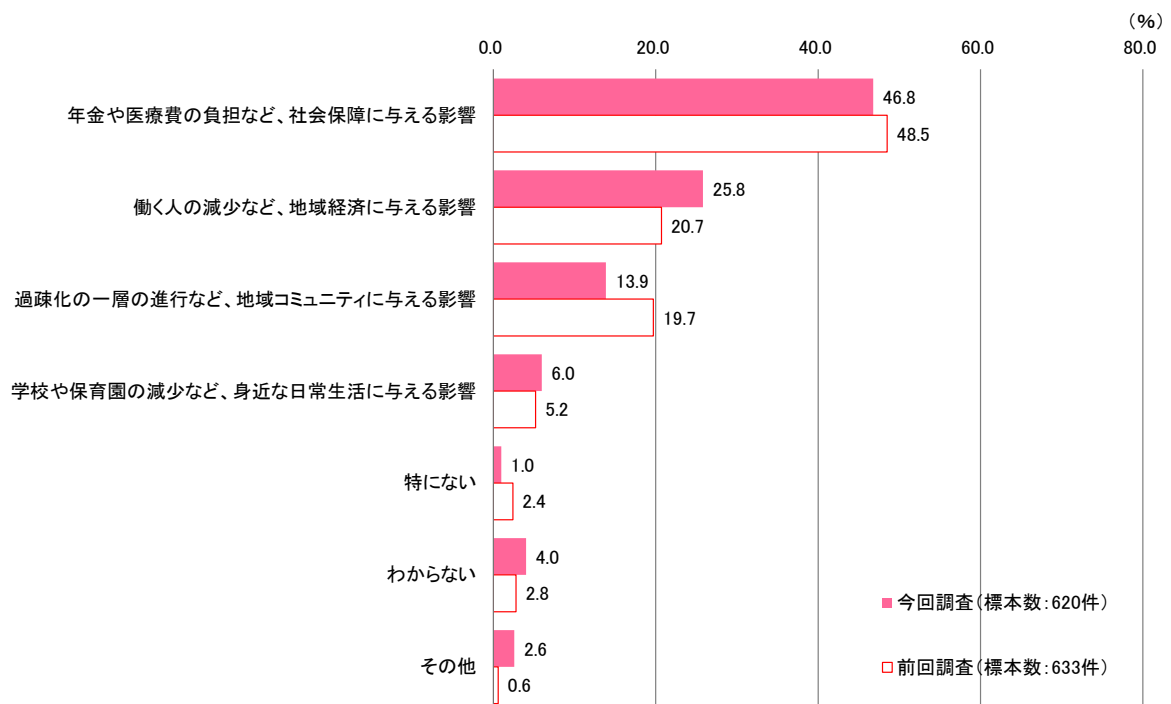
(6) 少子化について

- 少子化傾向への危機感については、「大変危機感をもっている」と「多少危機感をもっている」を合わせて、7割以上が危機感をもっていると回答しており、前回調査とほぼ同様の傾向である。
- 人口減少が地域に与える影響としては、「年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響」が46.8%で最も高いが、前回調査から1.7ポイント減少しており、一方、「働く人の減少など、地域経済に与える影響」が5.1ポイント増加している。

図表 41 少子化傾向への危機感

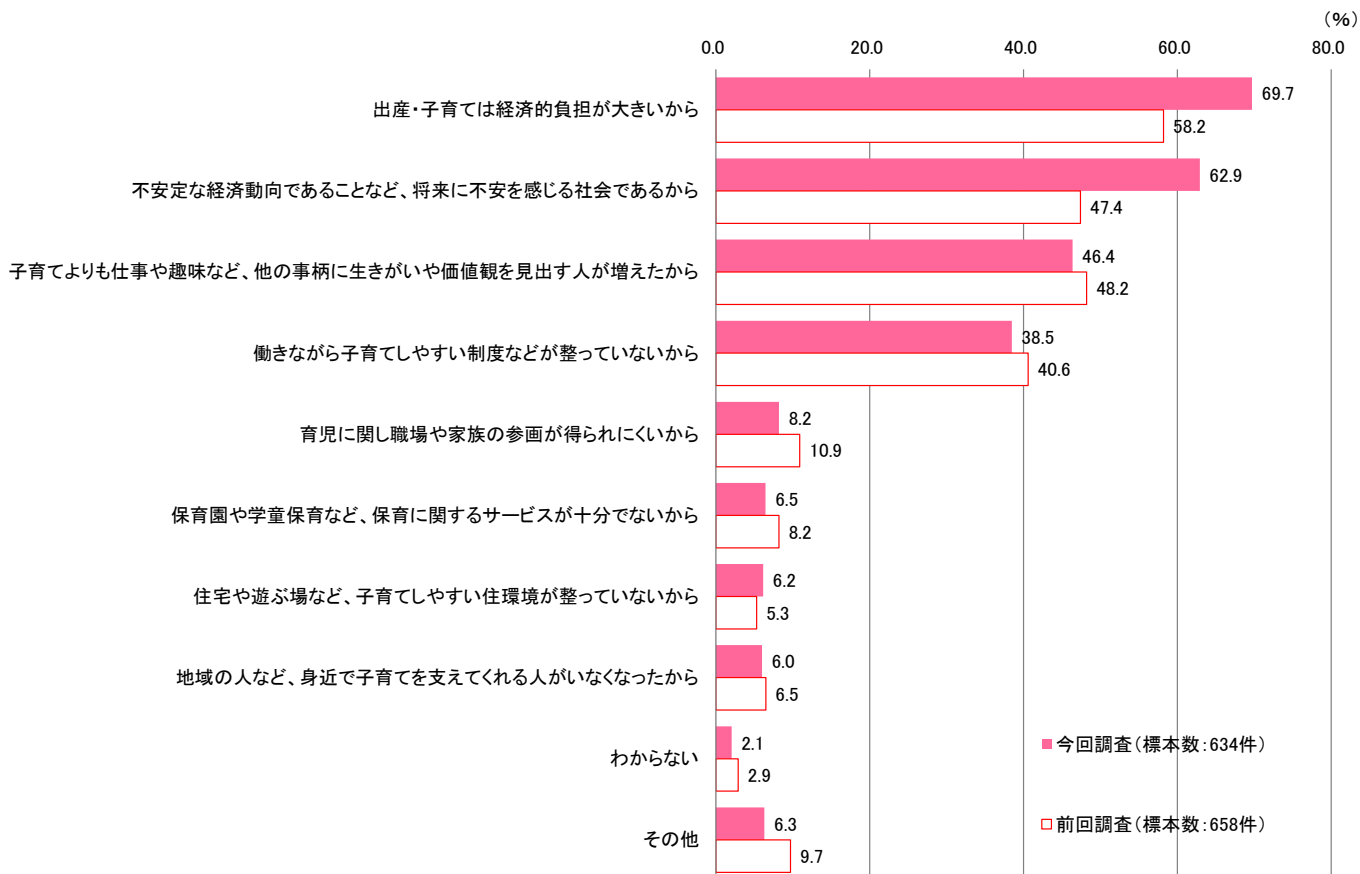


図表 42 人口減少が地域に与える影響



- 出生率が低い主な原因としては、「出産・子育ては経済的負担が大きいから」が69.7%で最も高く、次いで「不安定な経済動向であることなど、将来に不安を感じる社会であるから」が62.9%、「子育てよりも仕事や趣味など、他の事柄に生きがいや価値観を見出す人が増えたから」が46.4%の順となっている。経済的な理由のほか、価値観の変化なども理由としてあげられており、前回調査とほぼ同様の傾向となっている。

図表 43 出生率が低い原因 [複数回答]



【結婚】

● 出会いの場に関する意見

- ・ 結婚したいが中々出会いがない。
- ・ 残業時間が多く、出会いに時間を割けないという友達もいた。
- ・ 独身者が仕事終わりに参加しやすいサークル活動があると出会いの場になると思う。
- ・ 出会いの場の知名度を上げた方がいいと思う。
- ・ 最近は、マッチングアプリでの出会いも多いと聞くが、市独自のマッチングサイトみたいなもの（気になる人と安全に気軽にやりとりできる機能）があると、より気軽に参加できる人が増えるのではないかと思う。

● 結婚・子育て・現状の生活の不安

- ・ 給料もそれほど良くないので、結婚したくても出来ない。子どもを産みたくても産めない。子どもを育てられないということだと思う。
- ・ 物価高騰が続く中、給料は上がりず、配偶者の扶養控除を考えて働かなくてはいけない状況で、子どもの教育費は年々増える（かかる）ため、子どもを持ちたいと思えない人たちは多いと思う。
- ・ 周りの人たちはみなさんお金がないので、子どもを産むことを諦めている。子どもを産んでも希望する教育を受けさせるお金がない。

● 行政への要望

- ・ 教育費のことを考えると、本当にこの先どうしていいのかわからない。電気代の補助、高校無償化、ガソリン代の補助など、何とかならないだろうか。
- ・ 保育園や小学校などの給食費の無償化をお願いしたい。
- ・ 結婚しないという選択をした人を除き、私の身の回りにおいて結婚しない人のその理由は、「したくてもできない」「する余裕がない」の2つある。したくても出来ないという点については個人の問題もあるが、する余裕がないという点については、結婚・出産・育児への支援や、結婚のメリットを打ち出すことで、結婚した方が得だと思わせることが出来れば十分に解消が出来るのではないかと思う。国・県および市の政策に期待している。
- ・ 明石市のような子育てがしやすい成功例を参考に、ぜひ子育てがしやすいまちづくりを期待したい。

【出産】

● 職場環境に関する不満・不安

- ・アンケートを実施して、市が育児しやすいまちに変わったとしても、仕事との両立は職場環境によって得られるものなので、仕事場（会社）自体が制度を変えない限り、育児のしやすい状況にはならない。
- ・育児をしながら仕事を両立できそうな職場の求人が、特定の業界に偏っている。働きやすい環境、制度を全業界に広めてほしい。
- ・お金の面において、多くの方は共働きが必須だと思う。中小企業が多いこの地域で大企業のようにはいかないが、企業の体制の確立は重要かと思う。
- ・両親が共働きで、同居の祖父母もいない場合、急な病気、子どもの行事等、休まなくてはいけない場面で、有給休暇を消費しないといけないところも多く、本来、心身の休息を取るための有給をあてないといけないのは悲しい。

● 経済的不安

- ・結婚、出産のときはパートだったので、辞めなければならなく、辞めたら収入が減ったので大変だった。保育園の年少から預けて働きたかったが、経済的に辛かったので未満児から預けて働いた。正社員じゃなくても育休中などにもらえる収入がほしかった。
- ・そもそも、物価の高騰や経済的不安定による事から、子どもを作り育てるのが難しくなっていると思う。
- ・基本的に子育てしやすいまちであると思う。しかし、働き口の少なさ、賃金の低さなど仕事に関してはかなり遅い動きに思う（県外からこちらに転入したため）。そのため、子どもをもつことに不安があり実際、子をもつ自分自身や周りの多くの人もお金の面では悩ましい所がある。

● 医療環境・不妊治療に関する不満・意見

- ・子育てに関して、幼い時から身体に心配（体調不良）があった時に、「小児科にかかりたい！」と思っても、小児科の数が少ない（検査をしてくれる）、休日・夜間は日赤のみと、頼りたい時に受け皿が小さいと感じる。
- ・飛騨には体外受精できる病院がないので、高い交通費をかけて通院している。子どもを産む時や産んで育てる支援も大切だが、市にもたくさん子どもを望んでいる方たちがいる。不妊治療費の助成について、継続して支援して頂きたいのと、早急に助成金の受け付けを開始することを望む。
- ・キャリアのために晩婚化や子どもを臨む（臨める）タイミングが遅くなっており、不妊治療をしている（したい）人が周りに多い。市には、不妊治療に十分な知識のあるクリニックがなく、富山県や岐阜市の方に出向いて治療を行っている人がたくさんいる。働きながらだと、時間的にも経済的にもとても負担になる。産婦人科も少なく、医療の拡充も必要だと思う。
- ・市内の開業医（小児科、耳鼻科、皮膚科）の先生方が年配の方が多いため、この先が不安である。耳鼻科などを増やしてほしい。小児科クリニックの医師の高齢化は子どもを産み育てるのに大きな障壁になっているし、実際にママ友の中の会話でも不安をよく耳にする。
- ・妊婦検診の時期は自己負担が多く、補助券があっても胎児の検査等で1万円ほどの自己負担がかかる場合がある。自己負担分も補助金が出るとありがたい。

【子育て】

●子育てと仕事との両立に関すること

- ・市は、子育てしやすい所だと思うが、仕事はできても家の家事は追いつかない。安く利用できるベビーシッターや家事代行があればと常々思っている。夫婦2人で子ども2人を育てているが、家の事を手伝ってくれる人がいたら3人目を迎えたいと思っている。
- ・子育てをしながら働くことが前提になっているが、仕事・家事・育児の両立は、物凄く大変である。もっと育児に専念できる環境があると良いと思う。
- ・子どもの急な発熱時に診てもらえる病院が少なく、開院時間前に小児科へ行っても診てもらえないこともある。診て貰えても診察までかなり時間を要したり、病児保育もあるが定員が少なかったり、仕事と育児の両立が難しい。物価の上昇や老後への不安から共働きしないと生活が成り立たない状況のため働きたいと思うが、育児との両立が叶う職場が少ないと思う。
- ・児童館や公園で出会う母親たちの多くは、なぜか職場で育休制度を使わずに（ここもいろいろ問題がありそう）一度退職されて、もう一度働きたくても未満児を預けるハードルが高くて二の足を踏んでいた。

●男性の育児への積極的参加

- ・飛騨市から転入してきたが、子育てに関しては、飛騨市のようにもっと充実させてほしい。全てにおいて、まだまだ女性の仕事であるなど、女性に負担が多いため、男性は協力しやすい社会になってほしい。
- ・男性がもっと子育てや家事をすることが、当たり前になるといいと思う。男性が妊婦の体験をしたり、父親もオムツ替えやミルク作りができるような研修があったりすると良い。

●保育園・学童保育に関すること

- ・長期休みの学童をもう少し時間を早めて欲しい。毎日遅刻は仕事上厳しい人も多いのではないかと思います。子育てはお金もかかるのでそのあたりの充実をお願いしたい。
- ・子どもができてから、子育てに専念するため職場を離れたが、働いている店は夜も営業しているため、子どもを預ける所がない。夜間保育所など、夜も子どもを保育してもらえる施設があればと思っている。
- ・保育園のおかげで働くことができおり、保育士の方々には大変感謝している。現在子どもが通っている保育園で保育士が不足しているとのことで、末っ子は現在待機児童の1人となっている。願うことは、保育士さんが働きやすい環境であってほしい。ぜひ保育士の給与や働き方の見直しをお願いしたい。
- ・幼児から小学校位までの間で突発的な事象が発生した時に、一時的に預けられる施設があればよいと思う。春、夏、冬休み中の学童にも、希望者には給食を導入して欲しい。
- ・希望する保育園へ未満児での年度途中入園が難しいため、次の年度に入園させた等の話をよく聞く。自分自身も潜在保育士であるため、保育士の確保と言われると心苦しいが、保育の充実をしてもらいたい。

●公園・遊び場・施設に関すること

- ・近くに子どもが遊べる公園がなく、昔みたいに友達同士で待ち合わせして遊ぶということがな

く毎日家にいるし、遊びに行くとしても「友達の家」になってしまって送り迎えや遊ぶ家の人の負担等、親の負担なしで子どもが遊べない。

- ・冬は雪が多く、降る日も多いので、子どもが小さいと遊びに連れていける場所も限られてしまう。雨や雪の日など室内で遊べる場所があるといいと思う。
- ・温暖化のため、外に出て公園等で遊びたいが、遊具が熱すぎて危険を感じることもある。今後さらに予想されるため、室内でも沢山体を動かして遊べる施設がほしい。
- ・小さい子どもを連れて遊びに行ける（行きやすい）場所が市内に少なく、市外に行くことが多い。市内にあるとありがたい。市内のホテルに市民割引で子どもを連れて入浴できたりすると、気分転換になると思う。
- ・大型ショッピングモール、映画館、遊園地、動物園、美術館、博物館等がないため、市外・県外に行かざるを得ない。魅力ある大型ショッピングモールや全国展開の飲食店を誘致してほしい。
- ・支所などに沢山の図書館があるためどの程度利用されているのかわからないが、もっと子どもの頃から絵本に親しめる環境があれば嬉しい。
- ・市内には子どもが安全で安心して遊べる場が少なく、時間がある時は富山や岐阜市の方へ遊びにいった。富山や岐阜のファミリーパークのような場所があればいいなと思った。理想はトイレが整備されている、屋根などがあり、夏でも遊べる。有料の場合は低価格が良い。

3 地方移住に関する市民アンケート調査結果

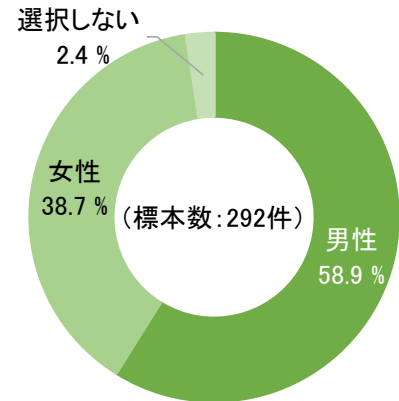
(1) 回答者の属性

- 回答者の性別は、58.9%が男性、38.7%が女性、2.4%が選択しないとなっている。
- 回答者の年代は、20代が32.1%、30代が23.6%の順となっている。
- 居住地域は、「高山地域」が78.8%で最も高くなっている。

図表 44 性別

	回答数(件)	回答率(%)
男性	172	58.9
女性	113	38.7
選択しない	7	2.4
合計	292	100.0

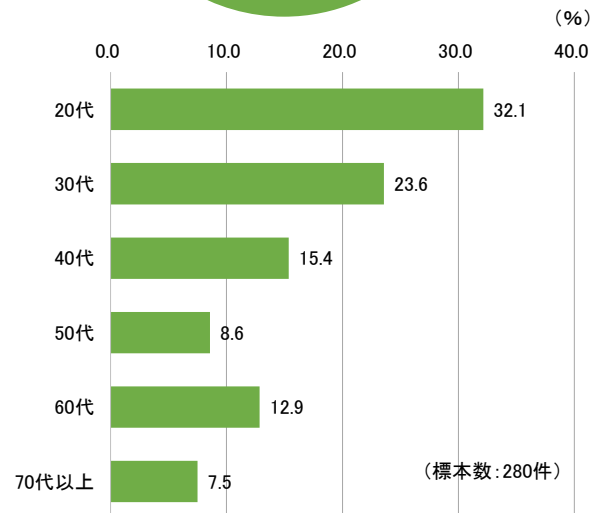
(標本数:292件)



図表 45 年代

	回答数(件)	回答率(%)
20代	90	32.1
30代	66	23.6
40代	43	15.4
50代	24	8.6
60代	36	12.9
70代以上	21	7.5
合計	280	100.0

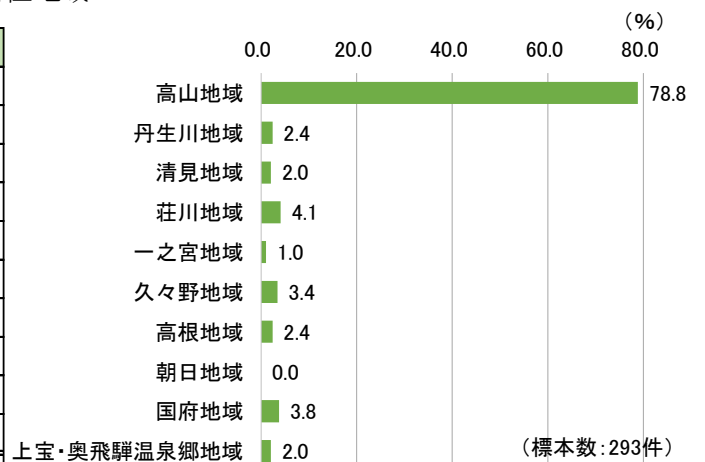
(標本数:280件)



図表 46 居住地域

	回答数(件)	回答率(%)
高山地域	231	78.8
丹生川地域	7	2.4
清見地域	6	2.0
荘川地域	12	4.1
一之宮地域	3	1.0
久々野地域	10	3.4
高根地域	7	2.4
朝日地域	0	0.0
国府地域	11	3.8
上宝・奥飛驒温泉郷地域	6	2.0
合計	293	100.0

(標本数:293件)

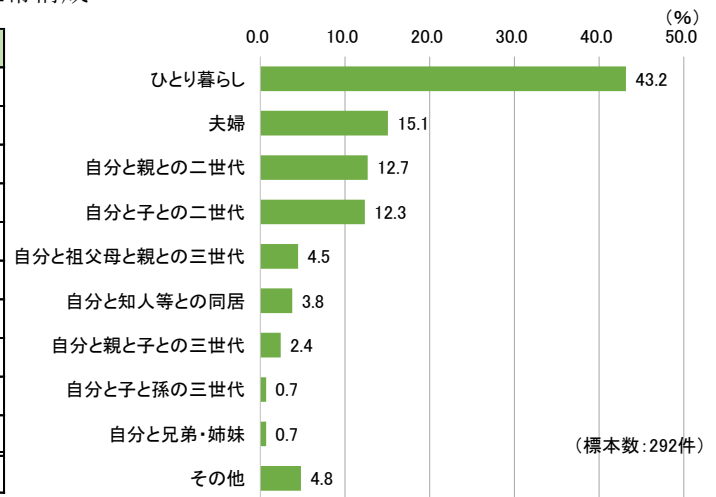


- 世帯構成は「ひとり暮らし」が最も高く 43.2%、次いで「夫婦」が 15.1%、「自分と親の二世帯」が 12.7%、「自分と子の二世帯」が 12.3%の順となっている。
- 配偶者は 65.5%が「いない」と回答している。

図表 47 世帯構成

	回答数(件)	回答率(%)
ひとり暮らし	126	43.2
夫婦	44	15.1
自分と親との二世帯	37	12.7
自分と子の二世帯	36	12.3
自分と祖父母と親との三世帯	13	4.5
自分と知人等との同居	11	3.8
自分と親と子との三世帯	7	2.4
自分と子と孫の三世帯	2	0.7
自分と兄弟・姉妹	2	0.7
その他	14	4.8
合計	292	100.0

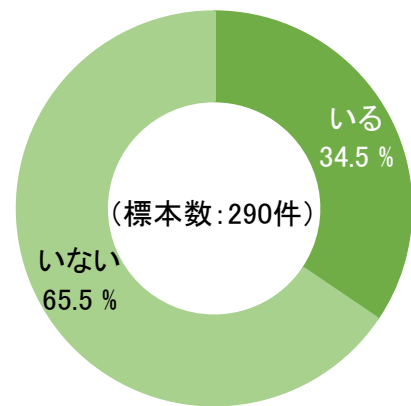
(標本数: 292件)



図表 48 配偶者有無

	回答数(件)	回答率(%)
いる	100	34.5
いない	190	65.5
合計	290	100.0

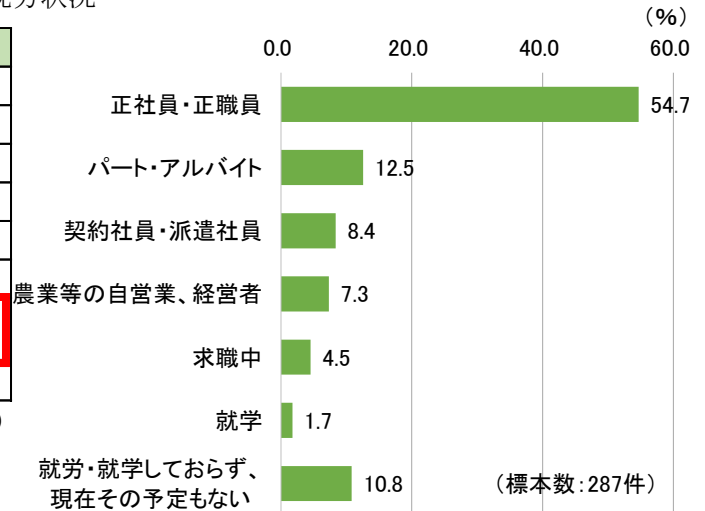
(標本数: 290件)



- 就労状況は、「正社員・正職員」が54.7%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」が12.5%となっている。
- 最終学歴は、「大学」が43.2%で最も高く、次いで「高等学校」が23.3%となっている。

図表 49 就労状況

	回答数(件)	回答率(%)
正社員・正職員	157	54.7
パート・アルバイト	36	12.5
契約社員・派遣社員	24	8.4
農業等の自営業、経営者	21	7.3
求職中	13	4.5
就学	5	1.7
就労・就学しておらず、 現在その予定もない	31	10.8
合計	287	100.0

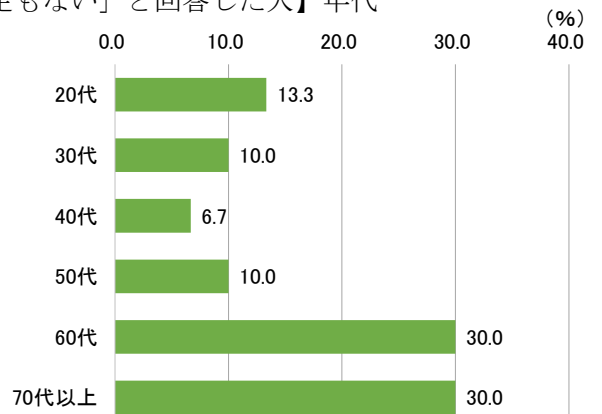


(標本数:287件)

(標本数:287件)

図表 50 【「就労・就学しておらず、現在その予定もない」と回答した人】年代

	回答数(件)	回答率(%)
20代	4	13.3
30代	3	10.0
40代	2	6.7
50代	3	10.0
60代	9	30.0
70代以上	9	30.0
合計	30	100.0

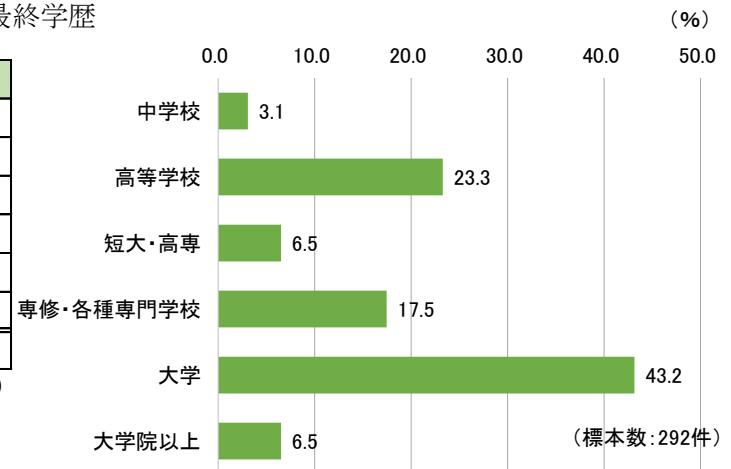


(標本数:30件)

(標本数:30件)

図表 51 最終学歴

	回答数(件)	回答率(%)
中学校	9	3.1
高等学校	68	23.3
短大・高専	19	6.5
専修・各種専門学校	51	17.5
大学	126	43.2
大学院以上	19	6.5
合計	292	100.0



(標本数:292件)

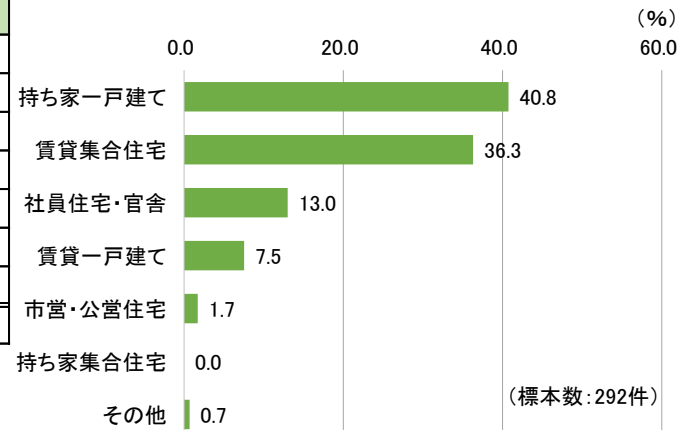
(標本数:292件)

- 住まいの種類は、「持ち家一戸建て」が 40.8%で最も高く、次いで「賃貸集合住宅」が 36.3%となっている。
- 世帯年収は、「わからない」を除くと、「200～300万未満」が 15.9%で最も高く、次いで「300～400万未満」が 14.8%、「400～500万未満」が 9.7%の順となっている。

図表 52 住まいの種類

	回答数(件)	回答率(%)
持ち家一戸建て	119	40.8
賃貸集合住宅	106	36.3
社員住宅・官舎	38	13.0
賃貸一戸建て	22	7.5
市営・公営住宅	5	1.7
持ち家集合住宅	0	0.0
その他	2	0.7
合計	292	100.0

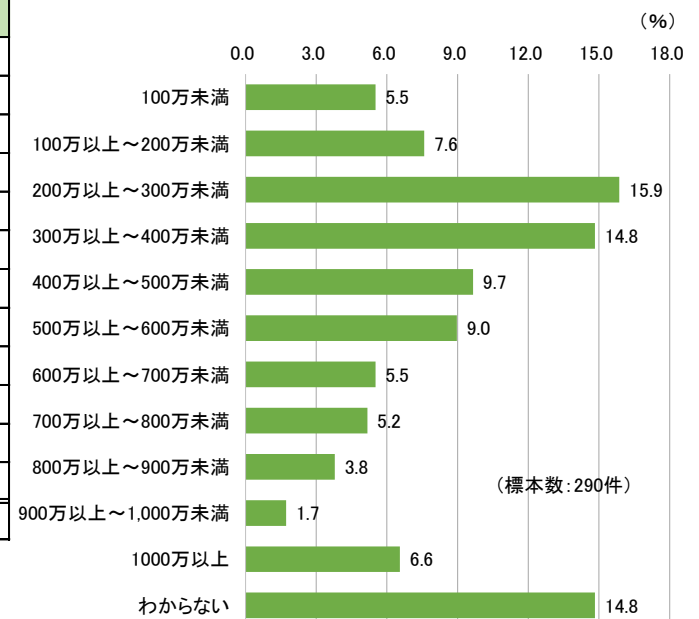
(標本数:292件)



図表 53 世帯年収

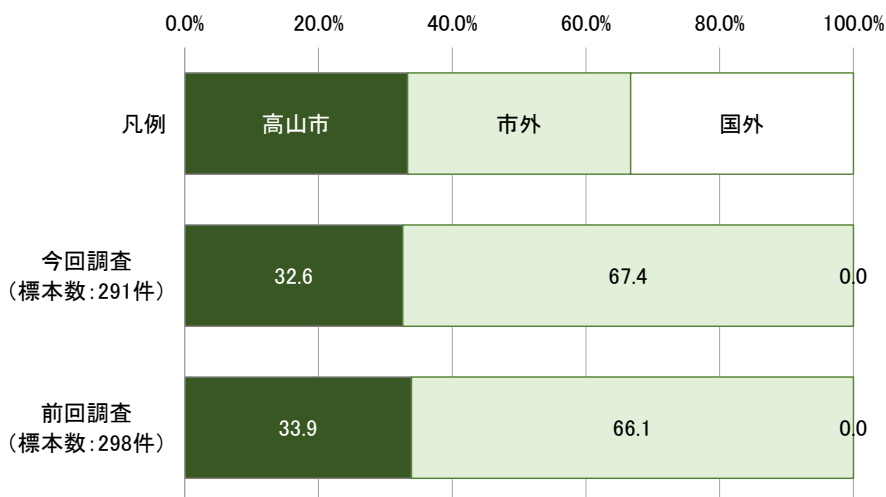
	回答数(件)	回答率(%)
100万未満	16	5.5
100万以上～200万未満	22	7.6
200万以上～300万未満	46	15.9
300万以上～400万未満	43	14.8
400万以上～500万未満	28	9.7
500万以上～600万未満	26	9.0
600万以上～700万未満	16	5.5
700万以上～800万未満	15	5.2
800万以上～900万未満	11	3.8
900万以上～1,000万未満	5	1.7
1000万以上	19	6.6
わからない	43	14.8
合計	290	100.0

(標本数:290件)



- 回答者を出身地別で見ると、「高山市」が32.6%、「市外」が67.4%となっている。前回調査と比較すると、市外出身者が1.3ポイント増えている。
- 市外出身者の出身地域をみると、「愛知県」が20.5%で最も高く、次いで「東京都」が10.0%、「岐阜県」が9.5%の順となっている。中部エリアの出身者が多いのは、前回調査と同様の傾向である。

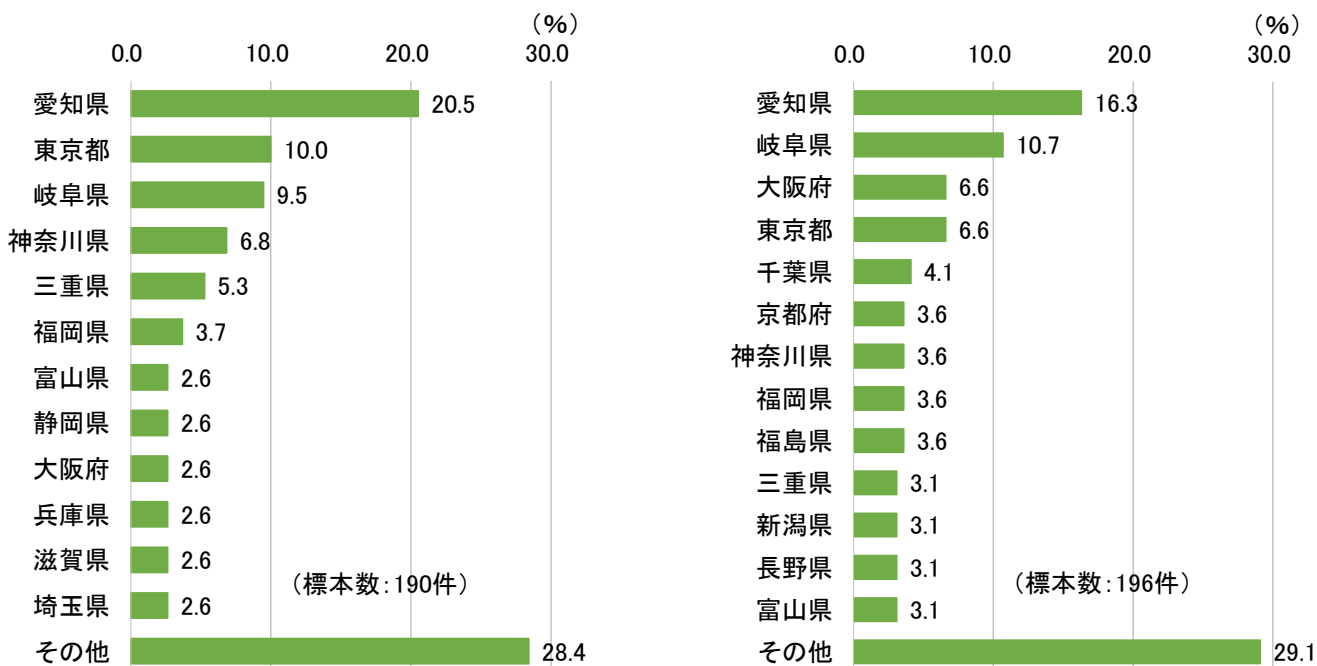
図表 54 出身地



図表 55 【市外出身者】出身地域

<今回調査>

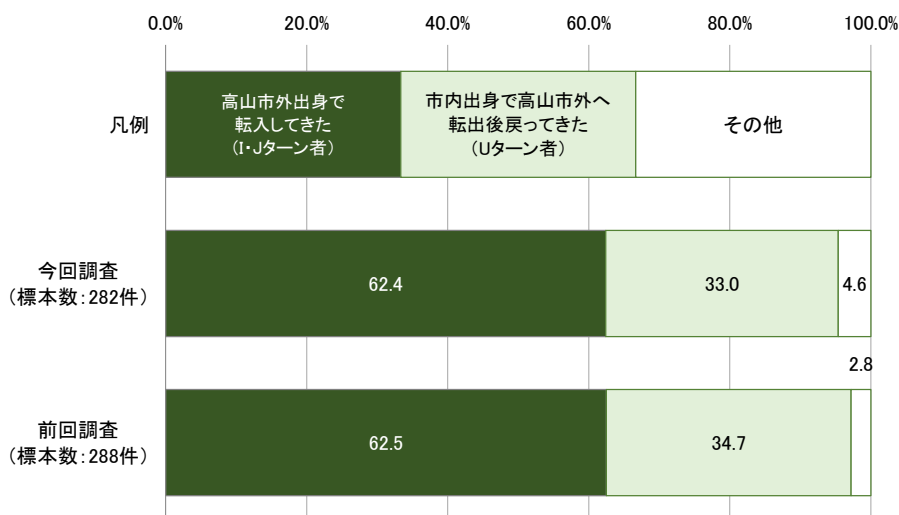
<前回調査>



(2) I・Jターン者・Uターン者の状況と特徴

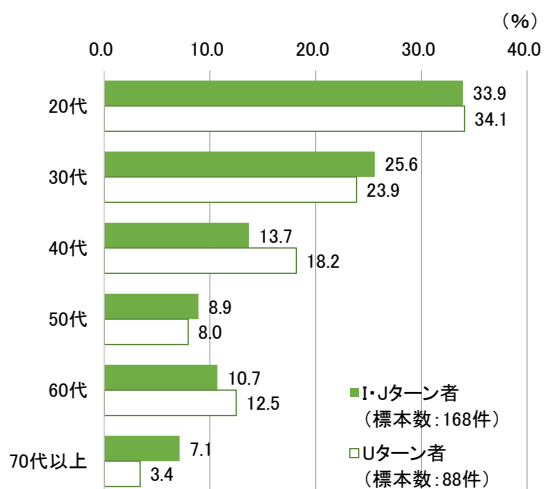
- 居住経験は、「高山市外の出身で転入してきた (I・J ターン者)」が 62.4%、「市内出身で高山市外へ転出後、戻ってきた (Uターン者)」が 33.0%となっている。
- 前回調査と比較すると、Uターン者が 1.7 ポイント減少している。

図表 56 居住経験

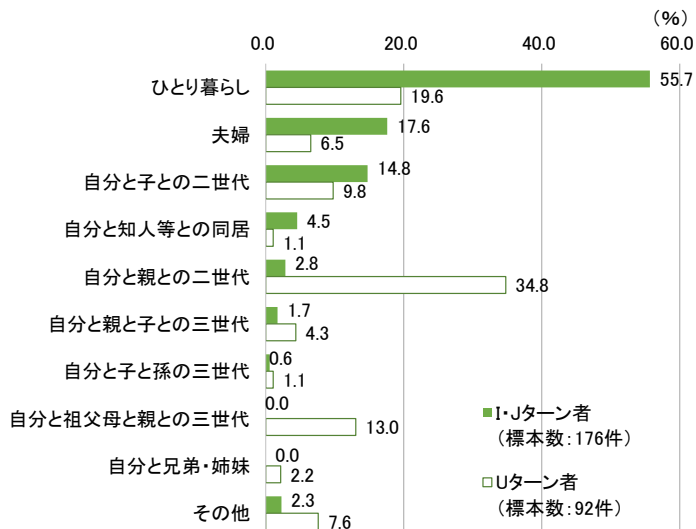


- I・Jターン者・Uターン者別に年代をみると、I・Jターン者とUターン者はどちらも20代、30代が同程度となっている。Uターン者の場合、40代と60代の割合がI・Jターン者よりも高い。
- I・Jターン者・Uターン者別の同居者をみると、I・Jターン者は「ひとり暮らし」が55.7%で最も高く、次いで「夫婦」が17.6%、「自分と子の二世帯」が14.8%となっている。Uターン者は「自分と親との二世帯」が34.8%と最も高い。

図表 57 I・Jターン者・Uターン者別 年代



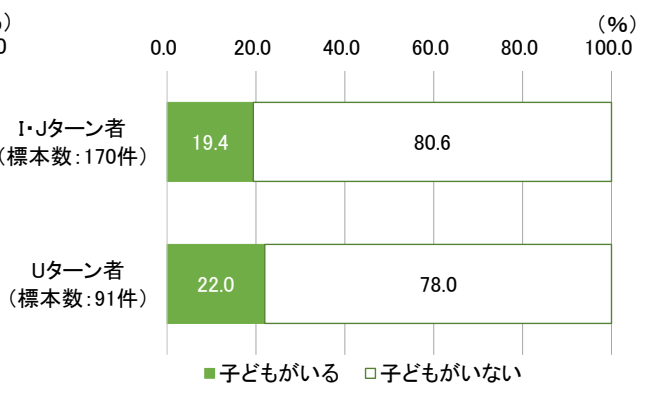
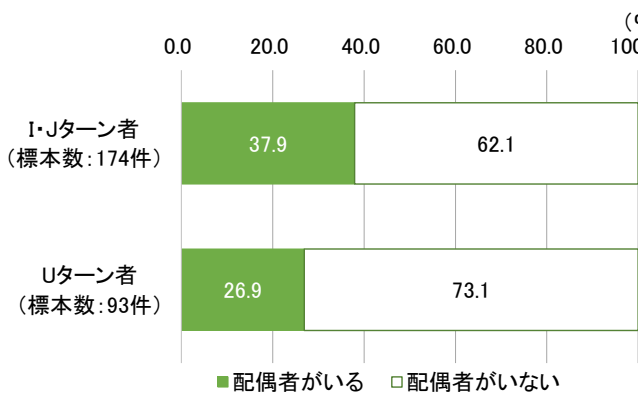
図表 58 I・Jターン者・Uターン者別 同居者



- I・Jターン者・Uターン者別に配偶者の状況をみると、配偶者がいるI・Jターン者は37.9%、Uターン者は26.9%となっている。
- 子どもの状況をみると、子どもがいるI・Jターン者は19.4%、Uターン者は22.0%となっている。
- 住まいの状況をみると、I・Jターン者は「賃貸集合住宅」が48.6%、Uターン者は「持ち家一戸建て」が79.6%で、それぞれ最も高くなっている。
- 世帯年収をみると、I・Jターン者は「200万以上～300万未満」が19.4%で最も高くなっている。Uターン者は親との同居者が多いこともあり、「わからない」が21.5%で最も高く、次いで「300万以上～400万未満」となっている。

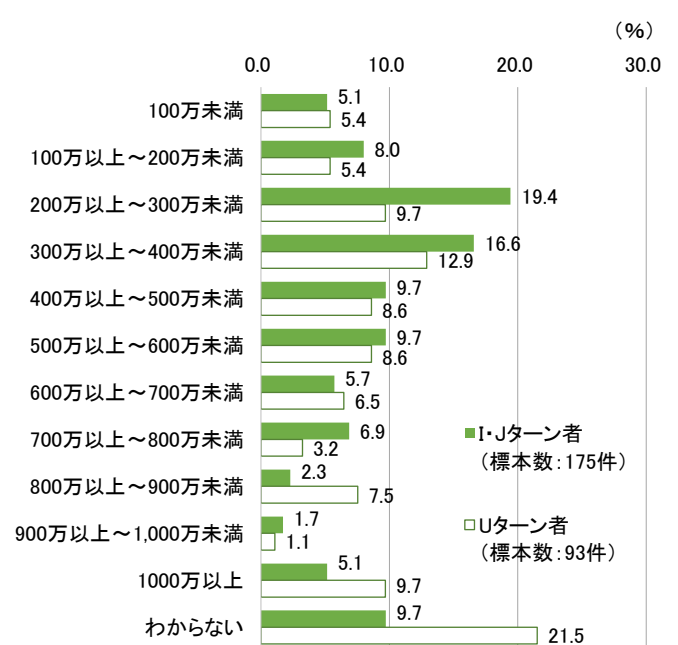
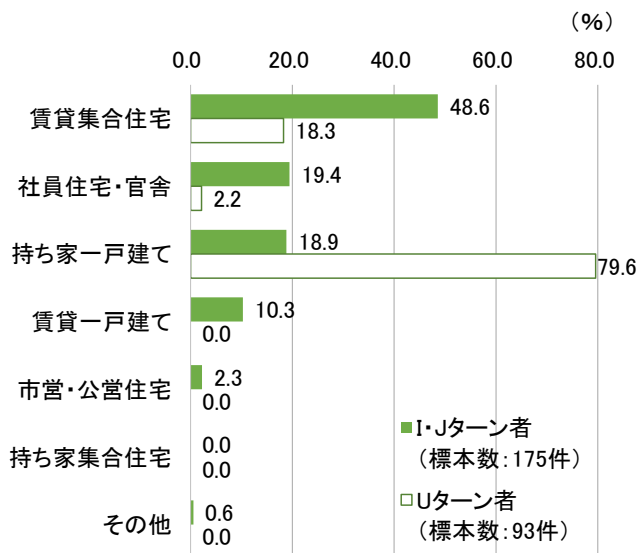
図表 59 I・Jターン者・Uターン者別配偶者の有無

図表 60 I・Jターン者・Uターン者別子どもの状況



図表 61 I・Jターン者・Uターン者別住まいの状況

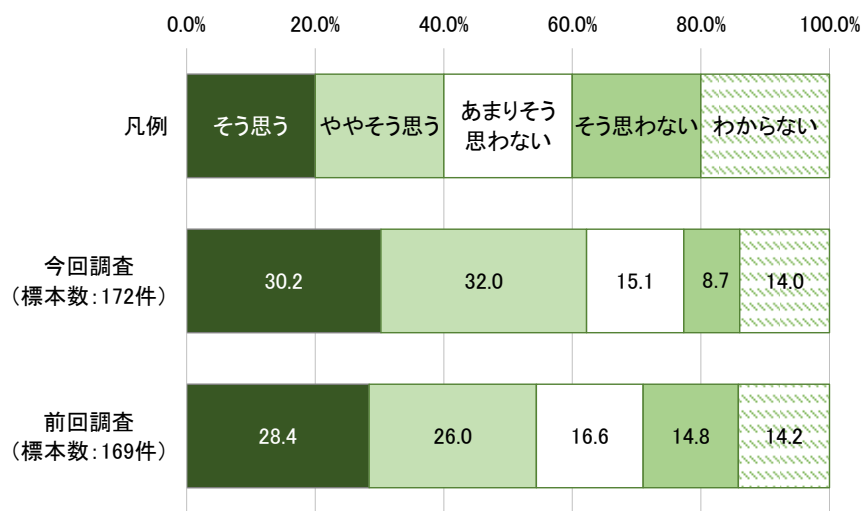
図表 62 I・Jターン者・Uターン者別世帯年収



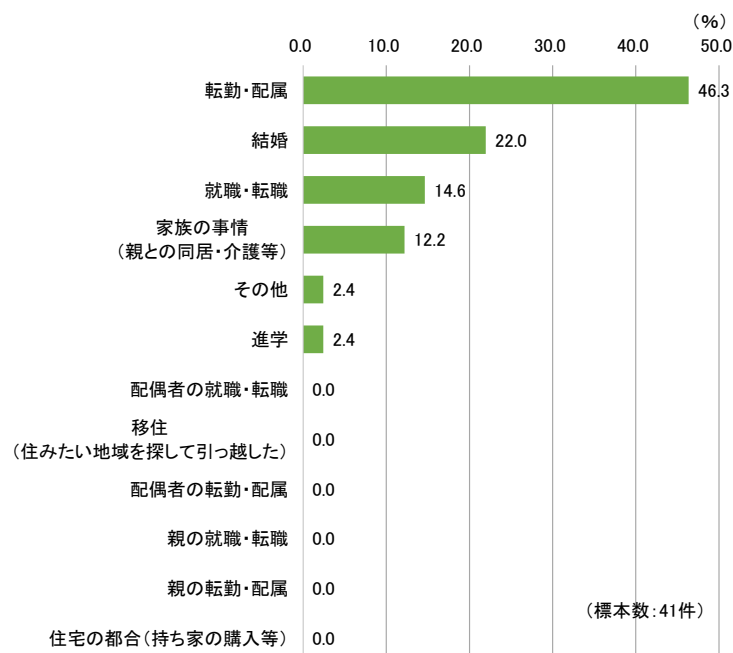
(3) I・Jターンの状況

- 転入する前、高山市は魅力的な場所だと思ったかについては、「ややそう思う」が32.0%で最も高く、次いで「そう思う」が30.2%で、合わせて62.2%となっている。一方、「あまりそう思わない」は15.1%、「そう思わない」は8.7%と、魅力的に感じていなかったとする回答は23.8%となっている。
- 魅力的な場所だと思ったかについて「あまりそう思わない」、「そう思わない」とする回答者の転入のきっかけは、「転勤・配属」が46.3%で最も高く、次いで「結婚」、「就職・転職」の順となっている。

図表 63 【I・Jターン者】転入前、高山市は魅力的な場所だと思ったか

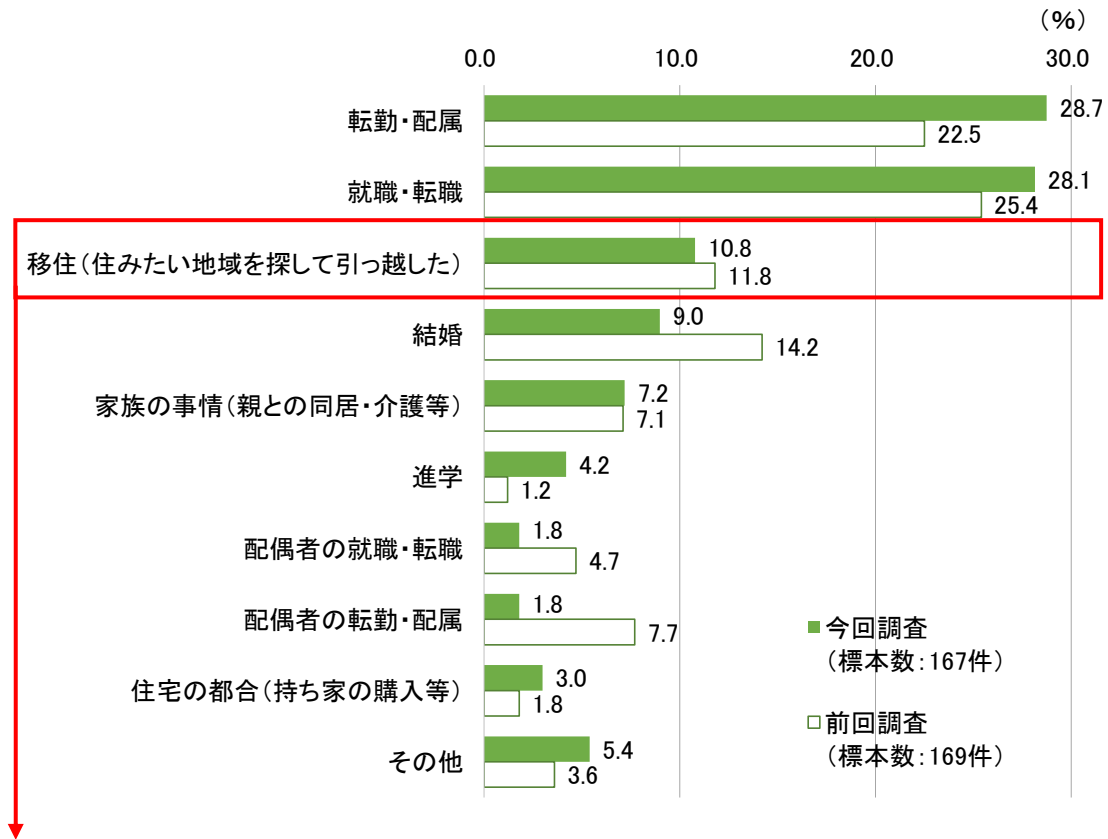


図表 64 【I・Jターン者のうち、転入前、高山市は魅力的な場所だと思ったかという設問に「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した人】転入のきっかけ



- 転入のきっかけは、「転勤・配属」が28.7%で最も高く、次いで「就職・転職」が28.1%となっており、仕事による転入が多い。
- 高山市を選んで引っ越してきた「移住」は10.8%となっており、前回調査より1.0ポイント減少している。
- 移住した人の情報収集の方法としては、「元々知っており意識していない」が47.1%で最も高く、次いで「家族・知人・友人の紹介」が17.6%となっている。

図表 65 【I・Jターン者】転入のきっかけ

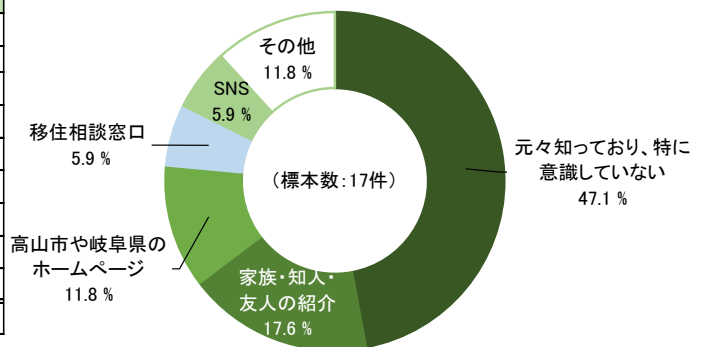


図表 66 【I・Jターン者のうち、転入のきっかけを移住と回答した人】

移住先候補として高山市の情報を最初に得たところ

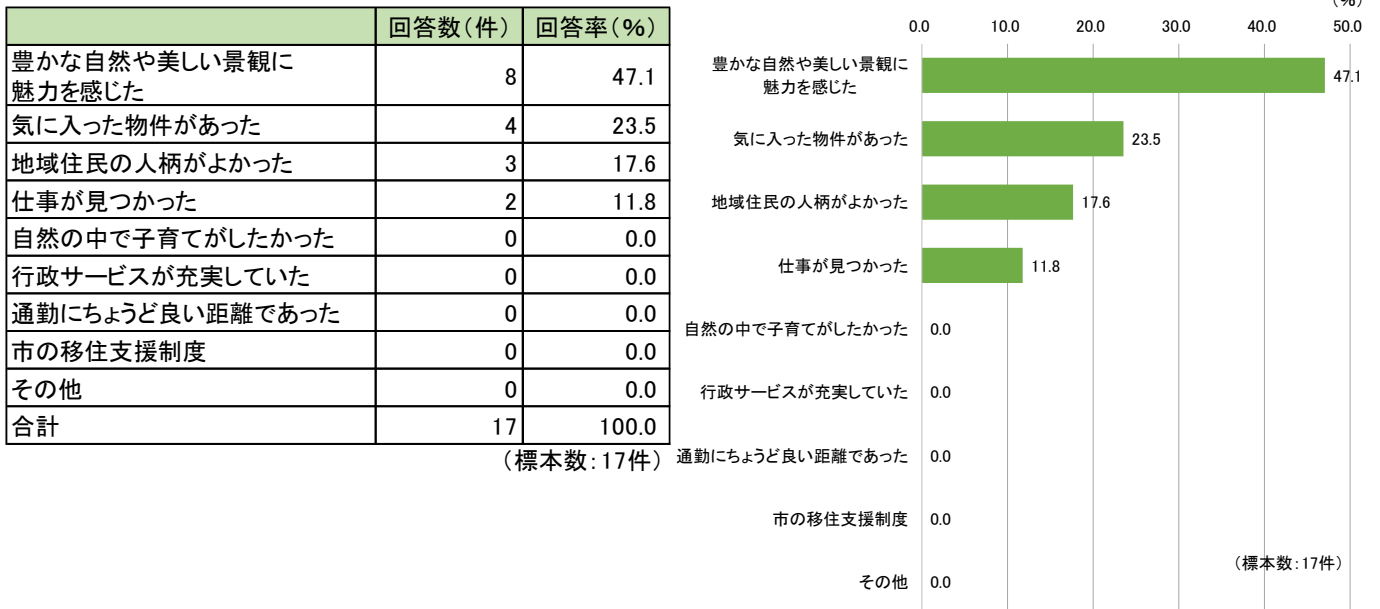
	回答数(件)	回答率(%)
元々知っており、特に意識していない	8	47.1
家族・知人・友人の紹介	3	17.6
高山市や岐阜県のホームページ	2	11.8
移住相談窓口	1	5.9
SNS	1	5.9
移住フェア	0	0.0
移住相談会	0	0.0
テレビ・新聞・雑誌	0	0.0
その他	2	11.8
合計	17	100.0

(標本数:17件)



- 高山市を選んで引っ越してきた「移住」の決め手は、「豊かな自然や美しい景観に魅力を感じた」が47.1%で最も高くなっている。

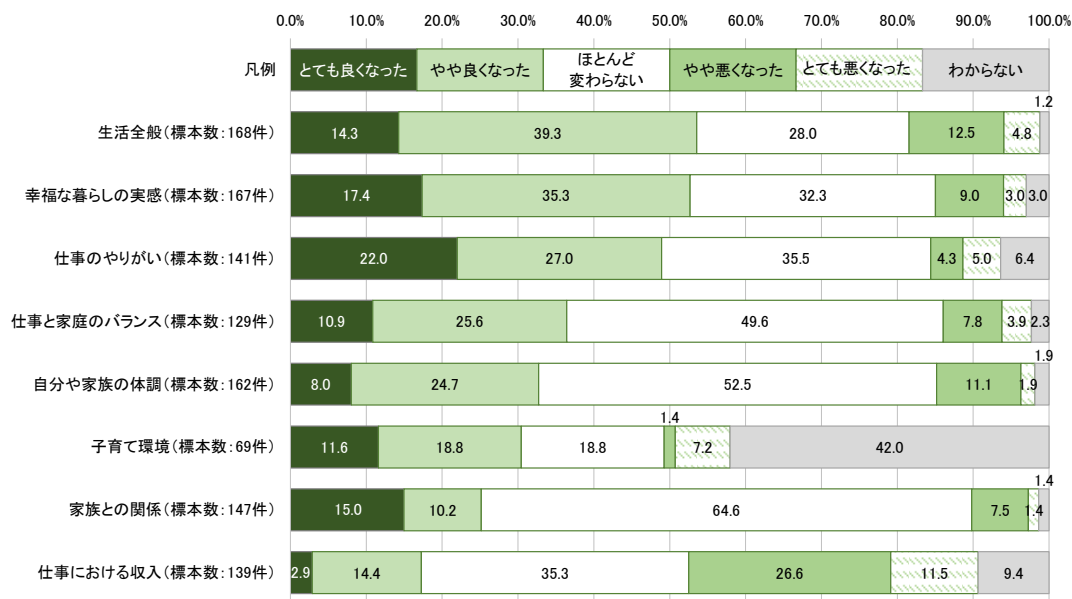
図表 67 【I・Jターン者のうち、転入のきっかけを移住と回答した人】移住の決め手



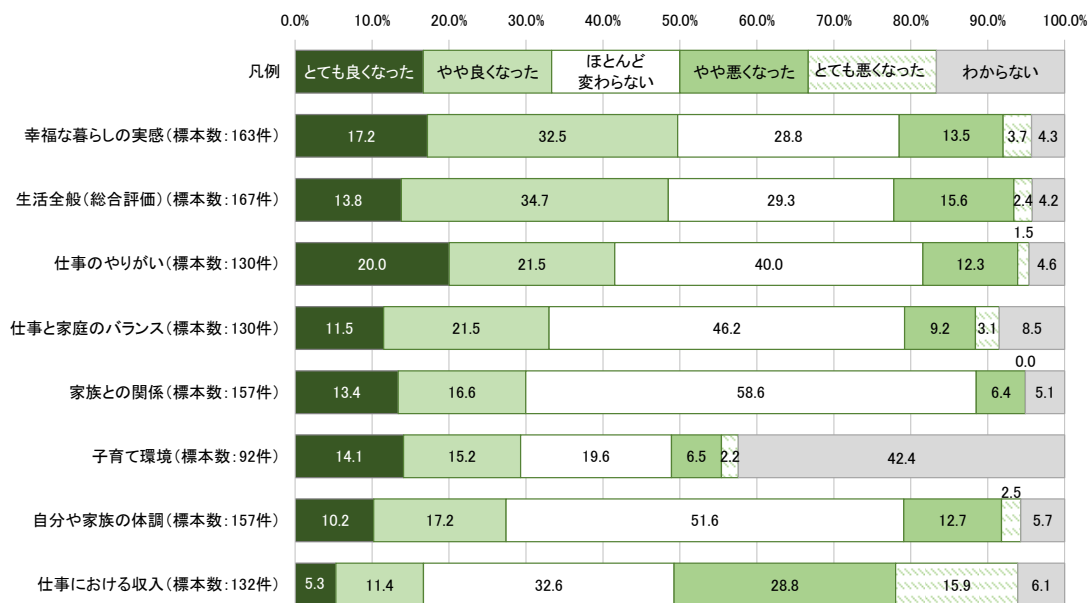
- I・Jターン者の生活の変化は、「とても良くなった」、「やや良くなった」を合わせた割合で見ると「生活全般」が53.6%で最も高く、次いで「幸福な暮らしの実感」が52.7%、「仕事のやりがい」が49.0%の順になっている。
- 「仕事と家庭とのバランス」、「自分や家族の体調」、「家族との関係」は、「ほとんど変わらない」という割合が高い。
- 「仕事における収入」は「ほとんど変わらない」が35.3%と最も高いが、「やや悪くなった」が26.6%、「とても悪くなった」とする回答が11.5%であり、他項目と比較して高くなっている。

図表 68 【I・Jターン者】生活の変化

<今回調査>

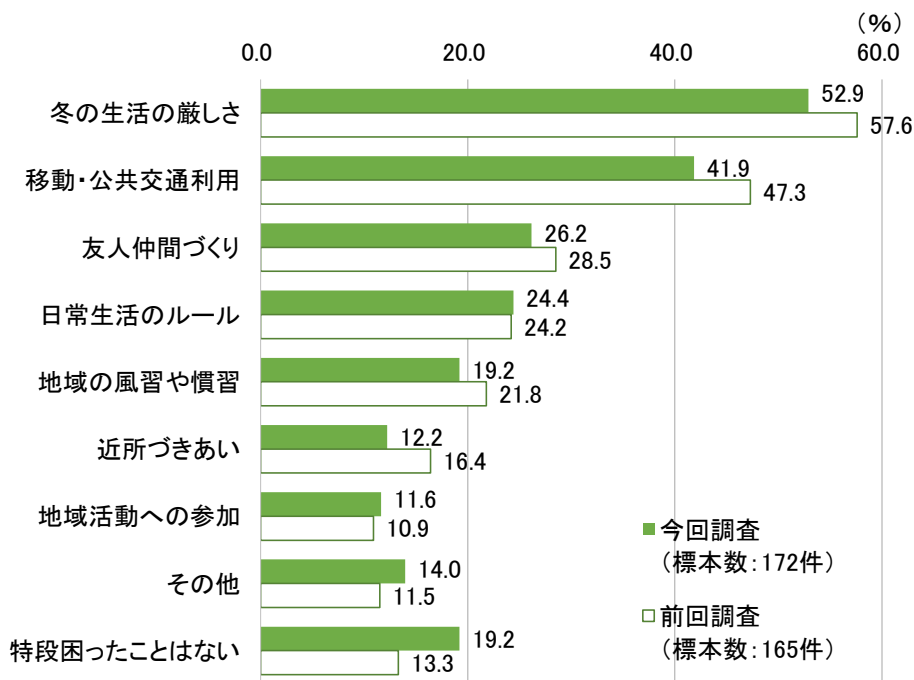


<前回調査>



- 転入して困ったことは、「冬の生活の厳しさ」が52.9%で最も高く、次いで「移動・公共交通利用」が41.9%、「友人や仲間作り」が26.2%、「日常生活のルール」が24.4%の順になっており、前回調査と同様の順位である。
- 前回調査と比較すると、全体的に困ったことに関するポイントは減少しており、「特段困ったことはない」は前回調査から、5.9ポイント増加している。

図表 69 【I・Jターン者】転入して困ったこと [複数回答]



※「その他」の内容

- ・「病院の選択肢が少ない」、「賃貸物件が少ない」、「店舗や娯楽施設が少ない」など

● 情報発信・提供に関すること

- ・ 転入地域の習慣、特性などを紹介するパンフレットなどがあると良い。
- ・ 新聞を取らないと、広報誌が来ない仕組みのようで、情報に疎くなる気がした。
- ・ 居住地域の自治会費や、年間行事などの情報がほしい。
- ・ どこが空き家なのか、地域に不動産情報がない。
- ・ ゴミ出しのルールが少し細かいと感じたため、説明があると便利だと感じた。

● 住居に関すること

- ・ 家やアパート等の賃貸料及び敷金を分割支払いできるように市で立て替えるシステムがあると良い。
- ・ アパートを借りる参考にしたいため、引っ越す前に除雪が入るエリアを知りたかった。
- ・ 短期間でも移住を体験できる住居を用意すべき。移住する側もされる側も、短期間ではミスマッチが起こる。長期に渡って暮らしてもらえる移住者を増やすなら、短期間でも実際に暮らしてもらうことが大切だと思う。立派な古民家などは必要なく、アパートなどのリアルな住居を用意する。市内にある空き室などを市が借り上げ、貸し出せば良い。

● 生活環境（冬期の暮らし）に関すること

- ・ 冬の雪が降る中の生活について、寒さ対策や雪対策など、雪国の生活での豆知識などが書かれた書類などがもらえるとより良いと思った。
- ・ 冬に必要なストーブなどの暖房器具への補助があると良い。移住したとき敷金と仲介手数料、プロパンガス代などが高すぎてヒーターも燃料も買う余裕がなかった。

● 地域コミュニティに関すること

- ・ 地域ごとの歴史的背景や、季節行事やイベントでの地域慣習、参加協力体制、不文律を知っておきたい。当番制で回ってくる役割を含む。（基本的に「参加は自由」ではあっても、実際には近所付き合い等で断れないと思っておいた方が良い、など）
- ・ コミュニティできる場所を増やすなど、地域の人との交流が出来るようにしてほしい
- ・ 地域のスポーツクラブやコミュニティについて紹介してほしい。

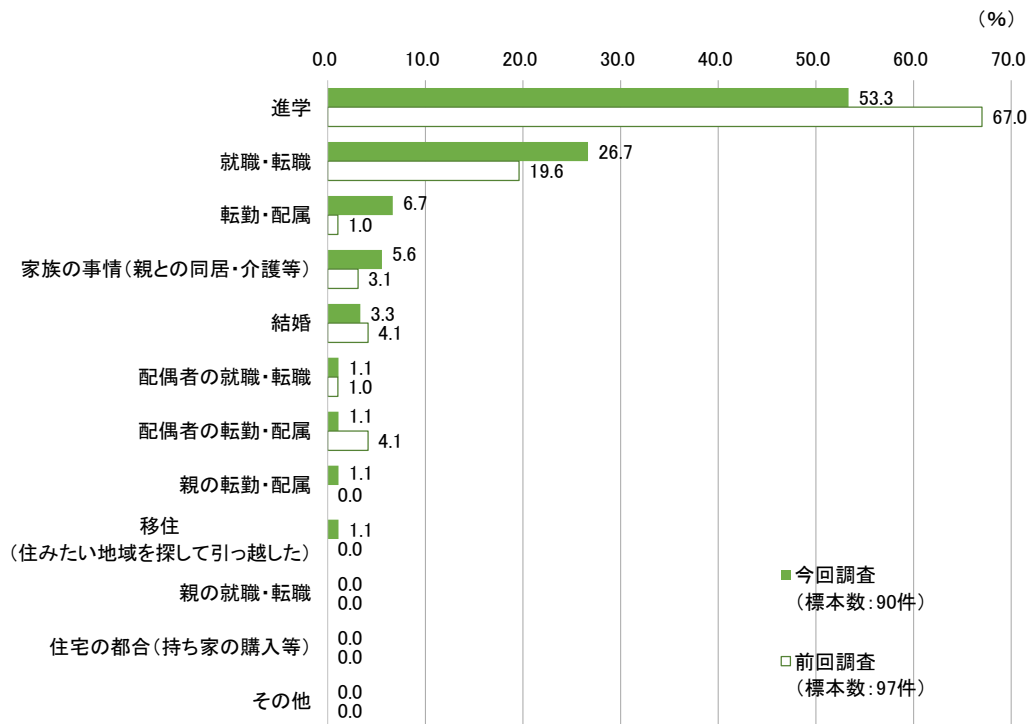
● 交通インフラに関すること

- ・ 交通網があると助かる。一人暮らしだと、街から遠く、冬は雪で歩くのが難しい。
- ・ 車移動が主なので転入者へのガソリン代の負担軽減措置を希望する。
- ・ 車を持っていない人向けにバスの時刻表やバス停マップを分かりやすくしてほしい。特に市街地から離れるとバス停が地図アプリに表示されず、不便だった。

(4) Uターンの状況

- 転出のきっかけは「進学」が53.3%で最も高く、次いで「就職・転職」が26.7%となっている。
- 前回調査と比較すると、「就職・転職」による転出が7.1ポイント増加し、「進学」による転出は13.7ポイント減少している。
- 転出時の年代は「10代」が68.2%で最も高く、次いで「20代」が14.8%となっており、進学や就職などで若い年代が市外へ転出していることがうかがえる。

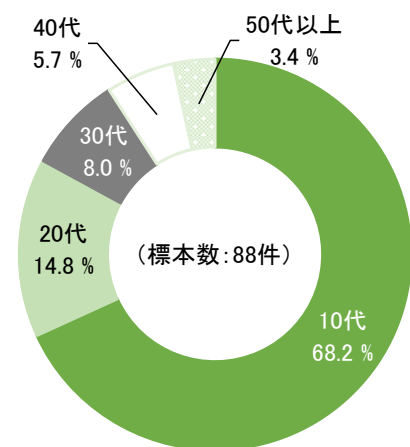
図表 70 【Uターン者】転出のきっかけ



図表 71 【Uターン者】転出時の年代

年代	回答数(件)	回答率(%)
10代	60	68.2
20代	13	14.8
30代	7	8.0
40代	5	5.7
50代以上	3	3.4
合計	88	100.0

(標本数:88件)



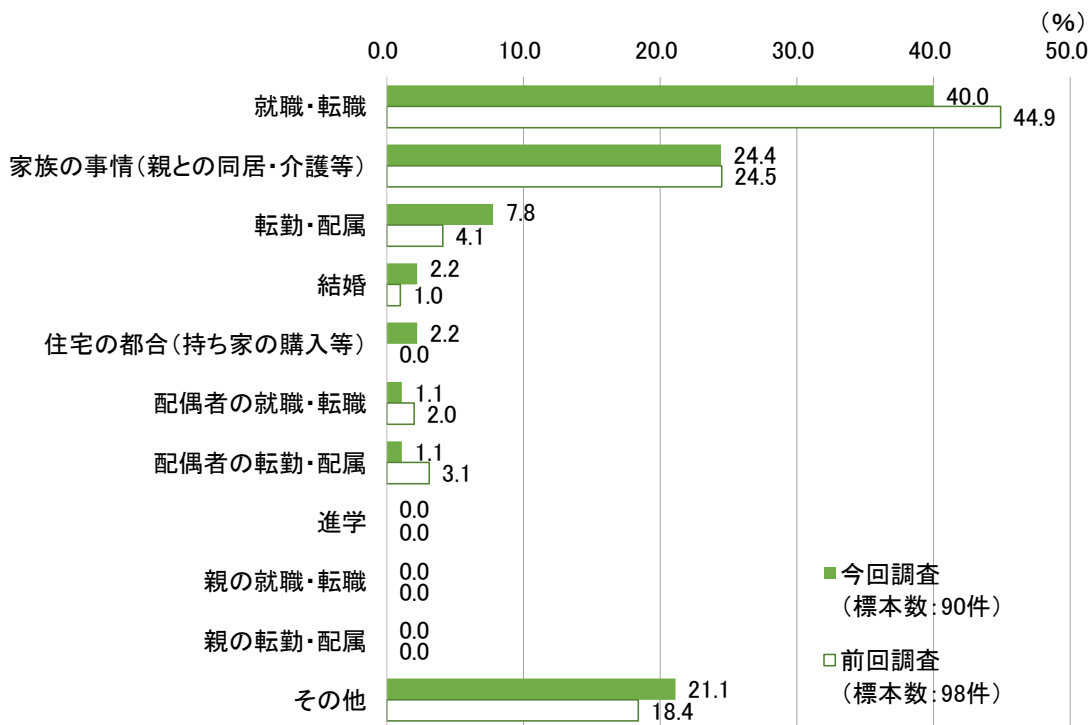
- 転出先の地域は、「愛知県」が 28.1%で最も高く、次いで「東京都」が 19.1%となっている。

図表 72 【Uターン者】 転出先地域



- 戻ってきたきっかけは、「就職・転職」が40.0%で最も高く、次いで「家族の事情（親との同居・介護等）」が24.4%となっており、前回調査と同様の傾向である。
- 転入時の年代は、「20代」が40.9%で最も高く、次いで「30代」が23.9%、「50代以上」が22.7%の順となっている。

図表 73 【Uターン者】転入のきっかけ



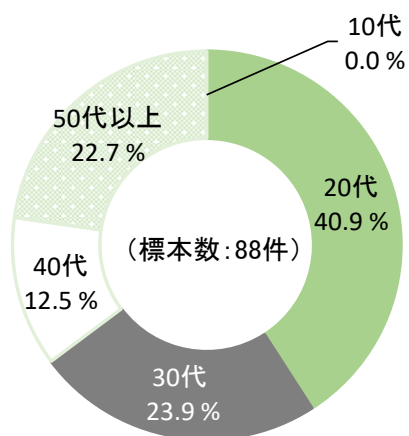
※その他の主な内容

- ・「定年退職」、「妊娠・出産」など

図表 74 【Uターン者】転入時の年代

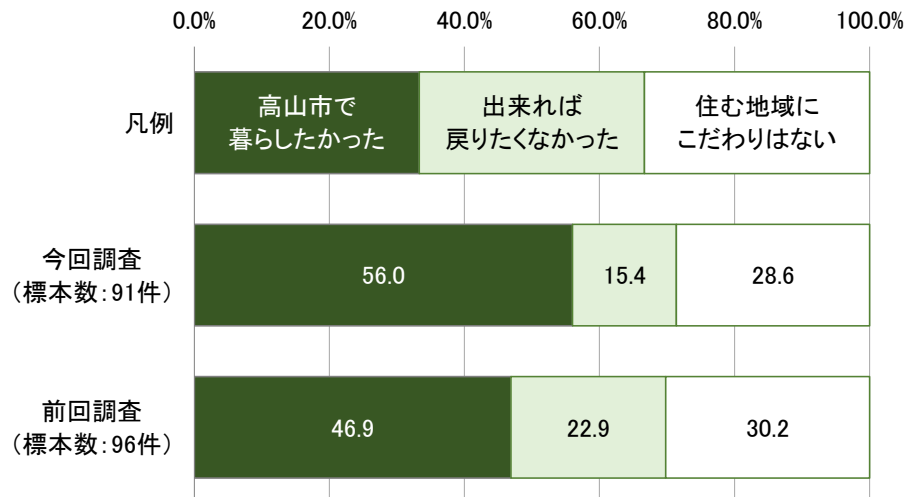
	回答数(件)	回答率(%)
10代	0	0.0
20代	36	40.9
30代	21	23.9
40代	11	12.5
50代以上	20	22.7
合計	88	100.0

(標本数: 88件)



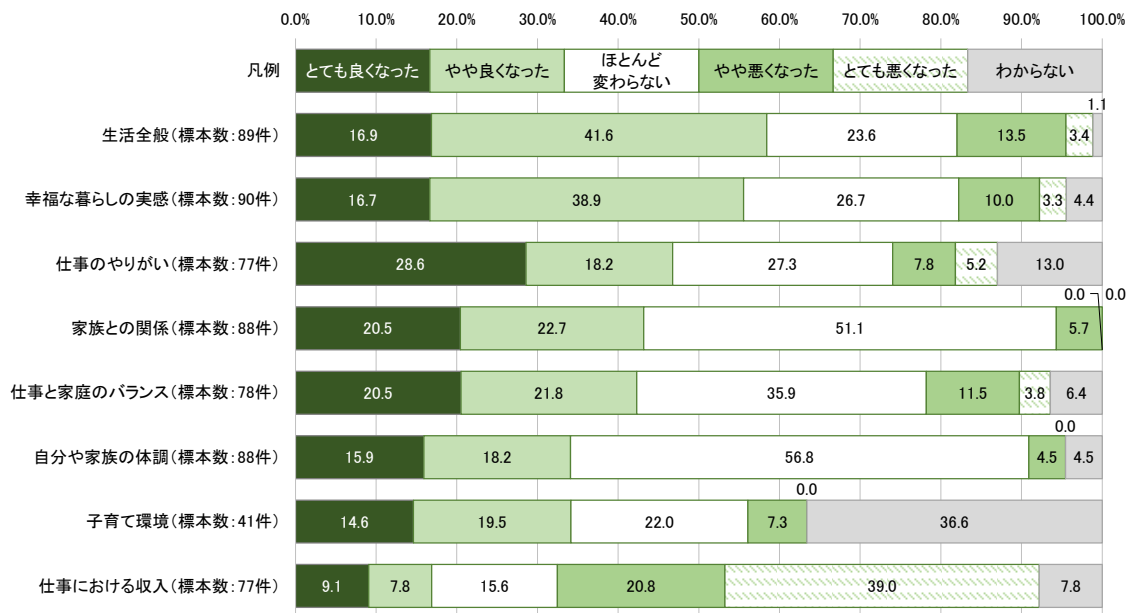
- Uターン時の心境は、「高山市で暮らしたかった」が56.0%であった一方で、「住む地域にこだわりはない」が28.6%あった。
- 前回調査と比較すると、「高山市で暮らしたかった」が9.1ポイント上昇しており、「住む地域にこだわりはない」が1.6ポイント減少している。

図表 75 【Uターン者】Uターン時の心境

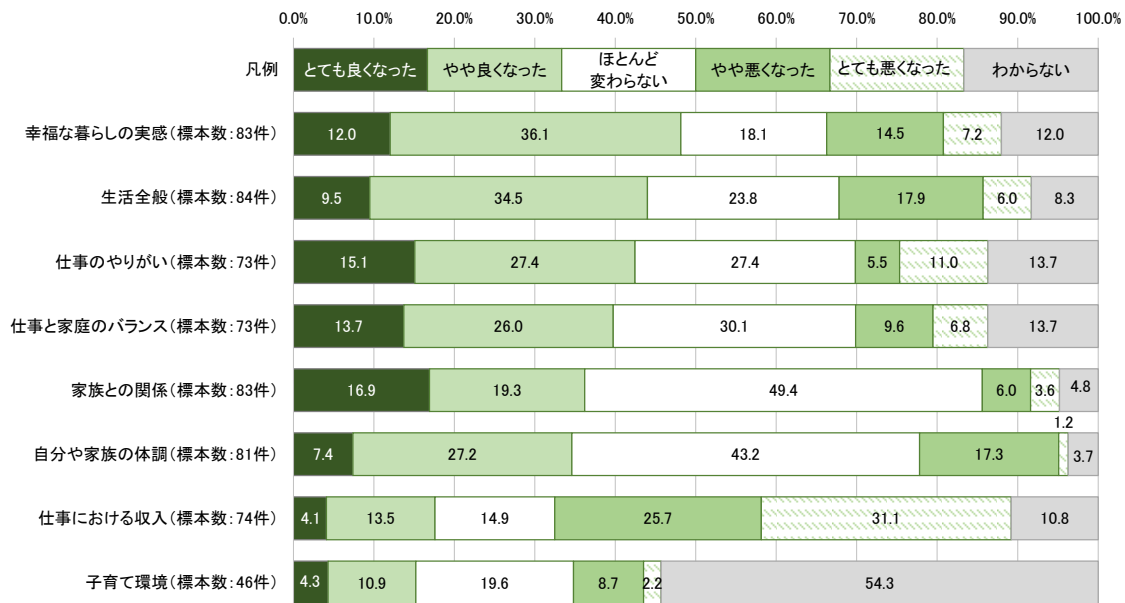


- Uターン者の生活の変化は「とても良くなった」、「やや良くなった」を合わせた割合をみると、「生活全般」が 58.5%で最も高く、次いで「幸福な暮らしの実感」が 55.6%、「仕事のやりがい」が 46.8%の順となっている。「家族との関係」、「自分や家族の体調」は、前回調査と同様に「ほとんど変わらない」が高くなっている。
- 「仕事における収入」は「とても悪くなった」が 39.0%で最も高くなっており、他項目と比較しても特に高くなっている。また、前回調査から 7.9ポイント増加している。

図表 76 【Uターン者】生活の変化
 <今回調査>



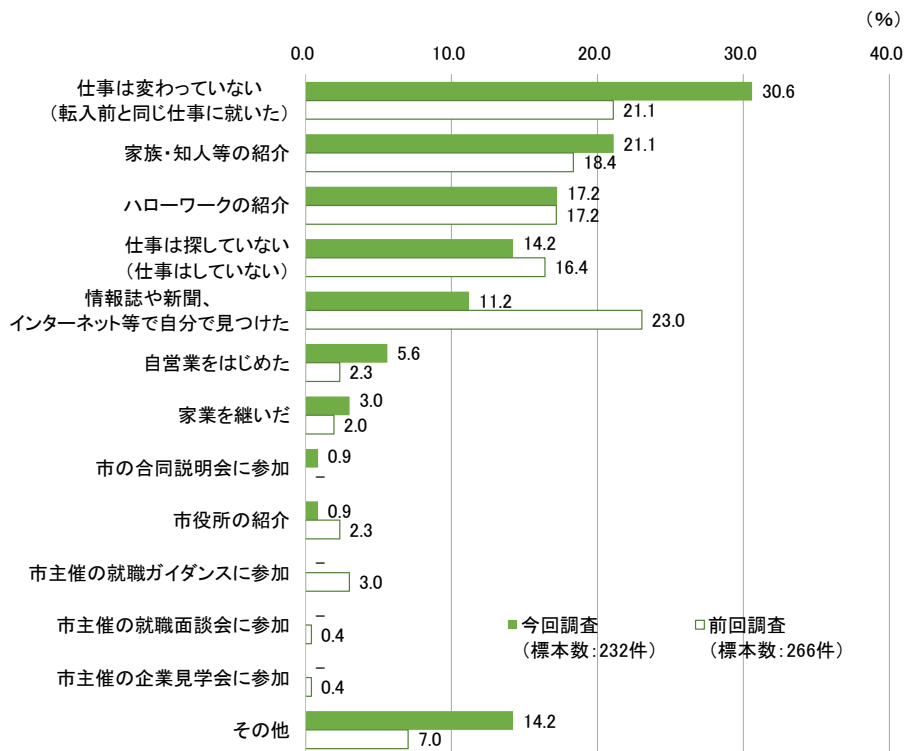
<前回調査>



(5) 仕事・住居の見つけ方

- 仕事を見つけた方法は「仕事は変わっていない（転入前と同じ仕事に就いた）」が30.6%で最も高く、次いで「家族・知人等の紹介」が21.1%、「ハローワークの紹介」が17.2%の順となっている。
- 前回調査と比較すると、「仕事は変わっていない（転入前と同じ仕事に就いた）」が9.5ポイント増加している。一方、「情報誌や新聞、インターネット等で自分で見つけた」は11.8ポイント減少している。

図表 77 仕事を見つけた方法 [複数回答]



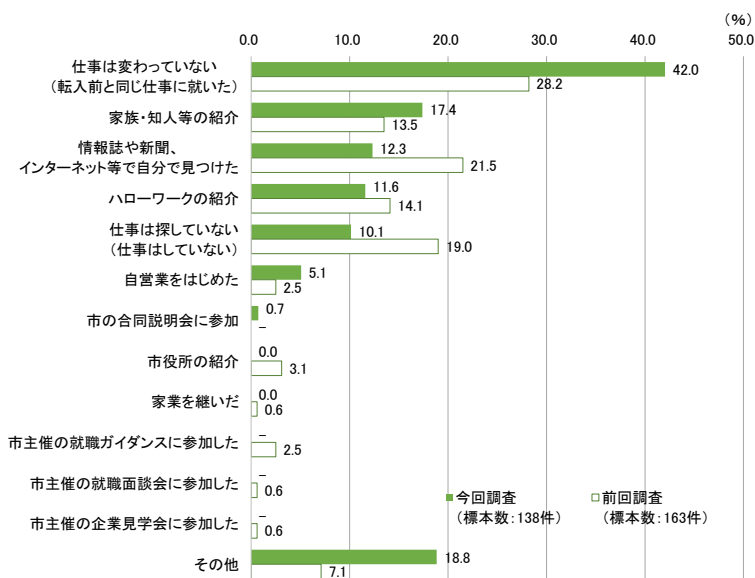
※「その他」の内容

- ・「専門学校、職業訓練校等からの紹介」、「現在も求職中」など

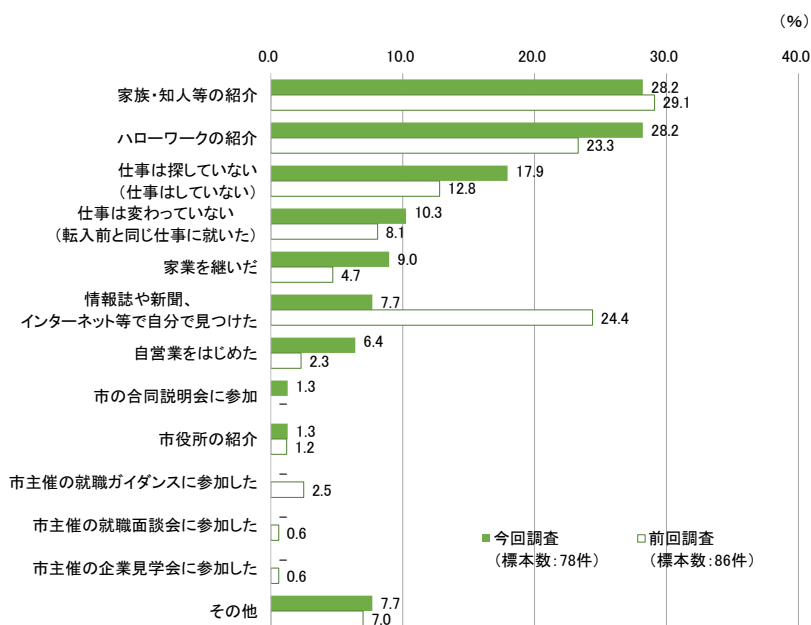
※今回調査では「市主催の就職ガイダンスに参加」「市主催の就職面談会に参加」「市主催の就職面談会に参加」「市主催の企業見学会に参加」の選択肢は設けておらず、新たに「市の合同説明会に参加」の選択肢を設けている。

- I・Jターン者、Uターン者別にみると、I・Jターン者は「仕事は変わっていない（転入前と同じ仕事に就いた）」が42.0%で最も高く、次いで「家族・知人等の紹介」が17.4%となっている。
- Uターン者は、「家族・知人等の紹介」と「ハローワークの紹介」が28.2%で最も高くなっている。前回調査で高かった「情報誌や新聞、インターネット等で自分で見つけた」が16.7ポイント減少している。

図表 78 【I・Jターン者】仕事を見つけた方法 [複数回答]



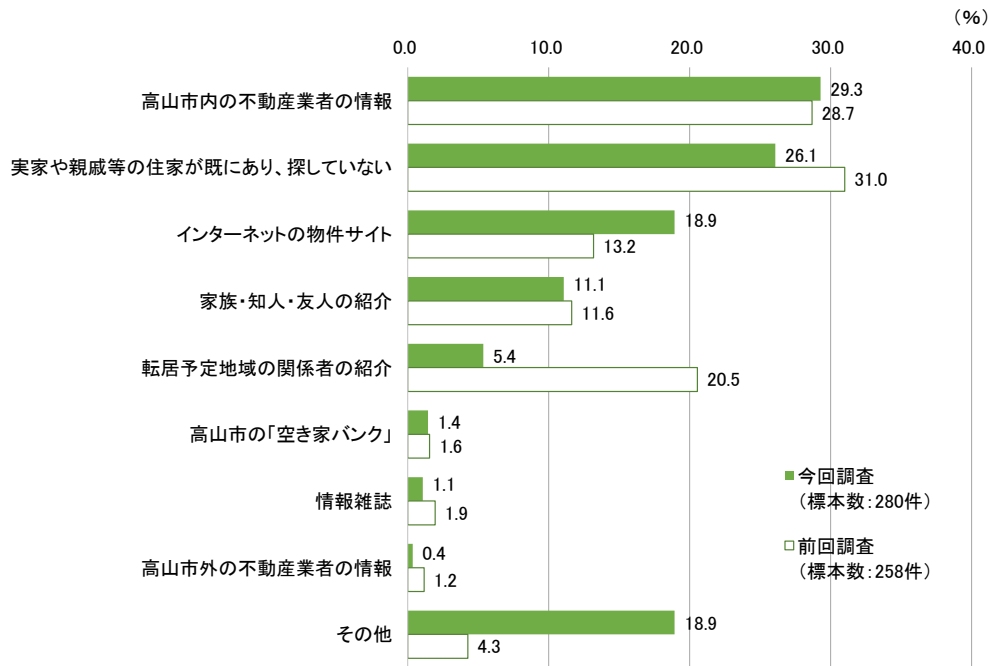
図表 79 【Uターン者】仕事を見つけた方法 [複数回答]



※今回調査では「市主催の就職ガイダンスに参加」「市主催の就職面談会に参加」「市主催の就職面談会に参加」「市主催の企業見学会に参加」の選択肢は設けておらず、新たに「市の合同説明会に参加」の選択肢を設けている。

- 住宅を見つけた方法は、「高山市内の不動産業者の情報」が29.3%で最も高く、次いで「実家や親戚等の住家が既にあり、探していない」が26.1%となっている。
- I・Jターン者・Uターン者別にみると、I・Jターン者は「高山市内の不動産業者の情報」が最も高く、次いで「インターネットの物件サイト」が高くなっている。Uターン者は「実家や親戚等の住家が既にあり、探していない」が約7割を占めている。

図表 80 住宅を見つけた方法 [複数回答]



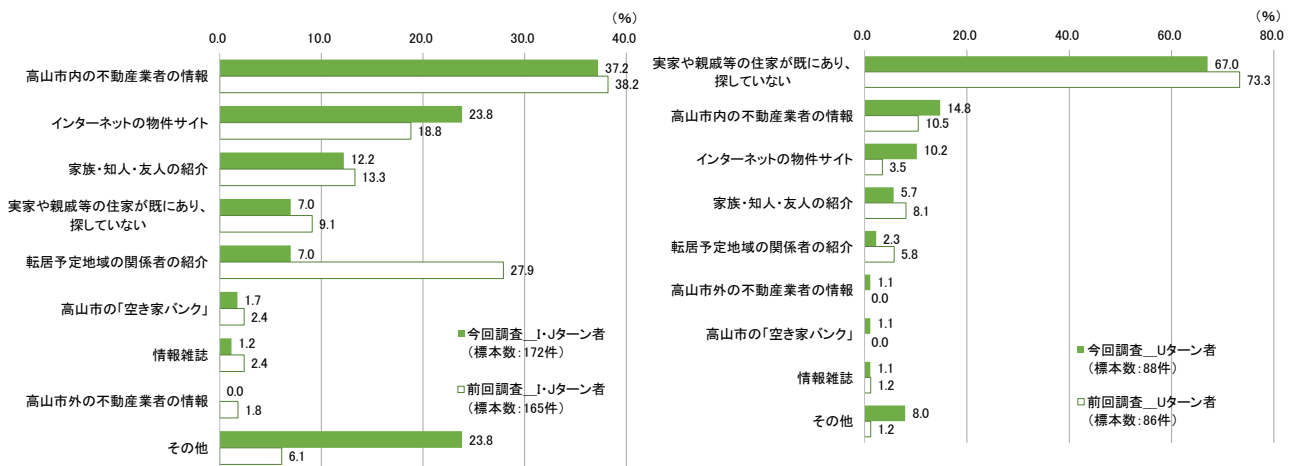
※「その他」の内容

- ・「官舎・社員寮など」、「配偶者の実家」など

図表 81 I・Jターン者・Uターン者別 住宅を見つけた方法 [複数回答]

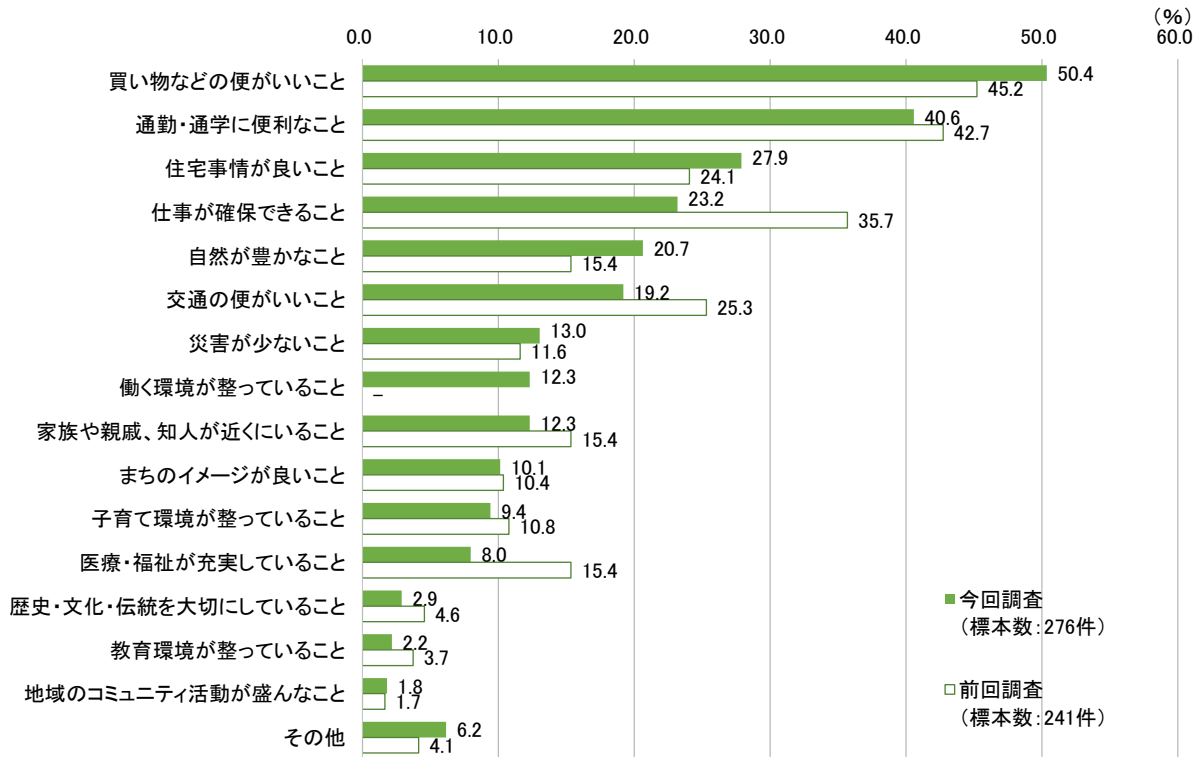
【I・Jターン者】

【Uターン者】



- 住む場所を探す際に重視したことは、「買い物などの便がいいこと」が50.4%で最も高く、次いで「通勤・通学に便利なこと」が40.6%、「住宅事情が良いこと」が27.9%の順となっている。
- 前回調査と比較すると、「仕事が確保できること」は12.5ポイント減少している。

図表 82 住む場所を探す際に重視したこと [複数回答]

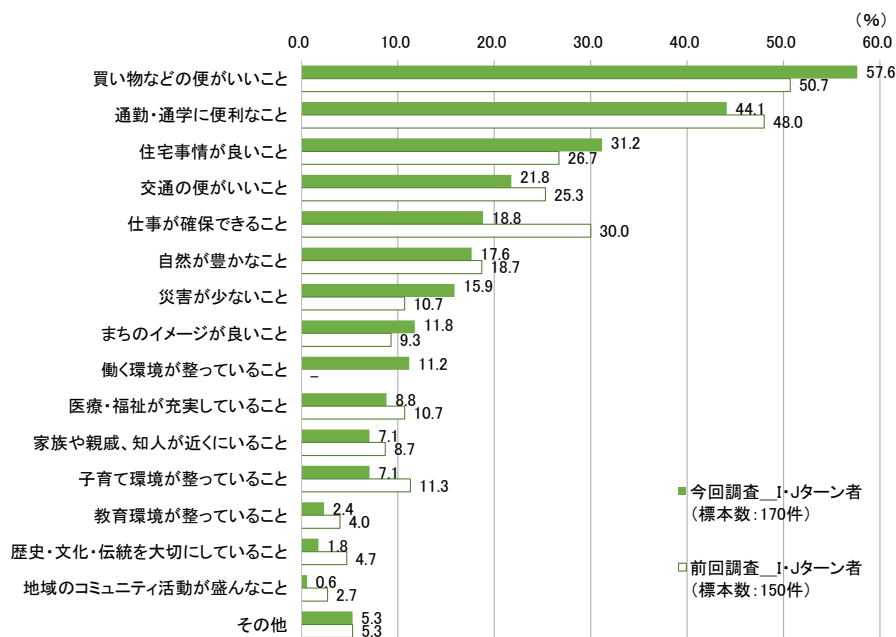


※今回調査では、新たに「働く環境が整っていること」の選択肢を設けている。

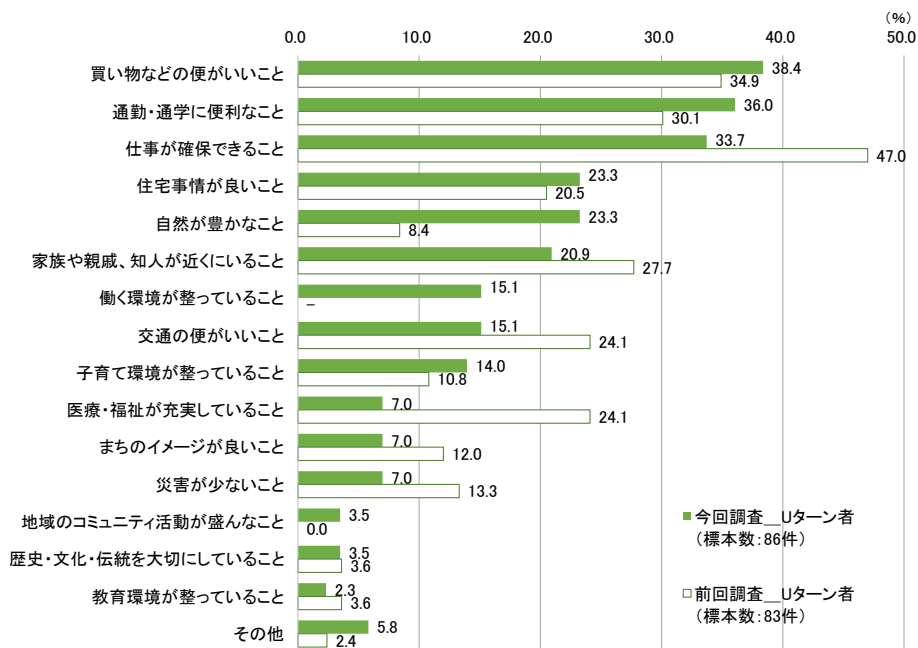
- I・Jターン者・Uターン者別に、住む場所を探す際に重視したことをみると、I・Jターン者は「買い物などの便がいいこと」が57.6%で最も高く、次いで「通勤・通学に便利なこと」が44.1%となっている。Uターン者は「買い物などの便がいいこと」が38.4%で最も高く、次いで「通勤・通学に便利なこと」が36.0%となっている。

図表 83 I・Jターン者・Uターン者別 住む場所を探す際に重視したこと [複数回答]

【I・Jターン者】



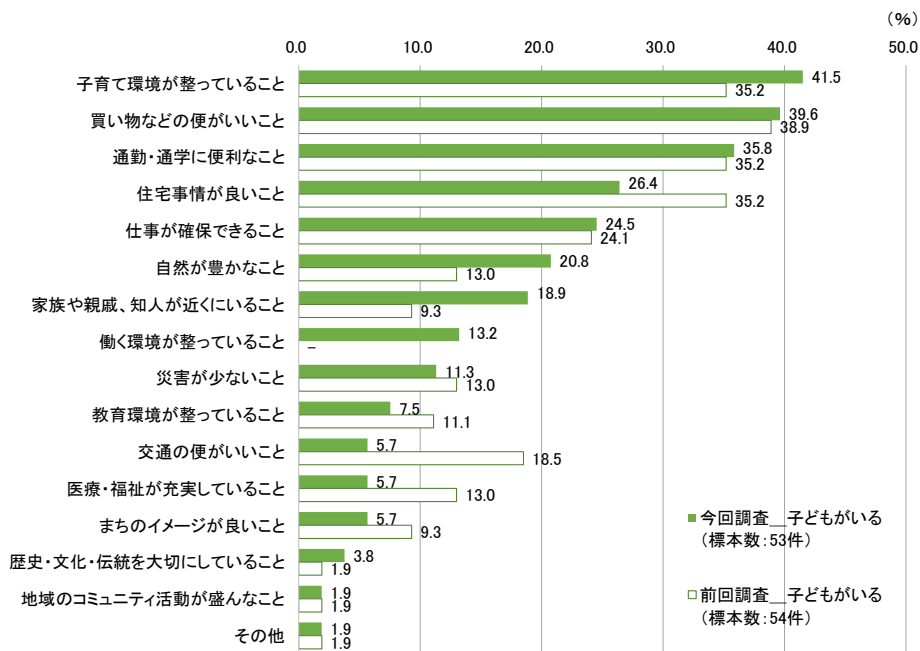
【Uターン者】



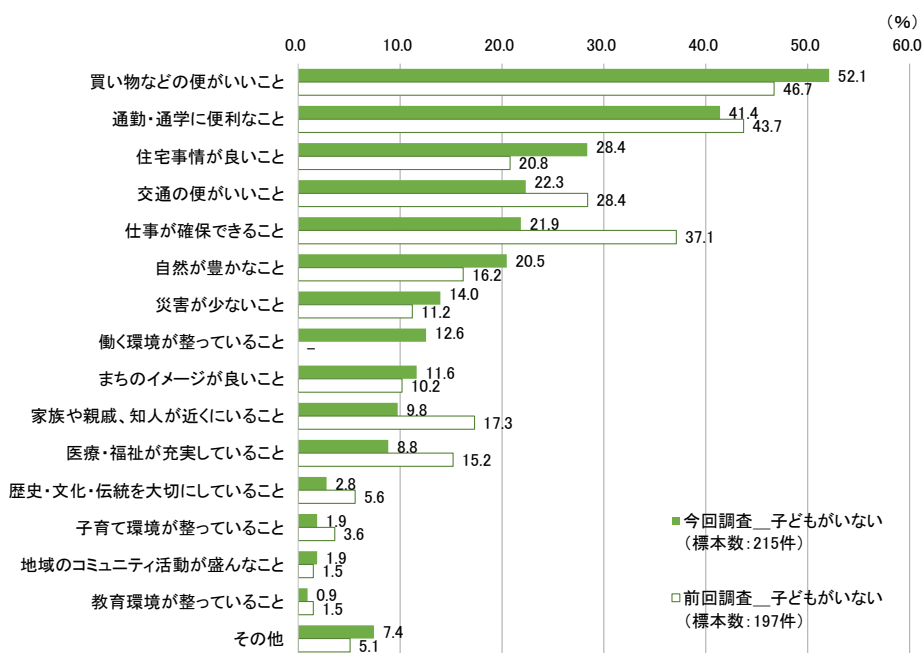
※今回調査では、新たに「働く環境が整っていること」の選択肢を設けている。

- 子どもの有無別に、住む場所を探す際に重視したことをみると、子どもがいる回答者は「子育て環境が整っていること」が41.5%で最も高く、次いで「買い物などの便がいいこと」、「通勤・通学に便利なこと」、「住宅事情が良いこと」が続いている。
- 子どもがいない回答者は、「買い物などの便がいいこと」が52.1%で最も高く、次いで「通勤・通学に便利なこと」が41.4%、「住宅事情が良いこと」が28.4%の順となっている。

図表 84 子どもの有無別 住む場所を探す際に重視したこと [複数回答]
【子どもがいる】

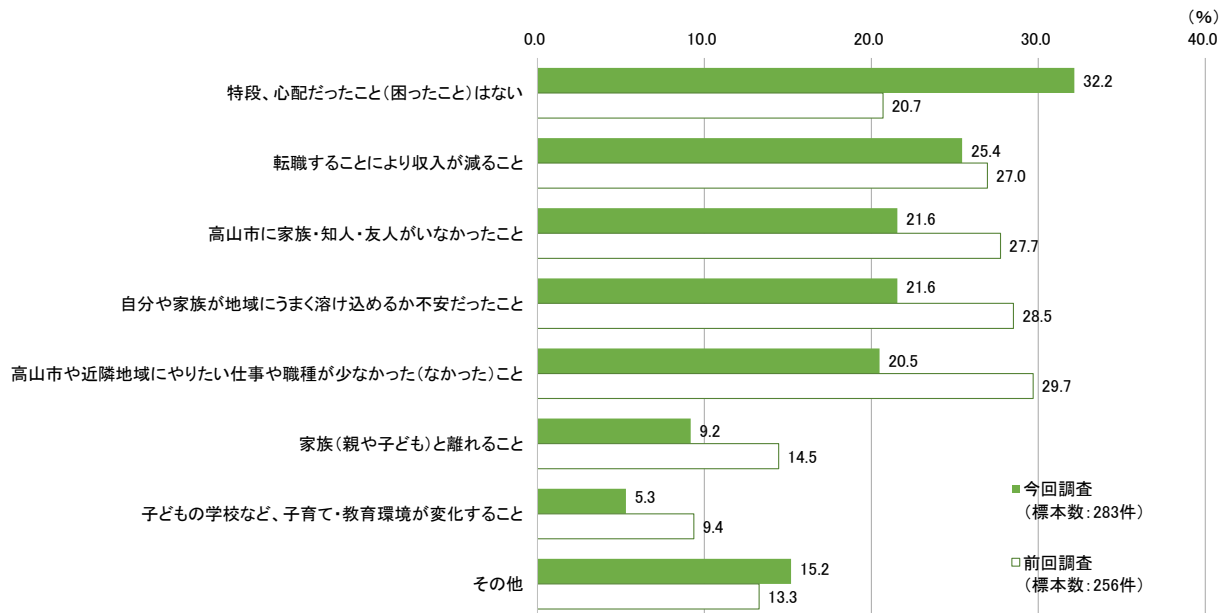


【子どもがいない】



- 転入（移住）を検討する際に心配だったことは、「特段、心配だったこと（困ったこと）はない」が32.2%で最も高く、次いで「転職することにより収入が減ること」が25.4%となっている。
- 前回調査と比較すると、「特段、心配だったこと（困ったこと）はない」が11.5ポイント増加しており、転入（移住）にあたり心配を抱える人が少なくなっている。

図表 85 転入（移住）にあたり心配だったこと [複数回答]



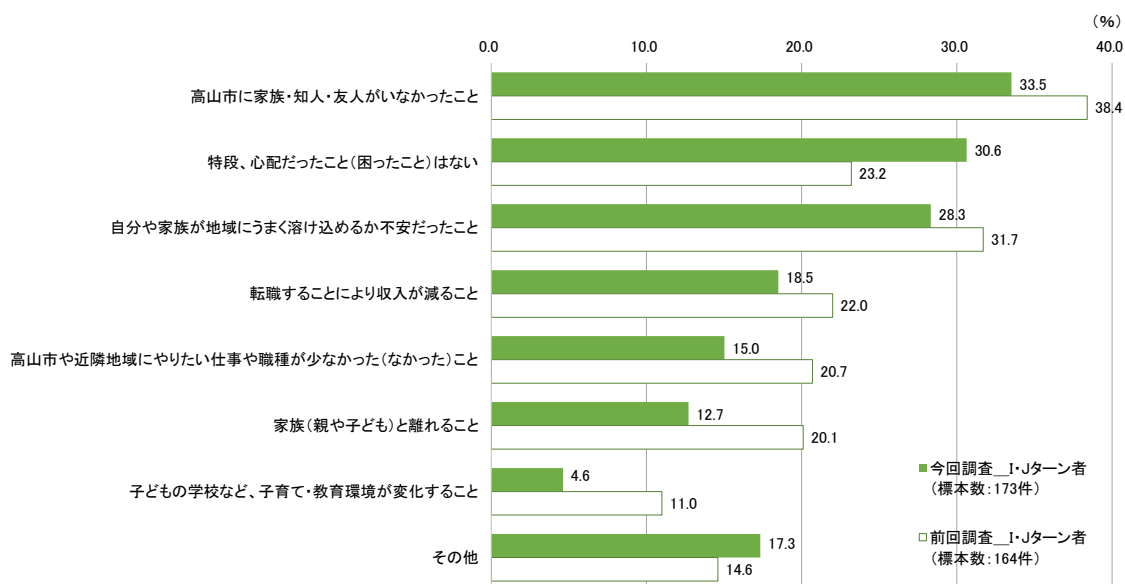
※「その他」の内容

- ・「冬の生活（除雪、寒さ対策など）」、「車を運転できない、車を持っていないこと」など

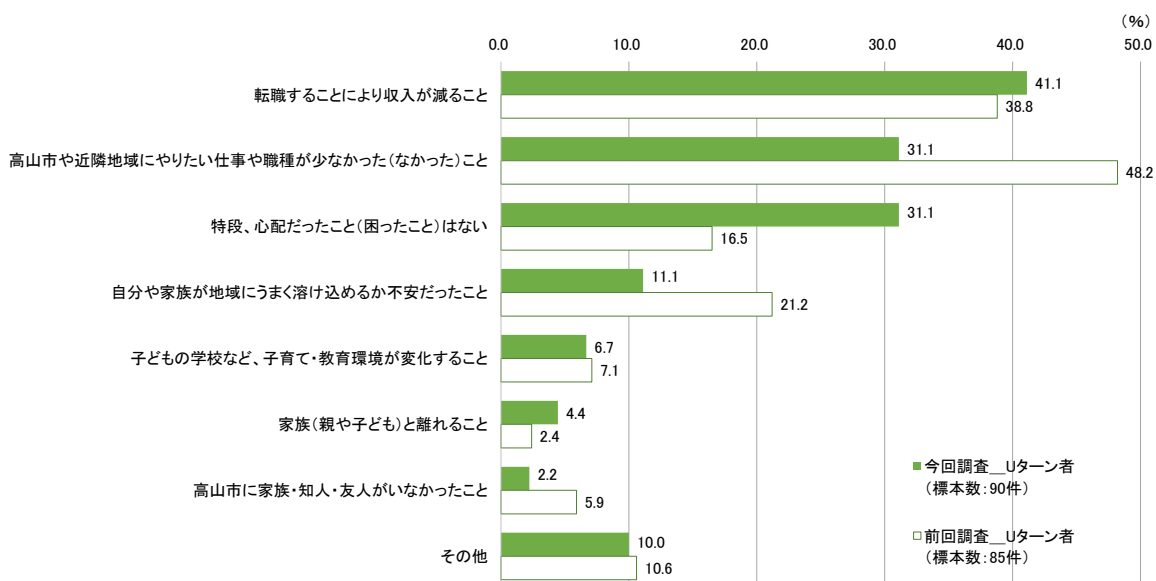
- I・Jターン者・Uターン者別に、転入（移住）にあたり心配だったことをみると、I・Jターン者は、「高山市に家族・知人・友人がいなかったこと」が33.5%で最も高くなっている。「特段、心配だったこと（困ったこと）はない」を除くと、次いで「自分や家族が地域にうまく溶け込めるか不安だったこと」が28.3%となっており、地域とのつながりや人間関係の不安が上位にあがっている。
- Uターン者は、「転職することにより収入が減ること」が41.1%で最も高く、次いで「高山市や近隣地域にやりたい仕事や職種が少なかった（なかった）こと」が31.1%となっており、仕事や収入に関する不安が上位にあがっているが、前回調査よりも「特段、心配だったこと（困ったこと）はない」が14.6ポイント増加しており、心配や不安を抱える人が減少傾向にある。

図表 86 I・Jターン者・Uターン者別 転入（移住）にあたり心配だったこと [複数回答]

【I・Jターン者】

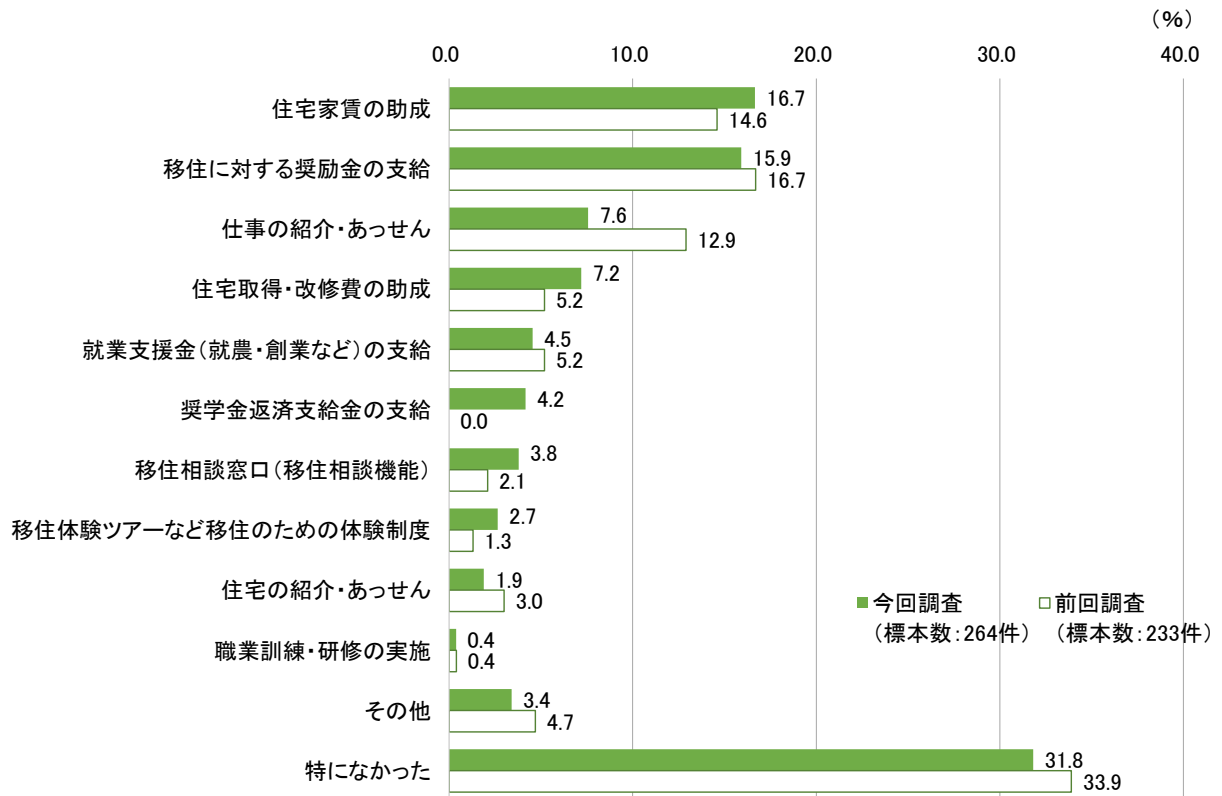


【Uターン者】



- 移住にあたり行政に期待する取り組み・支援は、「特になかった」が31.8%で最も高く、次いで「住宅家賃の助成」が16.7%、「移住に対する奨励金の支給」が15.9%の順となっており、経済的支援を求める意見が多くなっている。

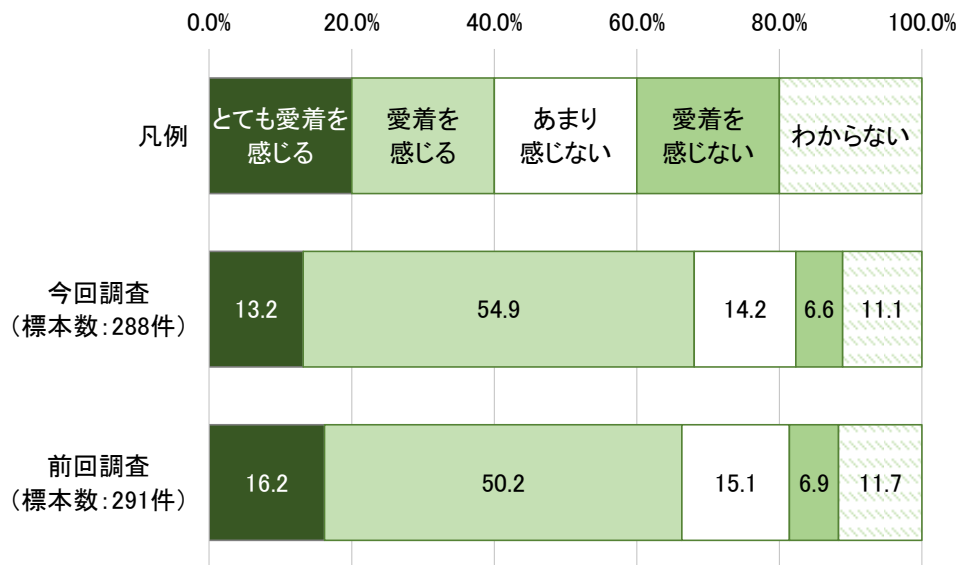
図表 87 行政に期待する取り組み・支援



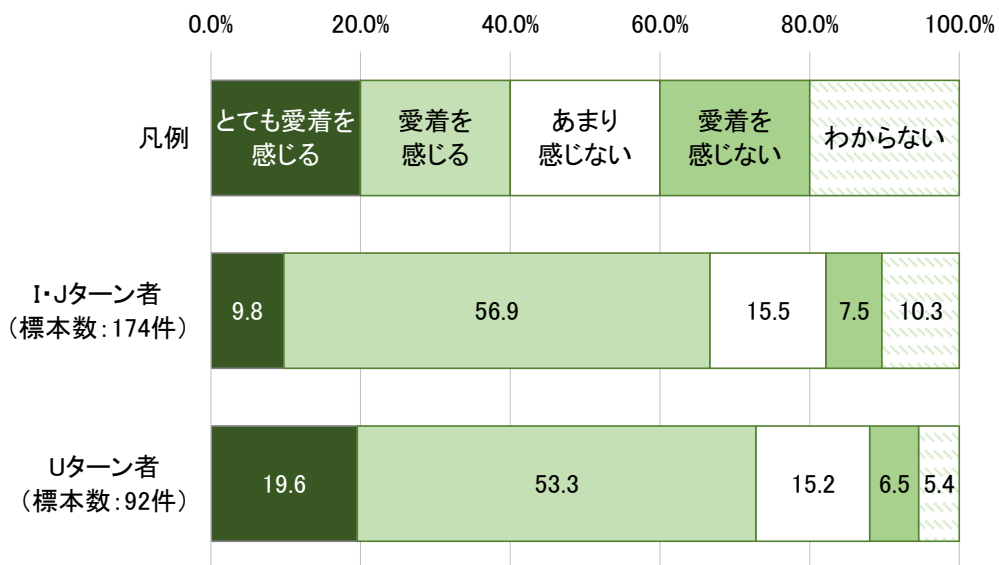
(6) 地域・暮らしについて

- 高山市への愛着は、「とても愛着を感じる」が13.2%、「愛着を感じる」が54.9%で合わせて68.1%で前回調査(66.4%)より若干増加している。
- I・Jターン者は「とても愛着を感じる」が9.8%、「愛着を感じる」が56.9%で、合わせて66.7%が愛着を感じている。Uターン者は「とても愛着を感じる」が19.6%、「愛着を感じる」が53.3%で合わせて72.9%であり、I・Jターン者よりも愛着を感じている人の割合がやや高い。

図表 88 高山市への愛着

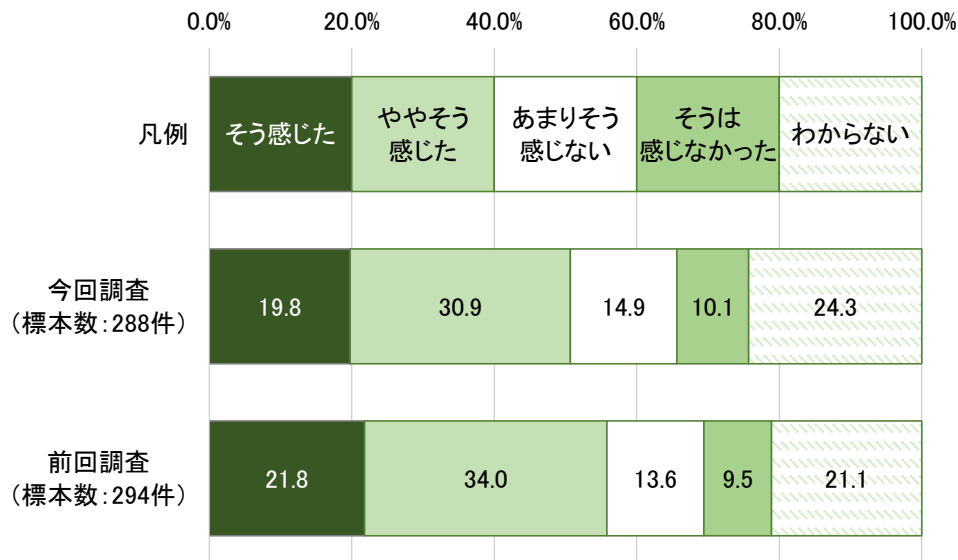


図表 89 I・Jターン者・Uターン者別 高山市への愛着

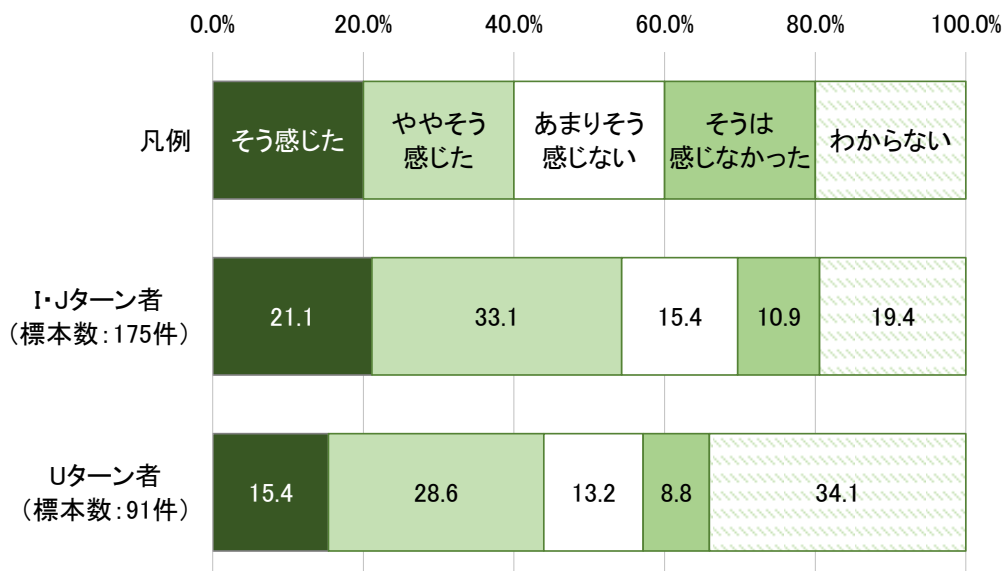


- 高山市は移住者をあたたかく迎える地域かについては、「そう感じた」は19.8%、「ややそう感じた」は30.9%で、合わせて50.7%となっており、前回調査よりも5.1ポイント減少している。
- I・Jターン者は「そう感じた」が21.1%、「ややそう感じた」が33.1%で、合わせて54.2%があたたかく迎える地域と感じている。Uターン者のあたたかく迎える地域と感じている回答は44.0%となっており、I・Jターン者よりもあたたかく迎える地域だと感じる人の割合が低くなっている。

図表 90 移住者をあたたかく迎える地域か

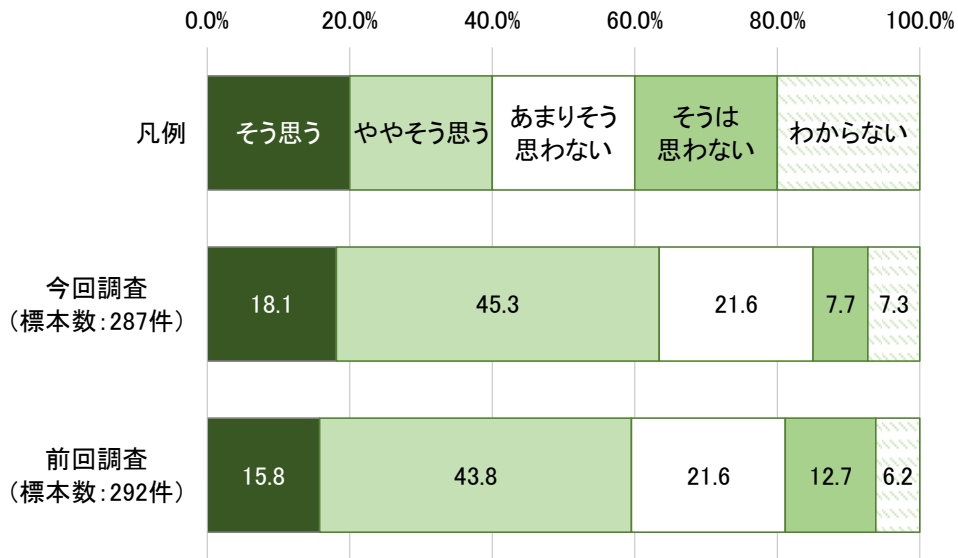


図表 91 I・Jターン者・Uターン者別 移住者をあたたかく迎える地域か

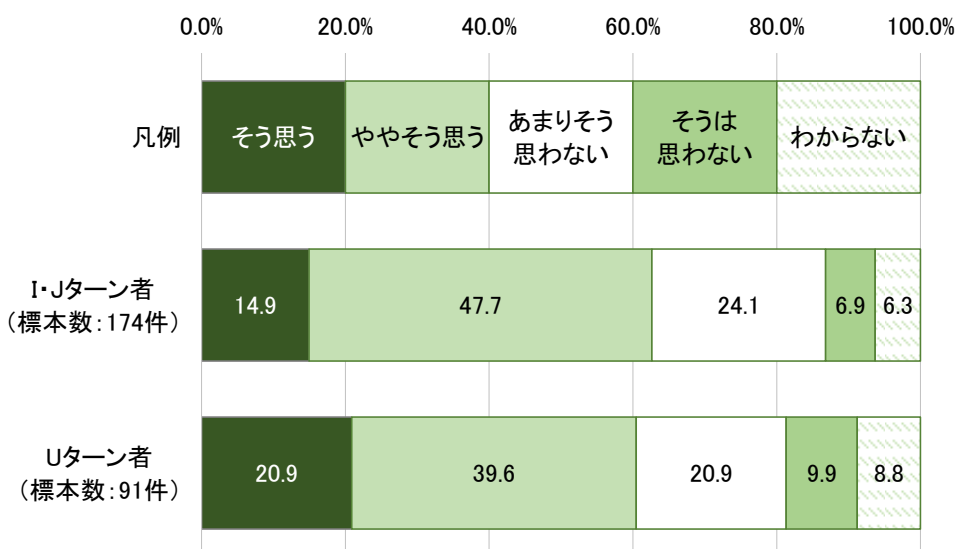


- 高山市は暮らしやすい地域かについては、「そう思う」が18.1%、「ややそう思う」が45.3%で、合わせて63.4%となっている。
- I・Jターン者は「ややそう思う」が47.7%で最も高く、次いで「あまりそう思わない」が24.1%となっている。Uターン者も、「ややそう思う」が39.6%で最も高く、次いで「あまりそう思わない」が20.9%となっている。

図表 92 高山市は暮らしやすい地域か

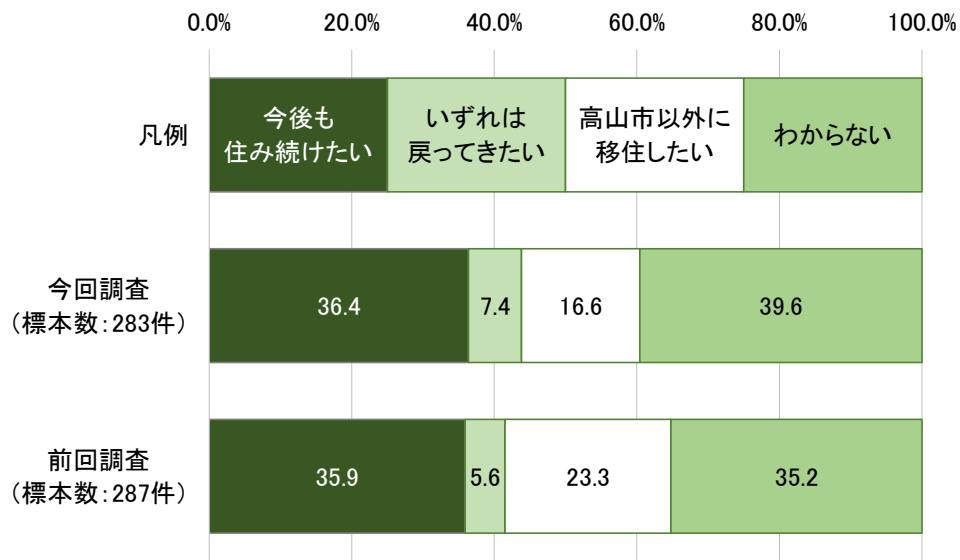


図表 93 I・Jターン者・Uターン者別 高山市は暮らしやすい地域か

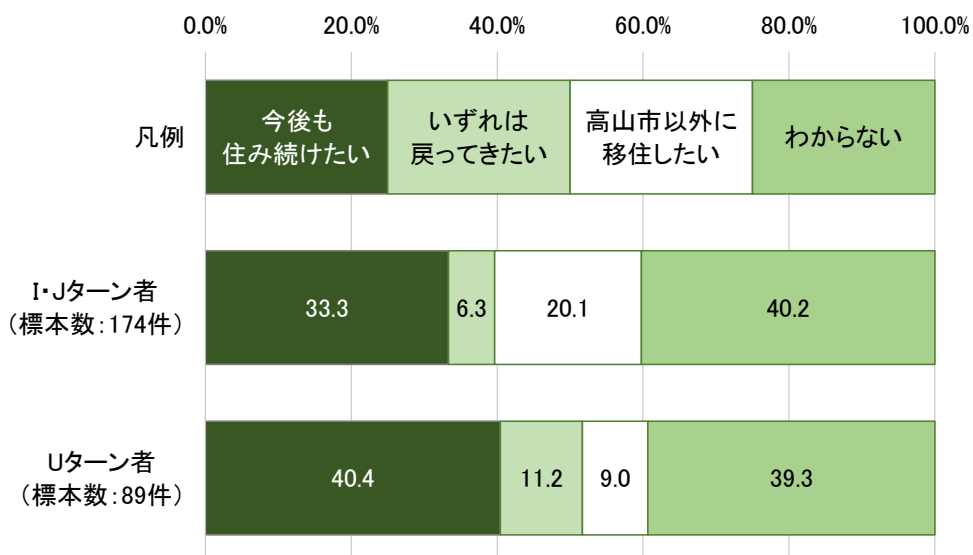


- 高山市での定住意向は、「わからない」が39.6%で最も高く、次いで「今後も住み続けたい」が36.4%、「高山市以外に移住したい」が16.6%の順となっている。前回調査と比較して「高山市以外に移住したい」が6.7ポイント減少し、「わからない」が4.4ポイント増加している。
- 「今後も住み続けたい」は、Uターン者が40.4%となっているが、I・Jターン者は33.3%にとどまっているほか、I・Jターン者の20.1%が「高山市以外に移住したい」と回答している。

図表 94 高山市での定住意向

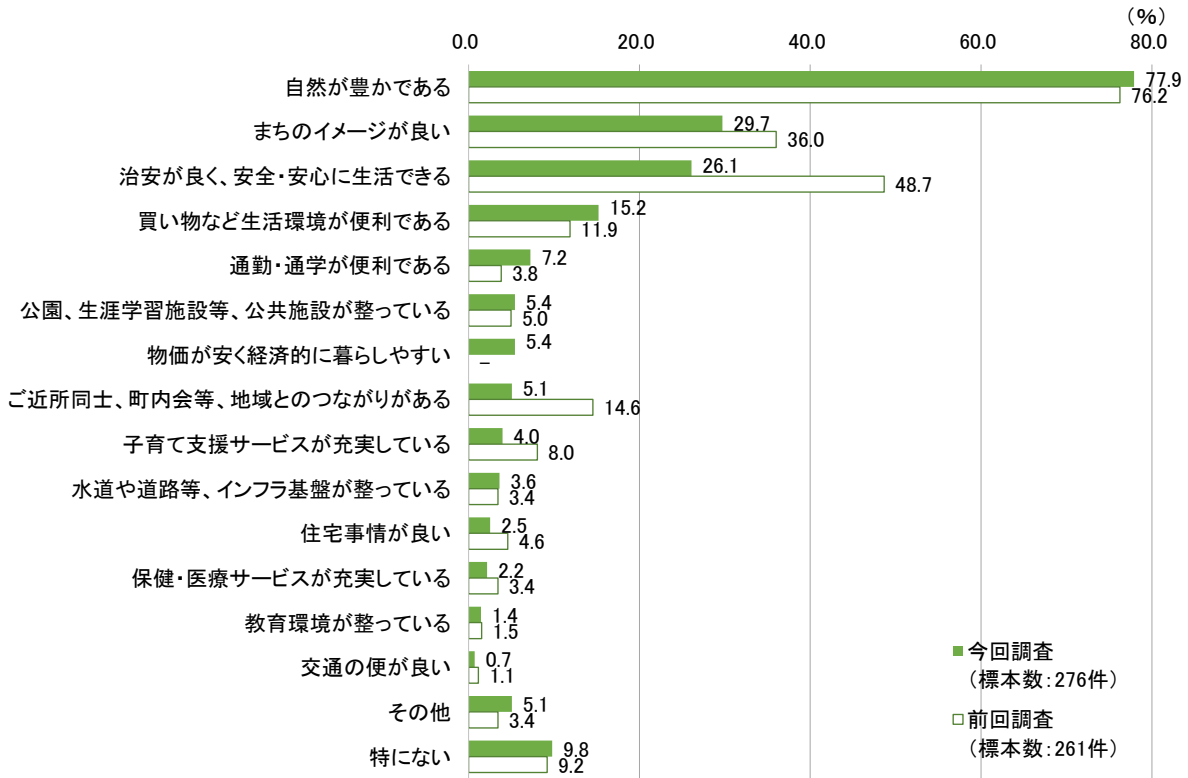


図表 95 I・Jターン者・Uターン者別 高山市での定住意向



- 高山市の暮らしやすい点は、「自然が豊かである」が77.9%で最も高く、次いで「まちのイメージが良い」が29.7%、「治安が良く、安全・安心に生活できる」が26.1%の順となっている。

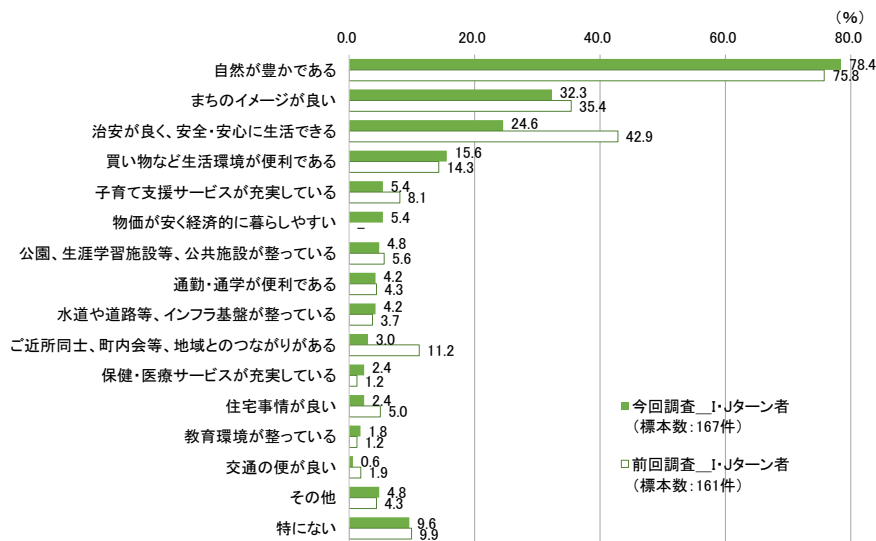
図表 96 高山市の暮らしやすい点 [複数回答]



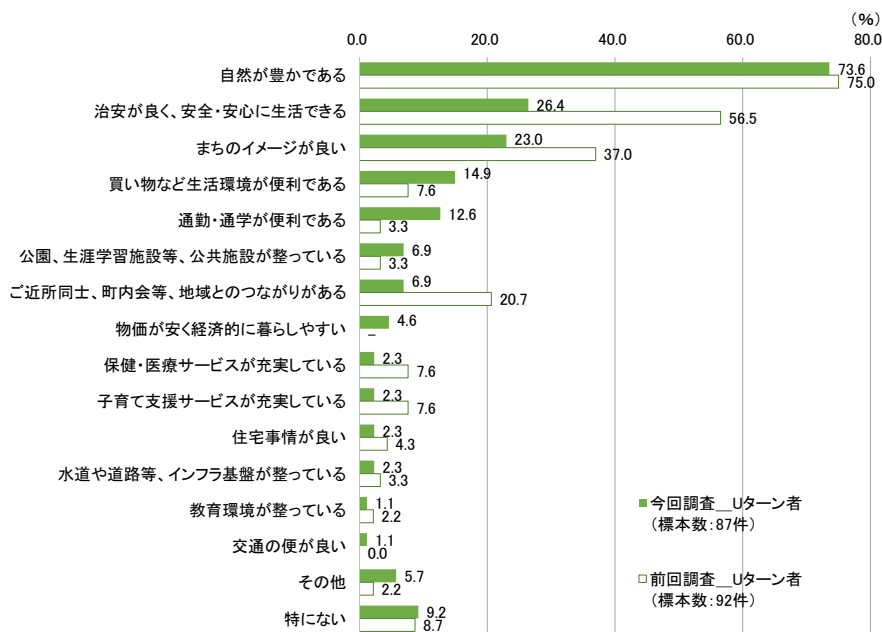
※今回調査では、新たに「物価が安く経済的に暮らしやすい」の選択肢を設けている。

- I・Jターン者、Uターン者ともに、高山市の暮らしやすい点は「自然が豊かである」が最も高くなっている。
- I・Jターン者とUターン者ともに、「治安が良く、安全・安心に生活できる」が上位になっているものの、前回調査よりも大幅にポイントが減少（I・Jターン者：18.3ポイント、Uターン者：30.1ポイント）している。
- また、I・Jターン者とUターン者ともに、「ご近所同士、町内会等、地域とのつながりがある」が減少しており、とりわけUターン者は13.8ポイント減少している。

図表 97 【I・Jターン者】高山市の暮らしやすい点 [複数回答]



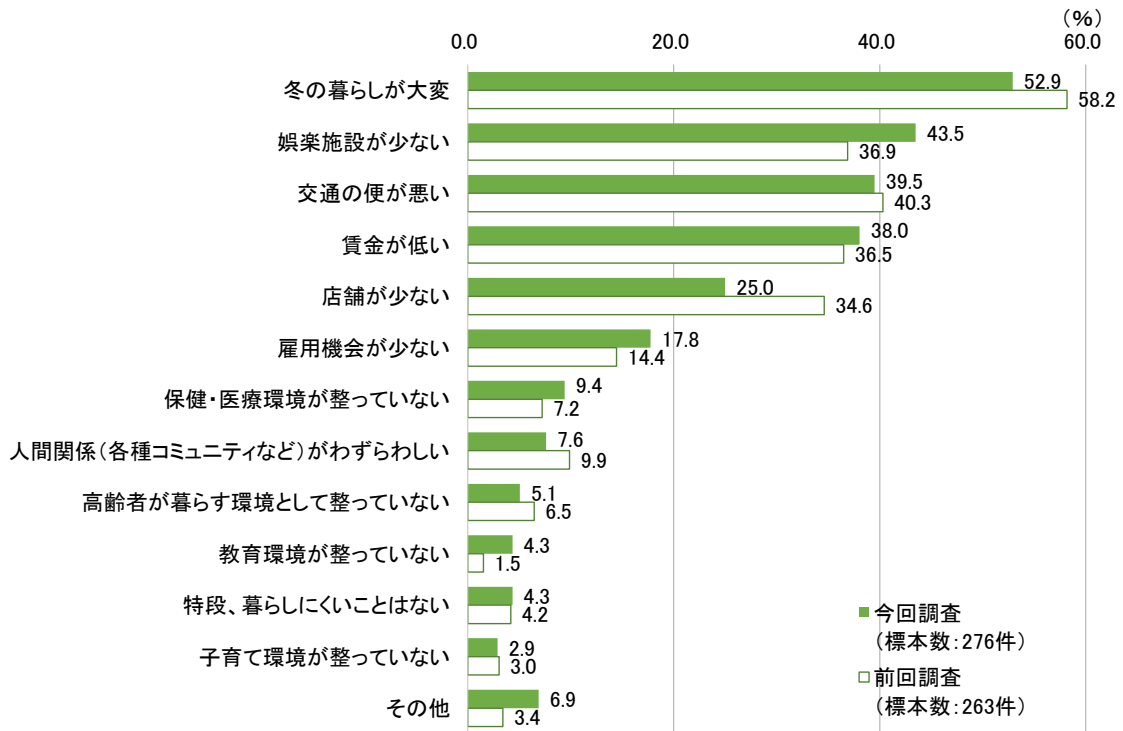
図表 98 【Uターン者】高山市の暮らしやすい点 [複数回答]



※今回調査では、新たに「物価が安く経済的に暮らしやすい」の選択肢を設けている。

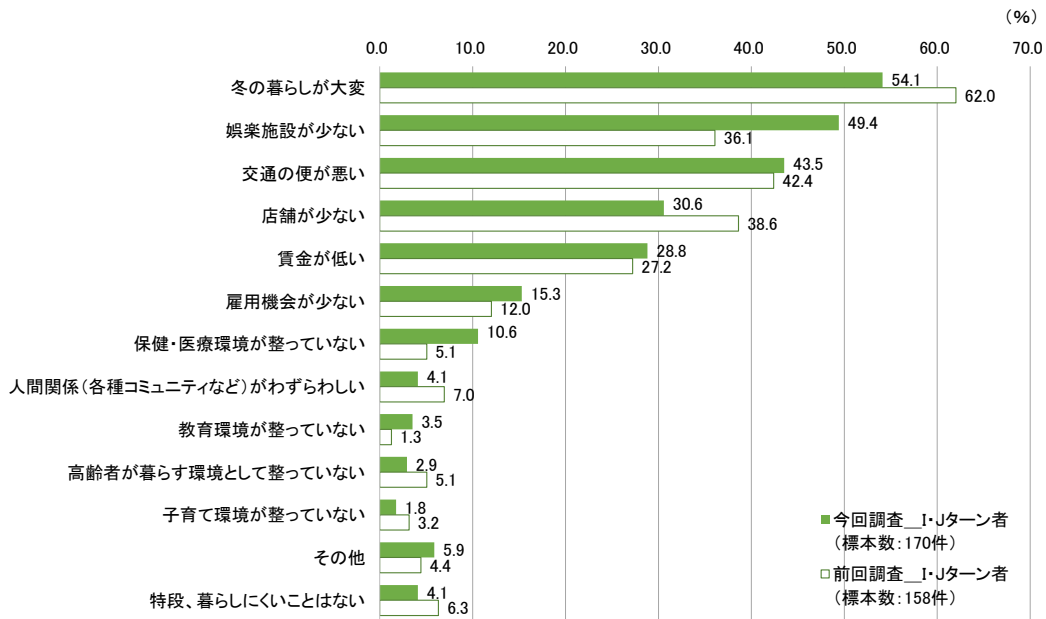
- 高山市の暮らしにくい点は、「冬の暮らしが大変」が52.9%で最も高く、次いで「娯楽施設が少ない」が43.5%、「交通の便が悪い」が39.5%の順となっている。
- 前回調査と比較して、「店舗が少ない」は9.6ポイント減少したものの、「娯楽施設が少ない」は6.6ポイント増加している。

図表 99 高山市の暮らしにくい点 [複数回答]

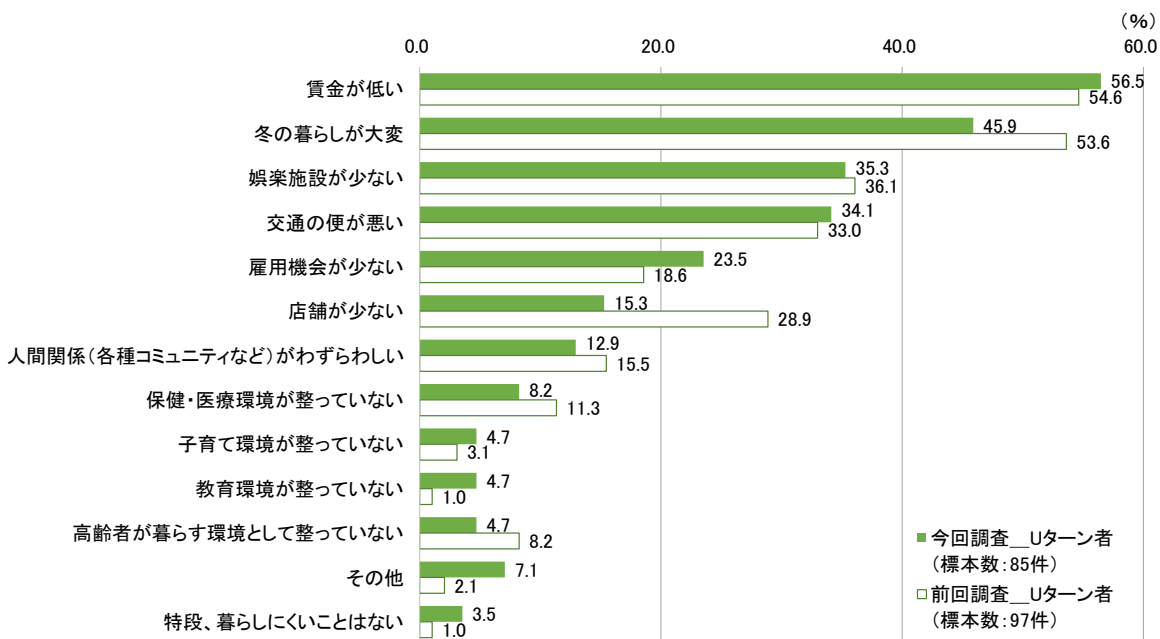


- 高山市の暮らしにくい点は、I・Jターン者は「冬の暮らしが大変」が54.1%、Uターン者は「賃金が低い」が56.5%、「冬の暮らしが大変」が45.9%で、それぞれ高くなっている。「賃金が低い」は、Uターン者はI・Jターン者よりも27.7ポイント高い。
- そのほか、I・Jターン者・Uターン者ともに「交通の便が悪い」「店舗が少ない」「娯楽施設が少ない」が上位にあげられている。

図表 100 【I・Jターン者】高山市の暮らしにくい点 [複数回答]



図表 101 【Uターン者】高山市の暮らしにくい点 [複数回答]



(7) 移住者増加に向けて

自由記述：移住者増加に向けて取り組んだ方がよいこと

● 生活・娯楽施設の充実

- ・若年層などが市外に出ていくことを防ぐため、魅力に感じるような大型商業施設、映画館等の娯楽施設を誘致する。
- ・専門店が少なく、市外に買い物に行くため、買い物の便の悪さを改善する。
- ・移住者の年齢にあった支援があると良い。お年寄りには雪かきせずとも買い物にいける場所、若者世代は車を停める場所のある住家の整備など、暮らしやすい支援があると嬉しい。

● 交通環境の改善・支援

- ・「まちなみバス」を活用して買い物や用事を済ませることが多いが、12時台に運行されていないこともあり、不便を感じている。交通の便を改善してほしい。
- ・高山での生活は車が必須と感じる。移住者への車両取得の助成があっても良い。
- ・将来的な移住者増加を真剣に望むのであるならば、積雪や道路渋滞などへの対策は必要不可欠だと思う。

● 住居に関すること

- ・移住者への補助金がなくなったとホームページにあったが、補助金が復活するとよい。
- ・幼少期と比べると空き家を多く見かけるようになった。移住者への住居提供など、空き家を有効活用できる方法があると嬉しい。
- ・公営団地のようなものがあれば、子どものいる若い人たちも住むことを考えるきっかけになるかもしれない。民間の不動産の補助よりも、移住は考えやすくなると思う。

● 仕事・雇用に関すること

- ・高山市へUターンしてくる若者の多くは、家業を継ぐ・守るための帰郷が多いように思える。新規移住者、事業者も大切だとは思いますが、地元中小企業への発展助力の機会などを増やしてもらえると嬉しく思う。
- ・若い人が憧れるような仕事が少ないので、そういった仕事を作るか、起業しやすいようにする。この地で新しく起業を考える人への支援策をもっと考えてもらえるとありがたい。
- ・給与水準の上昇、勤務条件（年間休日や福利厚生の実施）、一次産業や観光業・サービス業に偏重しない企業の誘致などを検討してほしい。

自由記述：移住者増加に向けて PR した方がよいこと

● PR 活動に関すること

- ・地域ごとに特色が異なるので、個別に PR してほしい。
- ・市で不足している人材など、移住してもらいたいターゲットを絞り込み、ピンポイントの PR やターゲット層には移住後の徹底的な支援策を構築する。
- ・移住者ネットワーク「ツラッテ」に参加している。行政が取り組みを通して移住体験の良いところ悪いところなどの意見を発信してほしい。

● 生活環境・交流に関すること

- ・より一層子育て・教育環境を充実させるとともに、高山の生活面に対する魅力を発信した方が良いと思う。
- ・観光地のイメージが強すぎると思う。観光地とは離れた環境で日常生活を送れることなどを具体例で示して PR できると良いと思う。
- ・観光地的なアピールだけではなく、人柄等にフォーカスするのは良いと思う。他県と比べると、地域のコミュニティには圧倒的に入りやすいと感じた。

● 住まい・土地に関すること

- ・移住者に対しての住宅補助金制度（住居の購入や家賃の補助）が分かりづらいので、もっと PR した方が良いと思う。実際に利用したが分かりづらかった。
- ・市営住宅を増やして生活場所を確保し、働ける場所もあることも街全体でアピールすることにより、移住者も安心度が増して高山の人口が増えるかもしれない。

● 自然環境・文化に関すること

- ・高山の歴史、文化、自然の豊かさ等を紹介する。
- ・安全・安心の食料生産や地域で自給できること、自然を壊さない地域であることをアピールする。
- ・自然豊かな地域への子どものショートステイなどを実施するなど、移住の不安を払拭できるような情報提供を行う。

4 将来の進路や仕事に関する意識・希望アンケート調査結果

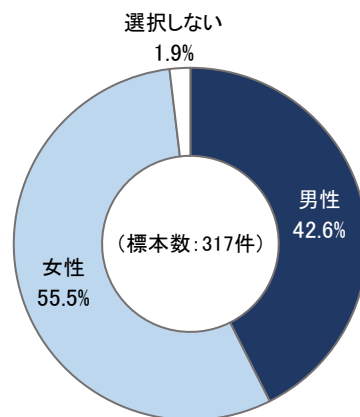
(1) 回答者の属性

- 回答者の性別は、55.5%が女性、42.6%が男性となっている。
- 回答者の居住地は高山地域が67.9%、居住年数は「15年以上」が81.1%で、それぞれ最も高くなっている。

図表 102 性別

	回答数(件)	回答率(%)
男性	135	42.6
女性	176	55.5
選択しない	6	1.9
合計	317	100.0

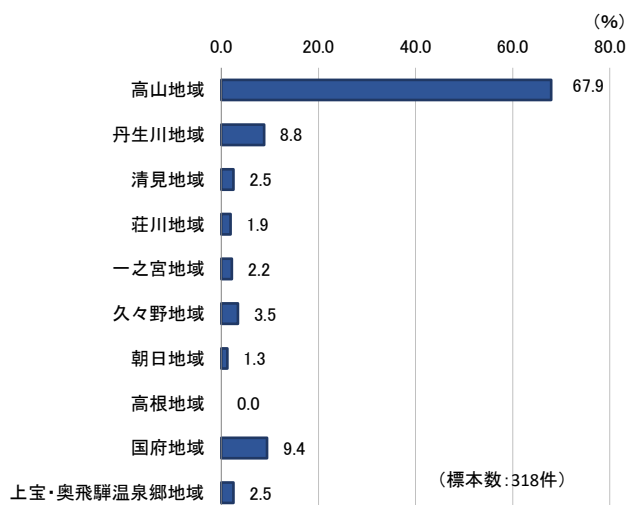
(標本数:317件)



図表 103 居住地域

	回答数(件)	回答率(%)
高山地域	216	67.9
丹生川地域	28	8.8
清見地域	8	2.5
荘川地域	6	1.9
一之宮地域	7	2.2
久々野地域	11	3.5
朝日地域	4	1.3
高根地域	0	0.0
国府地域	30	9.4
上宝・奥飛驒温泉郷地域	8	2.5
合計	318	100.0

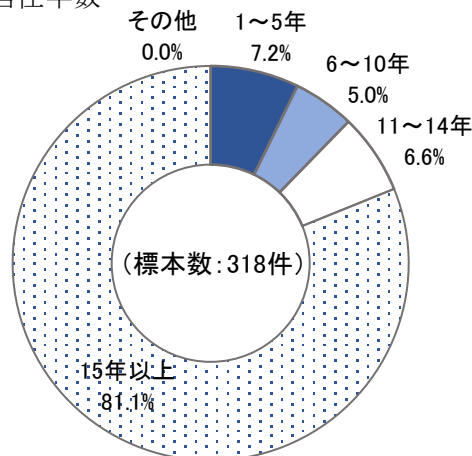
(標本数:318件)



図表 104 現在の地域での居住年数

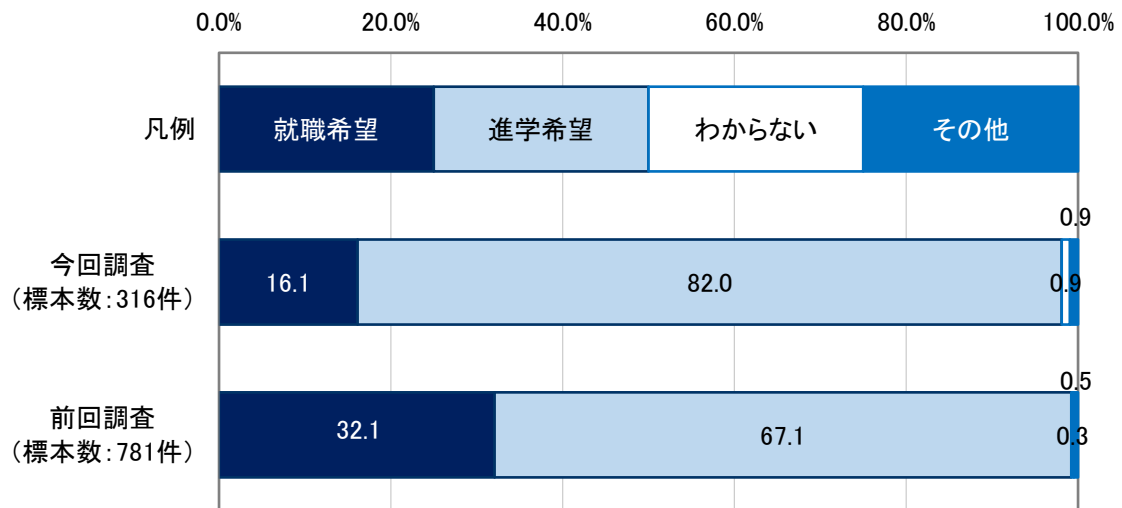
	回答数(件)	回答率(%)
1~5年	23	7.2
6~10年	16	5.0
11~14年	21	6.6
15年以上	258	81.1
その他	0	0.0
合計	318	100.0

(標本数:318件)



- 進路希望状況は、「就職希望」が16.1%、「進学希望」が82.0%であり、前回調査よりも進学希望者の割合が増加している。

図表 105 進路希望状況

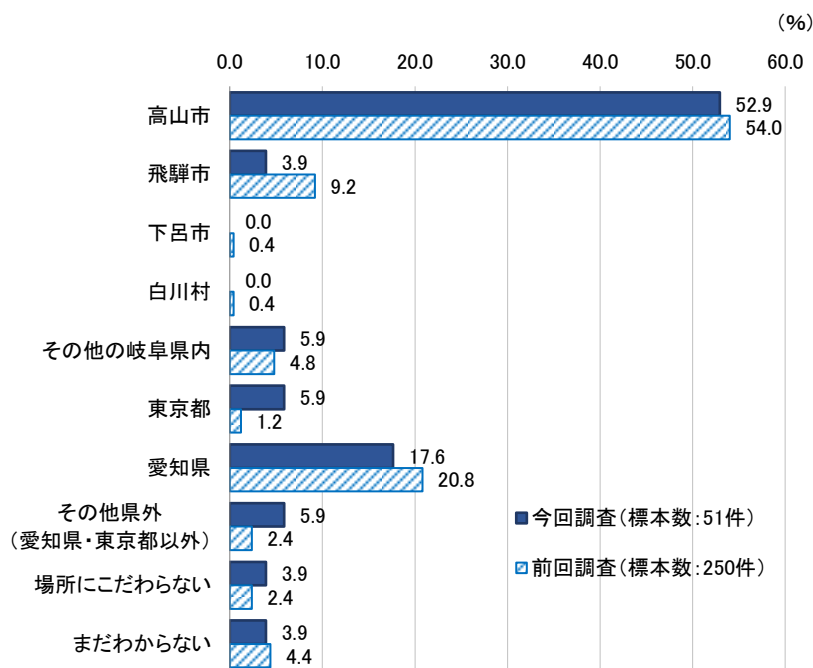


※「その他」「わからない」は回答件数が少ないため、次ページ以降の就職希望者、進学希望者の分析では、個々の分析結果は表示していない。

(2) 就職希望者の進路について

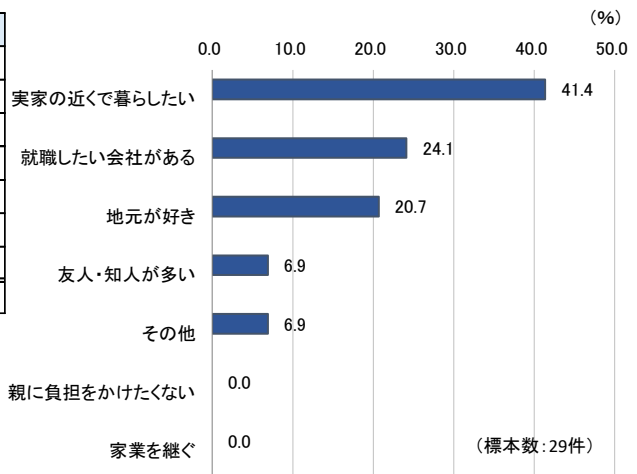
- 就職希望者の希望する就職地域は、「高山市」が 52.9%で最も高く、次いで「愛知県」が 17.6%となっている。前回調査と比較すると、飛騨地域で就職を希望する割合が減少し、「東京都」や「その他県外（愛知県・東京都以外）」での就職を希望する割合が増加している。
- 高校を卒業後、飛騨地域で就職したい理由は、「実家の近くで暮らしたい」が 41.4%で最も高く、次いで「就職したい会社がある」が 24.1%となっている。
- 就職希望地域を飛騨地域以外と回答した理由としては、「都会的な場所に住みたい」が 31.8%で最も高くなっている。「働きたい場所がない」は、前回調査と比較して 23.3 ポイント減少しており、職場がない懸念は削減されつつあることがわかる。

図表 106 【就職希望者】 就職希望地域

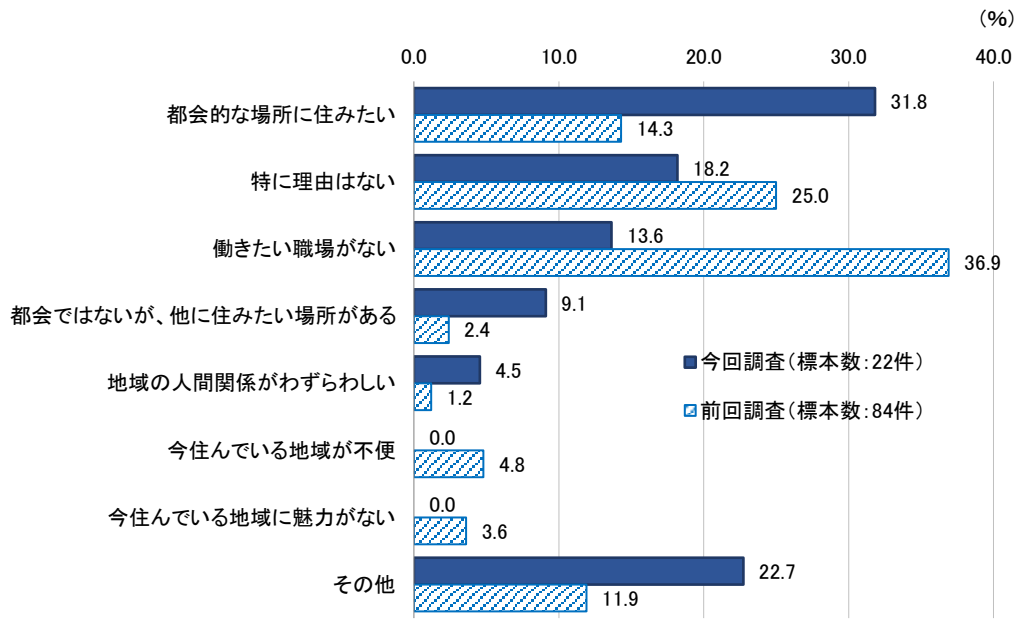


図表 107 【飛騨地域での就職希望者】 飛騨地域に就職したい理由

	回答数(件)	回答率(%)
実家の近くで暮らしたい	12	41.4
進学・就職したい学校・会社がある	7	24.1
地元が好き	6	20.7
友人・知人が多い	2	6.9
親に負担をかけたくない	0	0.0
家業を継ぐ	0	0.0
その他	2	6.9
合計	29	100.0



図表 108 【飛騨地域以外での就職希望者】 飛騨地域以外に就職したい理由

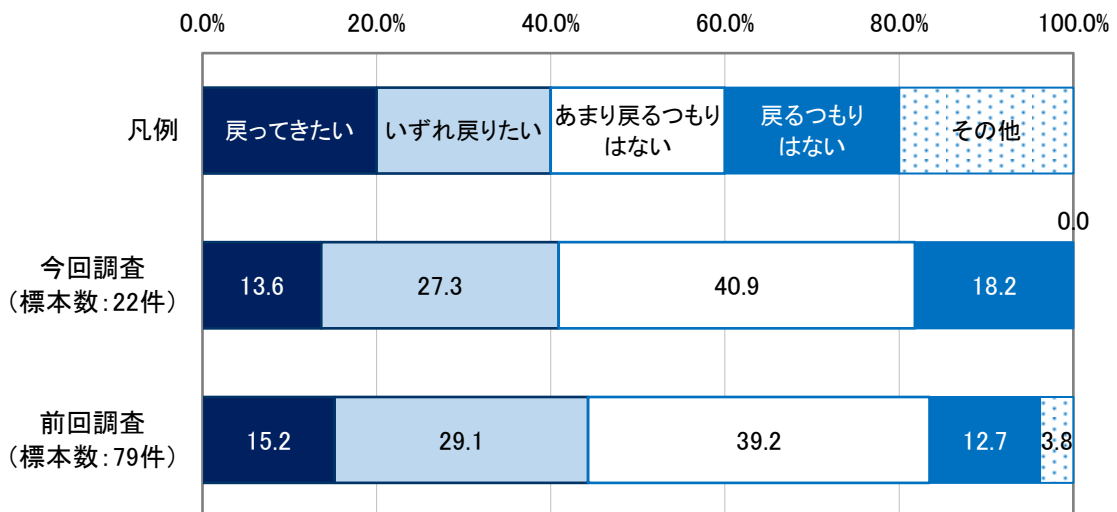


※ 「その他」 の内容

・ 「自身の地元（飛騨地域以外）で働きたい」、「今住んでいる地域以外の世界を知りたい」 など

- 飛騨地域以外で就職を希望する者の飛騨地域に戻る意向は、「あまり戻らなそう」が 40.9% で最も高くなっている。戻る意向がある割合（「戻ってきたい」、「いずれ戻りたい」の合計）は 40.9% となっているが、前回調査では 44.3% であり、3.4 ポイント減少している。

図表 109 【飛騨地域以外での就職希望者】 飛騨地域に戻る意向



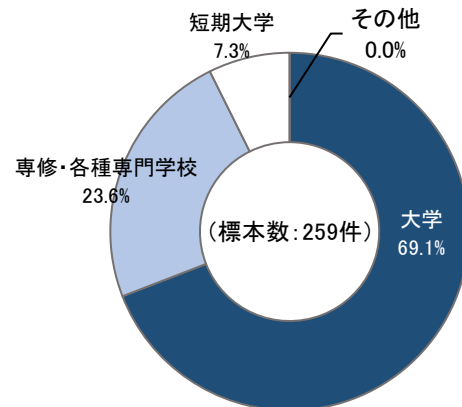
(3) 進学希望者の進路について

- 希望する進学先は、「大学」が69.1%で最も高くなっている。
- 進学先の希望地域は、大学希望者は「その他県外（愛知県・東京都以外）」が36.6%で最も高く、次いで「愛知県」が26.3%、「その他の岐阜県内」が13.1%の順となっている。専修・各種専門学校希望者は「愛知県」が49.2%、短期大学希望者は「その他の岐阜県内」が52.6%で、それぞれ最も高くなっている。

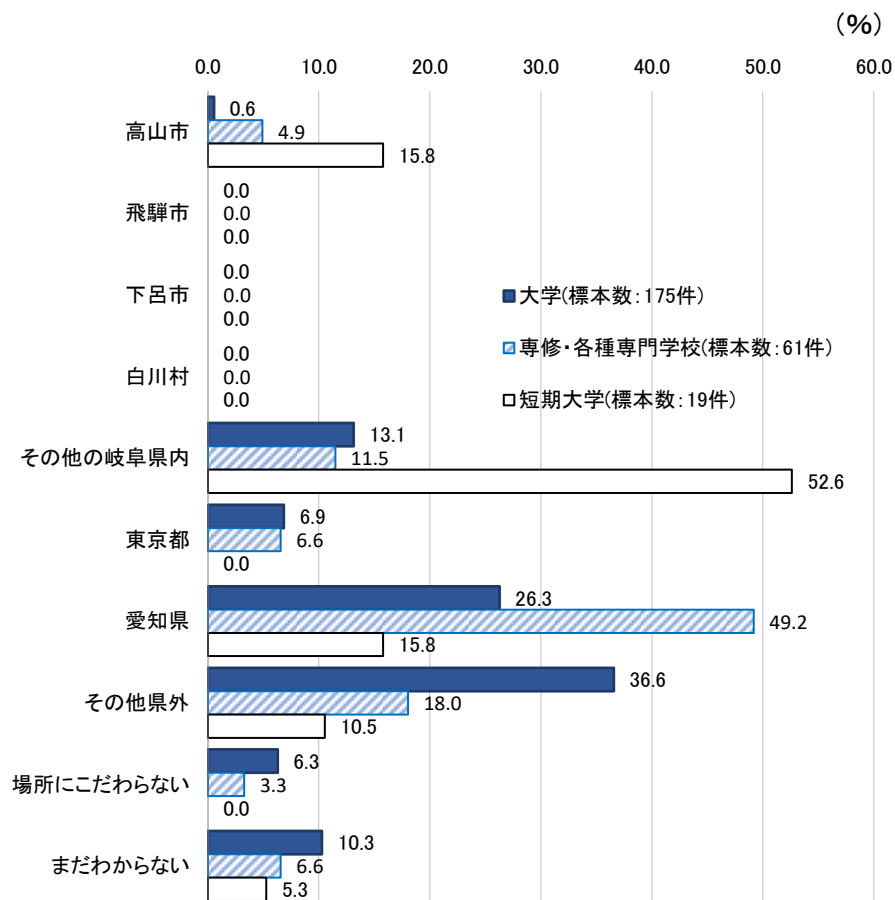
図表 110 【進学希望者】希望する進学先

	回答数(件)	回答率(%)
大学	179	69.1
専修・各種専門学校	61	23.6
短期大学	19	7.3
その他	0	0.0
合計	259	100.0

(標本数: 259件)

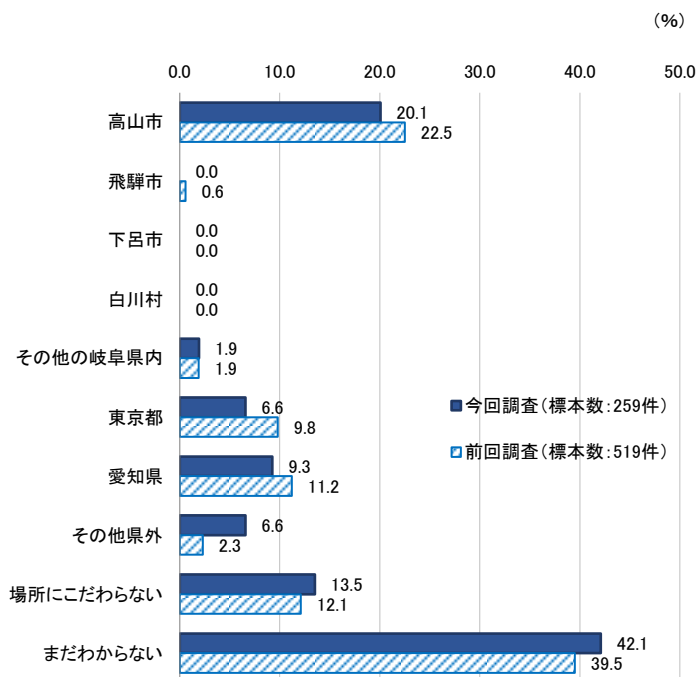


図表 111 【進学希望者】希望する進学先別 進学希望地域

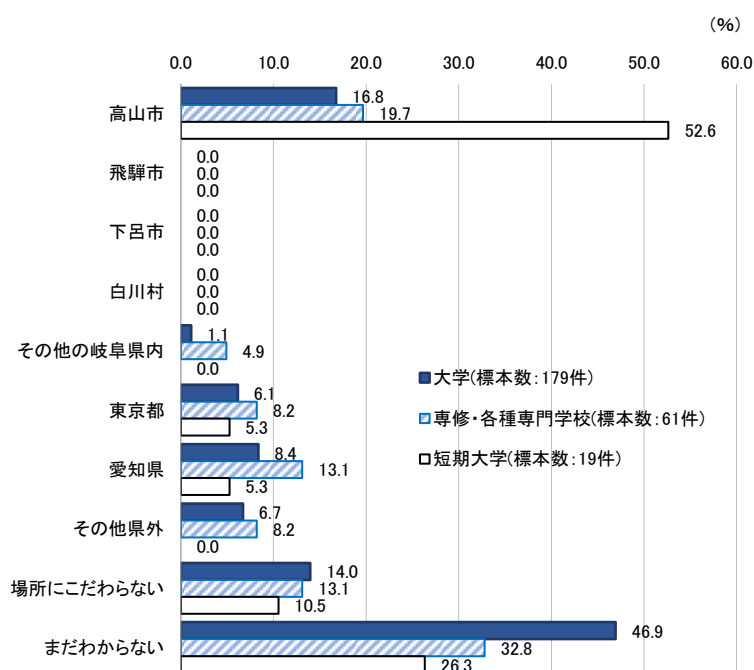


- 卒業後の就職希望地域は、「まだわからない」が42.1%で最も高く、次いで「高山市」が20.1%、「場所にこだわらない」が13.5%、「愛知県」が9.3%、「東京都」が6.6%の順となっている。高山市内への就職を希望している割合と、高山市外への就職を希望している割合はそれぞれ2割台となっている。
- 前回調査と比較すると、「高山市」での就職を希望する割合が2.4ポイント減少している。
- 進学先別でみると、「短期大学」は52.6%が「高山市」への就職を希望しているが、「専修・各種専門学校」、「大学」は2割程度にとどまっている。

図表 112 【進学希望者】進学先を卒業した後の就職希望地域

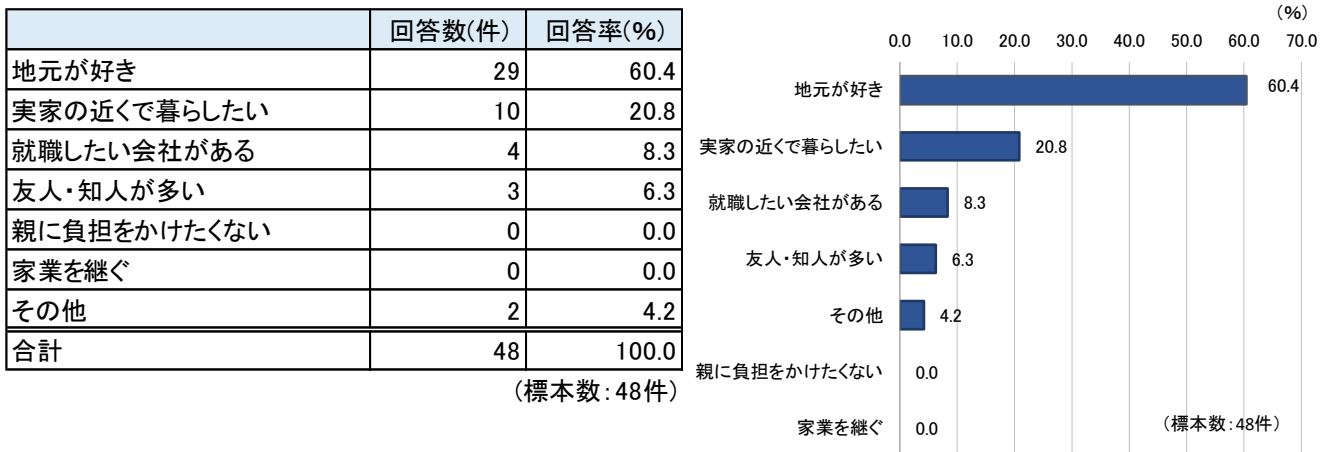


図表 113 【進学希望者】進学希望学校別 進学先を卒業した後の就職希望地域

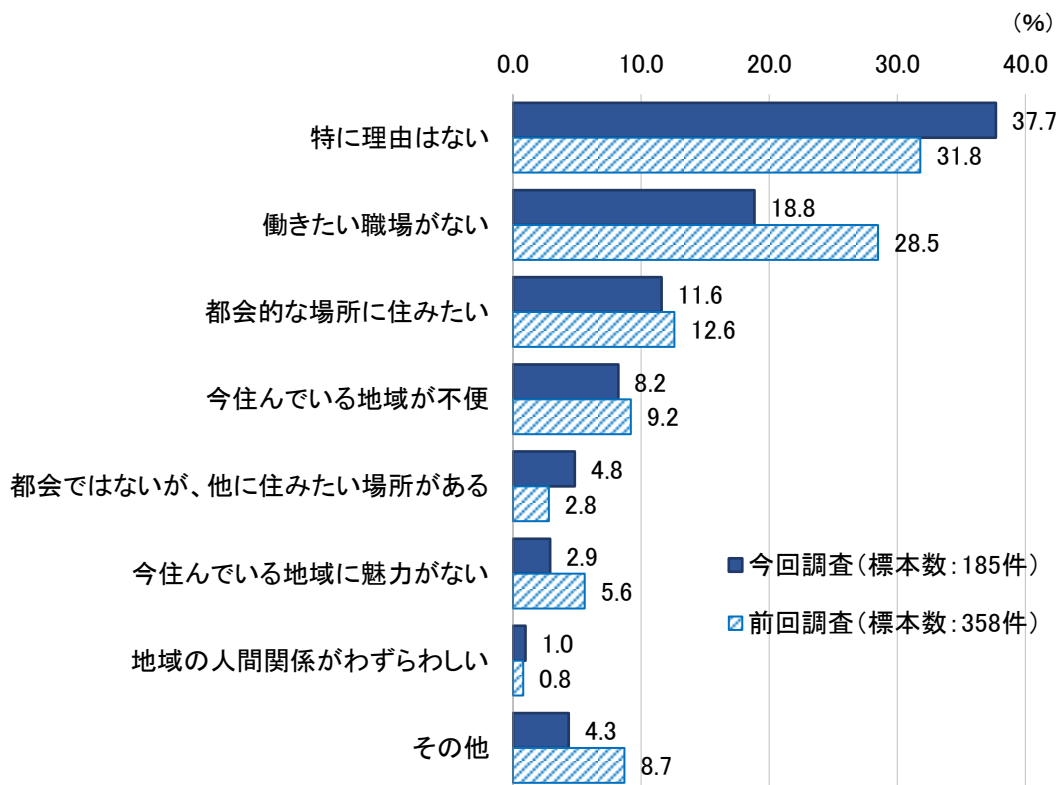


- 進学先を卒業後、飛驒地域で就職したい理由は、「地元が好き」が60.4%で最も高く、次いで「実家の近くで暮らしたい」が20.8%となっている。
- 飛驒地域以外を選択した理由としては、「特に理由はない」が37.7%で最も高く、次いで「働きたい場所がない」が18.8%、「都会的な場所に住みたい」が11.6%の順となっている。
- 前回調査と比較すると、「特に理由はない」が、前回から5.9ポイント増加し、それ以外の項目で2項目を除き、ポイントが減少している。

図表 114 【進学先を卒業後、飛驒地域で就職を希望する人】飛驒地域で就職したい理由

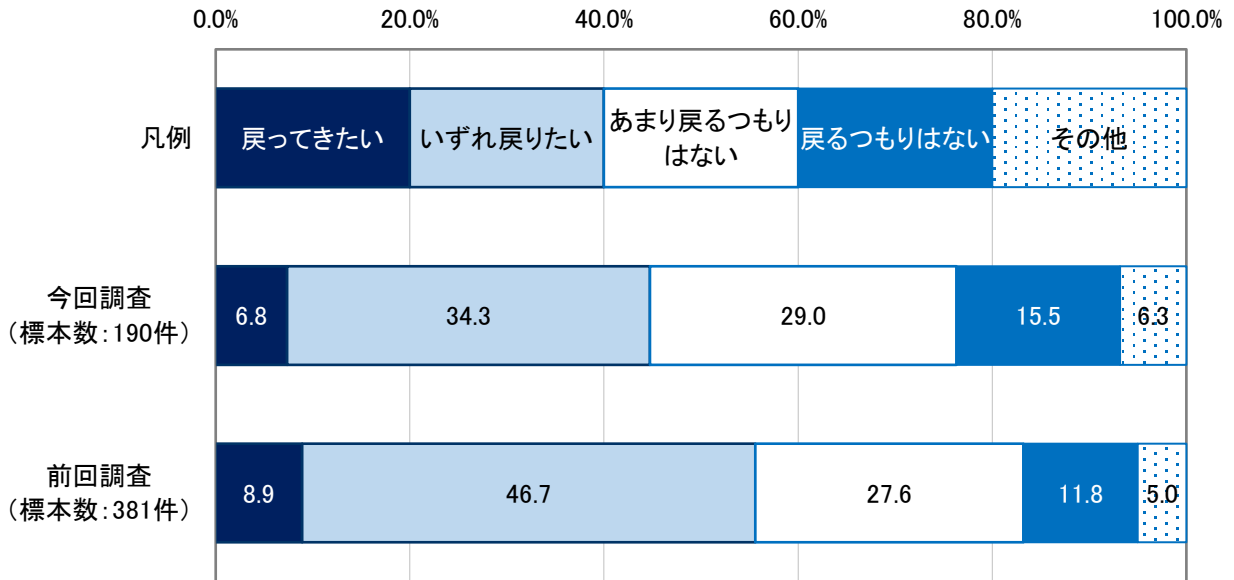


図表 115 【進学先を卒業後、飛驒地域以外での就職を希望する人】飛驒地域以外で就職したい理由



- 飛騨地域以外で就職を希望する者のうち、飛騨地域へ戻る意向は、「いずれ戻りたい」が 34.3%で、「戻ってきたい」と合わせると 41.1%となっている。前回調査では 55.6%であり、14.5ポイント減少している。
- 「戻るつもりはない」、「あまり戻るつもりはない」を合わせると 44.5%となっており、前回調査から 5.1%増加している。

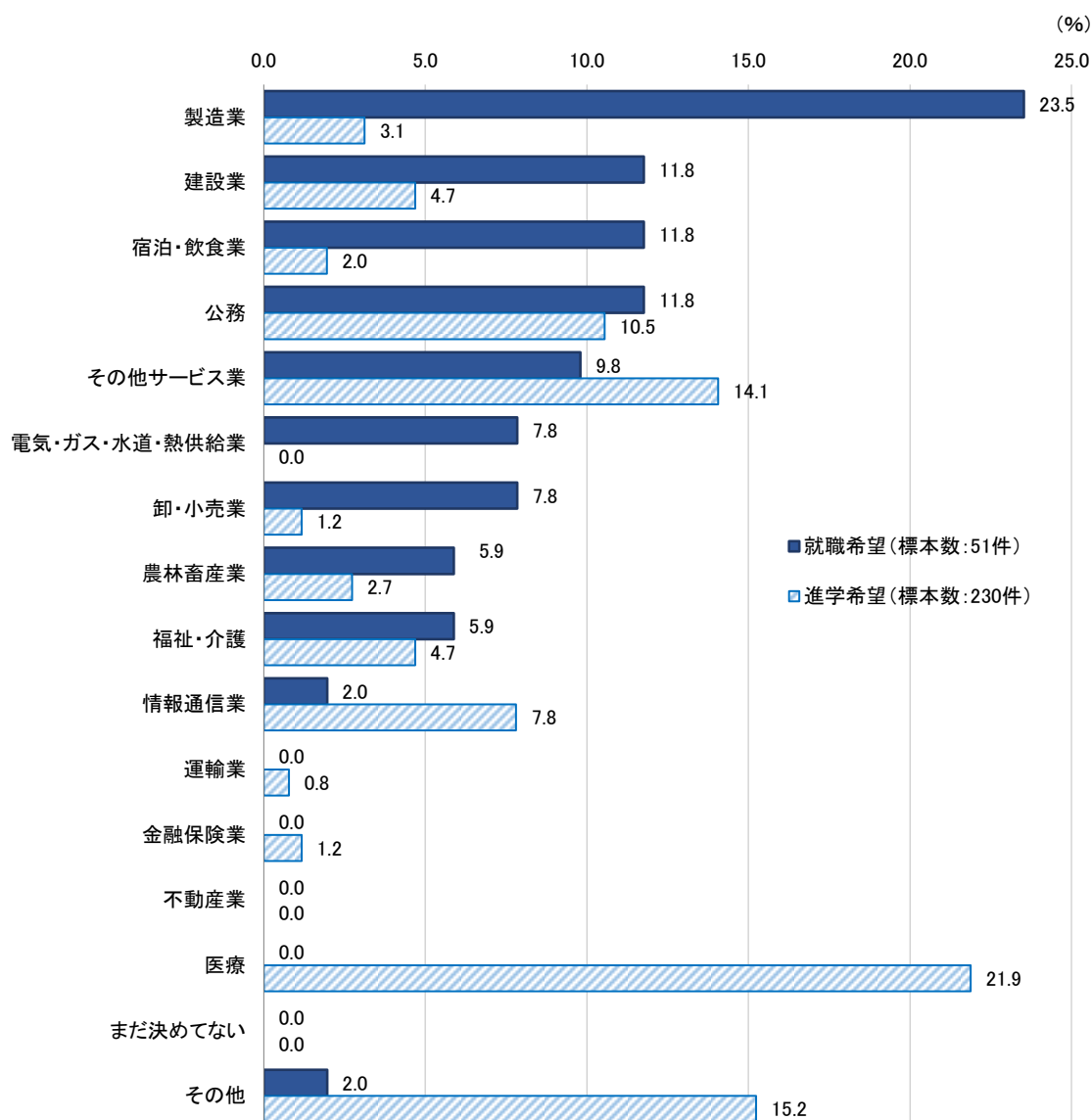
図表 116 【進学後、飛騨地域以外での就職を希望する人】 飛騨地域に戻る意向



(4) 希望する仕事の業種や職種

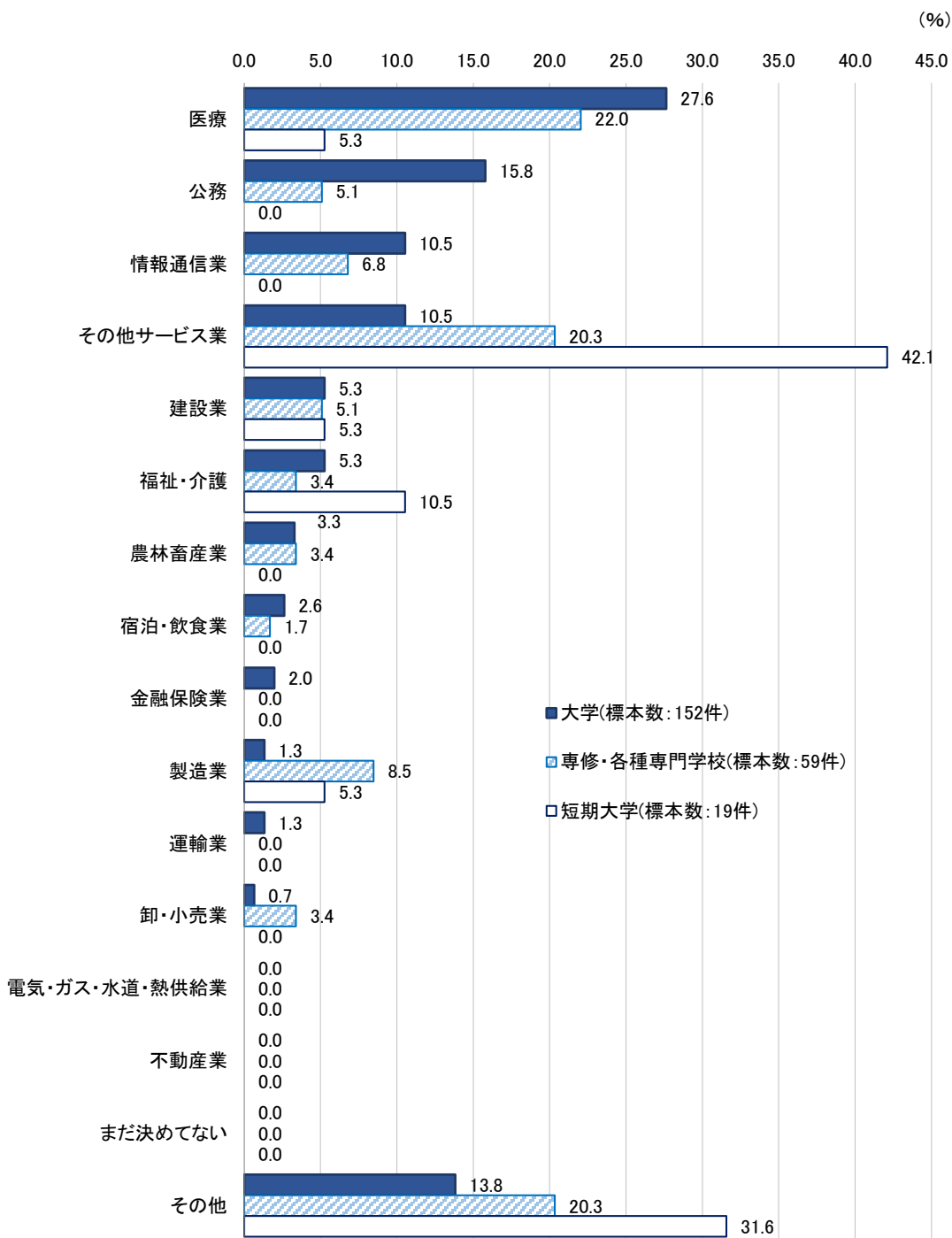
- 希望する進路別に将来やりたい仕事の業種をみると、就職希望者は「製造業」が23.5%で最も高く、次いで「建設業」、「宿泊・飲食業」、「公務」が並んで11.8%となっている。
- 進学希望者は「医療」が21.9%で最も高く、次いで「その他」が15.2%、「その他サービス業」が14.1%の順となっている。

図表 117 就職・進学希望別 将来やりたい仕事の業種（1位）



- 進学希望者の希望学校別に将来やりたい仕事の業種をみると、大学希望者は「医療」が27.6%で最も高く、次いで「公務」が15.8%、「情報通信業」、「その他サービス業」が並んで10.5%の順となっている。専修・各種専門学校希望者は「医療」が22.0%で最も高く、次いで「その他サービス業」、「その他」が並んで20.3%となっている。短期大学希望者は「その他サービス業」が42.1%で最も高く、次いで「その他」が31.6%、「福祉・介護」が10.5%となっている。

図表 118 【進学希望者】進学希望学校別 将来やりたい仕事の業種（1位）



- 将来やりたい仕事の業種を前回調査と比較すると、就職希望者は「製造業」が前回調査と同様で最も高いが、9.8ポイント減少している。進学希望者は「医療」が、前回調査と同様で最も高くなっている。

図表 119 【就職希望者】 将来やりたい仕事の業種（1位～3位）

将来やりたい仕事の業種	前回調査(1位のみ掲載)		1位		2位		3位	
	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)
製造業	81	33.3%	12	23.5%	0	0.0%	1	11.1%
建設業	11	4.5%	6	11.8%	1	7.7%	2	22.2%
宿泊・飲食業	11	4.5%	6	11.8%	1	7.7%	0	0.0%
公務	23	9.5%	6	11.8%	1	7.7%	1	11.1%
その他サービス業	34	14.0%	5	9.8%	3	23.1%	2	22.2%
電気・ガス・水道・熱供給業	20	8.2%	4	7.8%	0	0.0%	1	11.1%
卸・小売業	16	6.6%	4	7.8%	0	0.0%	0	0.0%
農林畜産業	9	3.7%	3	5.9%	0	0.0%	0	0.0%
福祉・介護	7	2.9%	3	5.9%	0	0.0%	0	0.0%
情報通信業	1	0.4%	1	2.0%	2	15.4%	0	0.0%
運輸業	8	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
金融保険業	7	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
不動産業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医療	6	2.5%	0	0.0%	1	7.7%	0	0.0%
まだ決めてない	6	2.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	3	1.2%	1	2.0%	4	30.8%	2	22.2%
合計	243	100.0%	51	100.0%	13	100.0%	9	100.0%

※今回調査の1位順に並び替えている

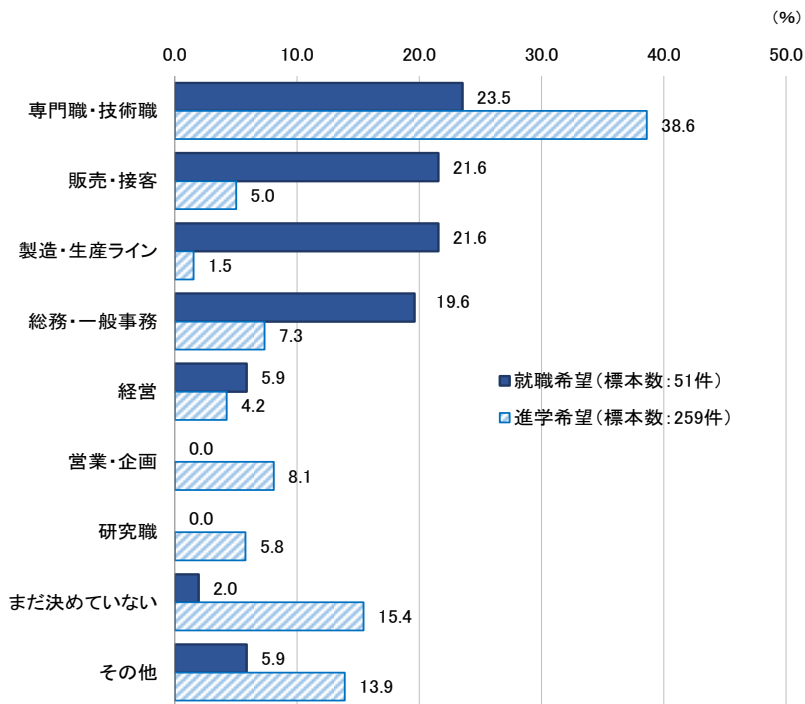
図表 120 【進学希望者】 将来やりたい仕事の業種（1位～3位）

将来やりたい仕事の業種	前回調査(1位のみ掲載)		1位		2位		3位	
	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)
医療	122	23.6%	56	24.3%	7	10.1%	6	14.0%
その他サービス業	85	16.4%	36	15.7%	8	11.6%	8	18.6%
公務	59	11.4%	27	11.7%	10	14.5%	6	14.0%
情報通信業	30	5.8%	20	8.7%	3	4.3%	2	4.7%
建設業	13	2.5%	12	5.2%	1	1.4%	2	4.7%
福祉・介護	30	5.8%	12	5.2%	7	10.1%	1	2.3%
製造業	24	4.6%	8	3.5%	5	7.2%	3	7.0%
農林畜産業	9	1.7%	7	3.0%	5	7.2%	0	0.0%
宿泊・飲食業	19	3.7%	5	2.2%	4	5.8%	5	11.6%
卸・小売業	6	1.2%	3	1.3%	1	1.4%	3	7.0%
金融保険業	8	1.5%	3	1.3%	7	10.1%	0	0.0%
運輸業	2	0.4%	2	0.9%	1	1.4%	2	4.7%
電気・ガス・水道・熱供給業	7	1.4%	0	0.0%	1	1.4%	2	4.7%
不動産業	4	0.8%	0	0.0%	2	2.9%	1	2.3%
まだ決めてない	55	10.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	45	8.7%	39	17.0%	7	10.1%	2	4.7%
合計	518	100.0%	230	100.0%	69	100.0%	43	100.0%

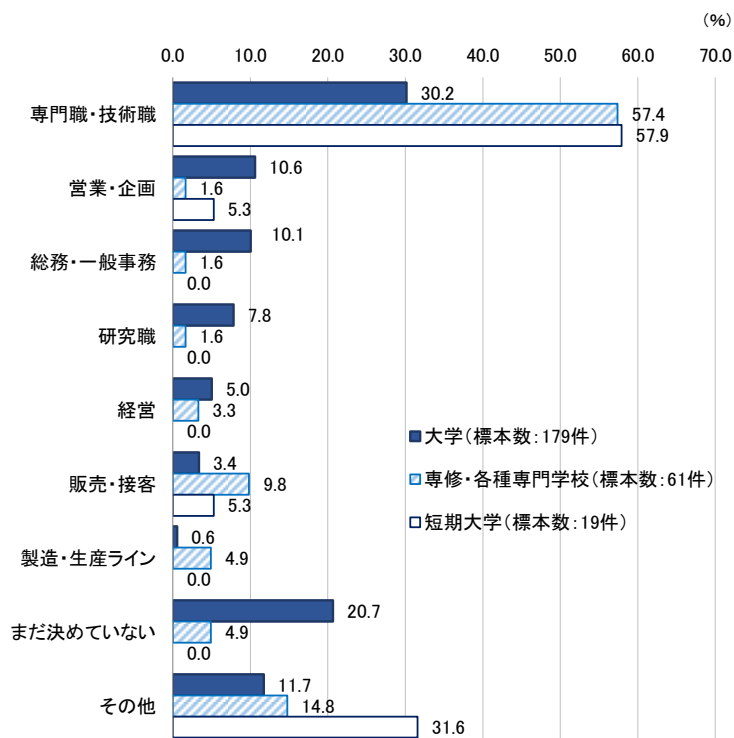
※今回調査の1位順に並び替えている

- 将来やりたい仕事の職種は、就職希望者、進学希望者ともに「専門職・技術職」が最も高い。
- 進学希望者の希望する学校別にみると、すべての進学先において「専門職・技術職」が最も高く、短期大学希望者は57.9%、専修・各種専門学校希望者は57.4%、大学希望者は30.2%となっている。また、大学希望者は「まだ決めていない」が20.7%、「その他」が11.7%となっている。

図表 121 就職・進学希望別 将来やりたい仕事の職種（1位）



図表 122 進学希望学校別 将来やりたい仕事の職種（1位）



- 将来やりたい仕事の職種を前回調査と比較すると、就職希望者、進学希望者ともに回答率の変化の傾向が同様に、「専門職・技術職」の割合が最も高いものの割合が減少しており、「その他」の割合が上がっている。特に進学希望者では「総務・一般事務」の減少ポイントと「営業・企画」の増加ポイントが大きくなっている。

図表 123 【就職希望者】 将来やりたい仕事の職種（1位～3位）

将来やりたい仕事の職種	前回調査(1位のみ掲載)		1位		2位		3位	
	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)
専門職・技術職	82	33.6%	12	23.5%	3	23.1%	3	30.0%
営業・企画	46	18.9%	11	21.6%	4	30.8%	0	0.0%
総務・一般事務	56	23.0%	11	21.6%	0	0.0%	2	20.0%
研究職	36	14.8%	10	19.6%	1	7.7%	1	10.0%
販売・接客	1	0.4%	3	5.9%	0	0.0%	1	10.0%
経営	9	3.7%	0	0.0%	4	30.8%	2	20.0%
製造・生産ライン	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
まだ決めていない	10	4.1%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	0.4%	3	5.9%	1	7.7%	1	10.0%
合計	244	100.0%	51	100.0%	13	100.0%	10	100.0%

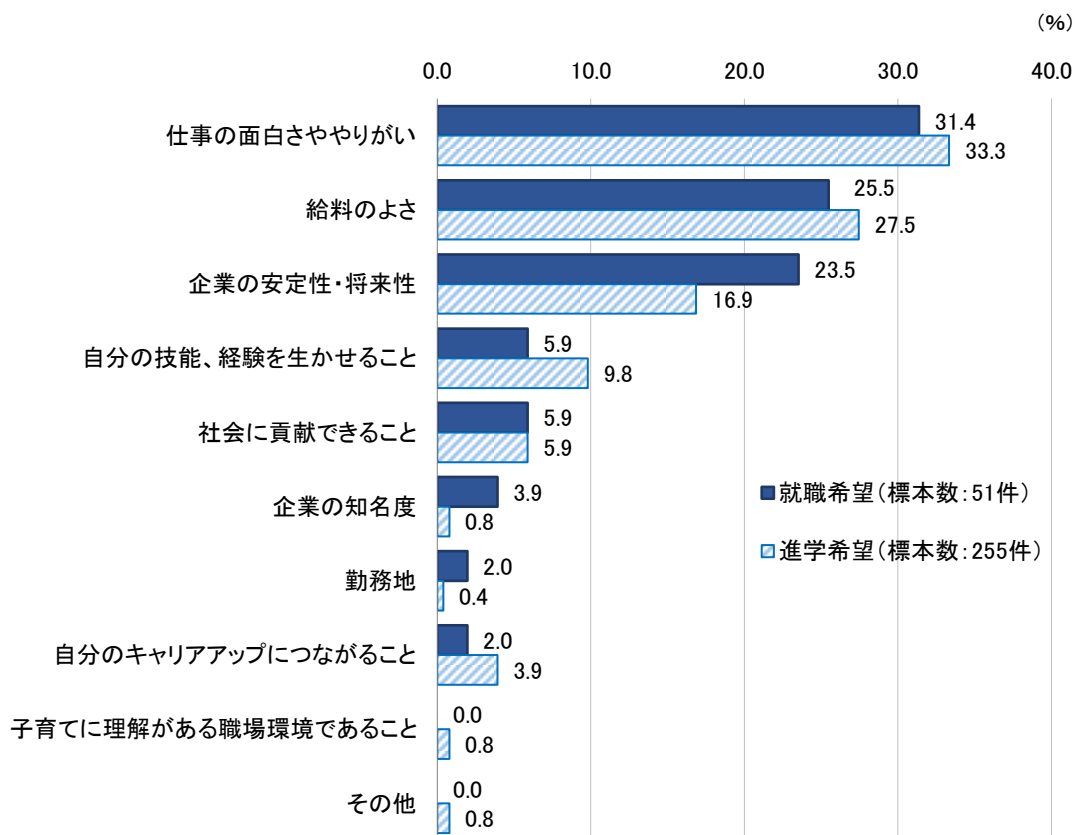
図表 124 【進学希望者】 将来やりたい仕事の職種（1位～3位）

将来やりたい仕事の職種	前回調査(1位のみ掲載)		1位		2位		3位	
	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)
専門職・技術職	249	51.3%	100	38.6%	13	16.5%	11	18.6%
営業・企画	27	5.6%	21	8.1%	11	13.9%	6	10.2%
総務・一般事務	54	11.1%	19	7.3%	16	20.3%	4	6.8%
研究職	24	4.9%	15	5.8%	9	11.4%	4	6.8%
販売・接客	22	4.5%	13	5.0%	10	12.7%	4	6.8%
経営	23	4.7%	11	4.2%	4	5.1%	7	11.9%
製造・生産ライン	4	0.8%	4	1.5%	3	3.8%	3	5.1%
まだ決めていない	77	15.9%	40	15.4%	11	13.9%	17	28.8%
その他	5	1.0%	36	13.9%	2	2.5%	3	5.1%
合計	485	100.0%	259	100.0%	79	100.0%	59	100.0%

(5) 仕事を選ぶ上で重視していることや希望する働き方

- 仕事を選ぶ上で重視していることを進路希望別にみると、就職希望者、進学希望者のいずれも「仕事の面白さややりがい」が最も高く、次いで「給料のよさ」、「企業の安定性・将来性」が続き、さらに「自分の技能、経験を生かせること」、「社会に貢献できること」の順になっている。次いで、就職希望者は「企業の知名度」が続き、進学希望者は「自分のキャリアアップにつながること」が続いている。
- 就職希望者は「企業の安定性・将来性」が進学希望者より 6.6 ポイント高く、進学希望者は「自分の技能・技術を生かせること」が就職希望者より 3.9 ポイント高くなっている。

図表 125 就職・進学希望別 仕事を選ぶ上で重視していること (1位)



- 仕事を選ぶ上で重視していることを前回調査と比較すると、就職希望者は「仕事の面白さややりがい」の比率が4.7ポイント増加している。進学希望者は「自分の技能、経験を生かせること」が6.2ポイント減少し、「給料のよさ」が5.0ポイント増加している。

図表 126 【就職希望者】仕事を選ぶ上で重視していること（1位～3位）

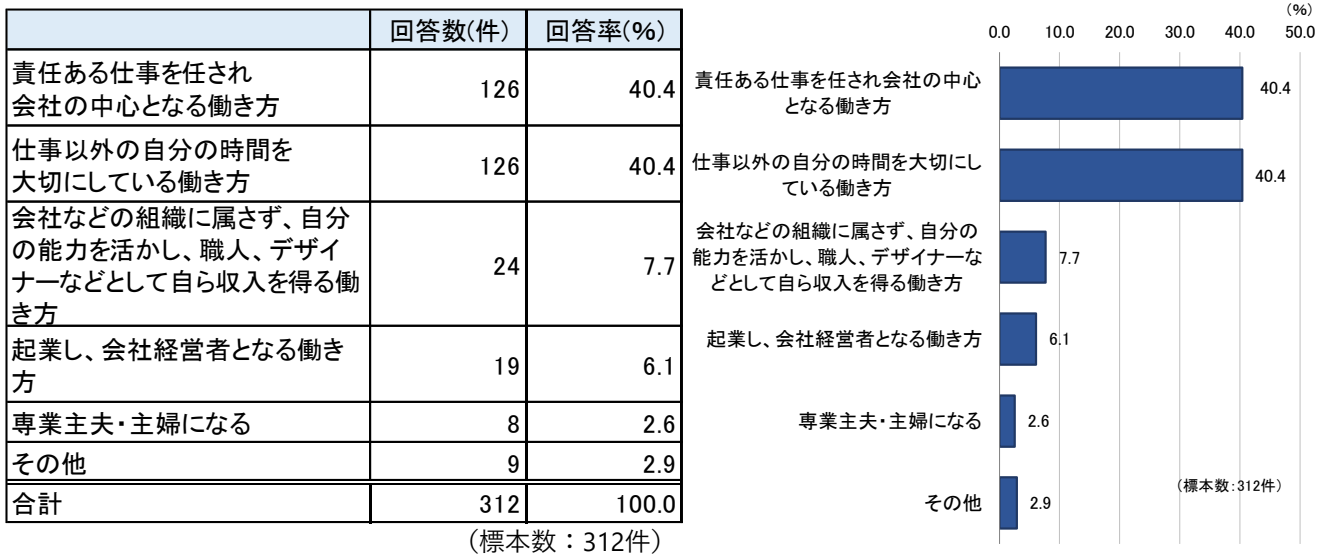
仕事を選ぶ上で重視していること	前回調査(1位のみ掲載)		1位		2位		3位	
	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)
仕事の面白さややりがい	64	26.7%	16	31.4%	5	13.5%	8	25.0%
給料のよさ	52	21.7%	13	25.5%	11	29.7%	11	34.4%
企業の安定性・将来性	60	25.0%	12	23.5%	10	27.0%	3	9.4%
自分の技能、経験を生かせること	23	9.6%	3	5.9%	1	2.7%	5	15.6%
社会に貢献できること	9	3.8%	3	5.9%	1	2.7%	1	3.1%
企業の知名度	5	2.1%	2	3.9%	1	2.7%	2	6.3%
勤務地	9	3.8%	1	2.0%	5	13.5%	1	3.1%
自分のキャリアアップにつながる事	6	2.5%	1	2.0%	2	5.4%	1	3.1%
子育てに理解がある職場環境であること	4	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	8	3.3%	0	0.0%	1	2.7%	0	0.0%
合計	240	100.0%	51	100.0%	37	100.0%	32	100.0%

図表 127 【進学希望者】仕事を選ぶ上で重視していること（1位～3位）

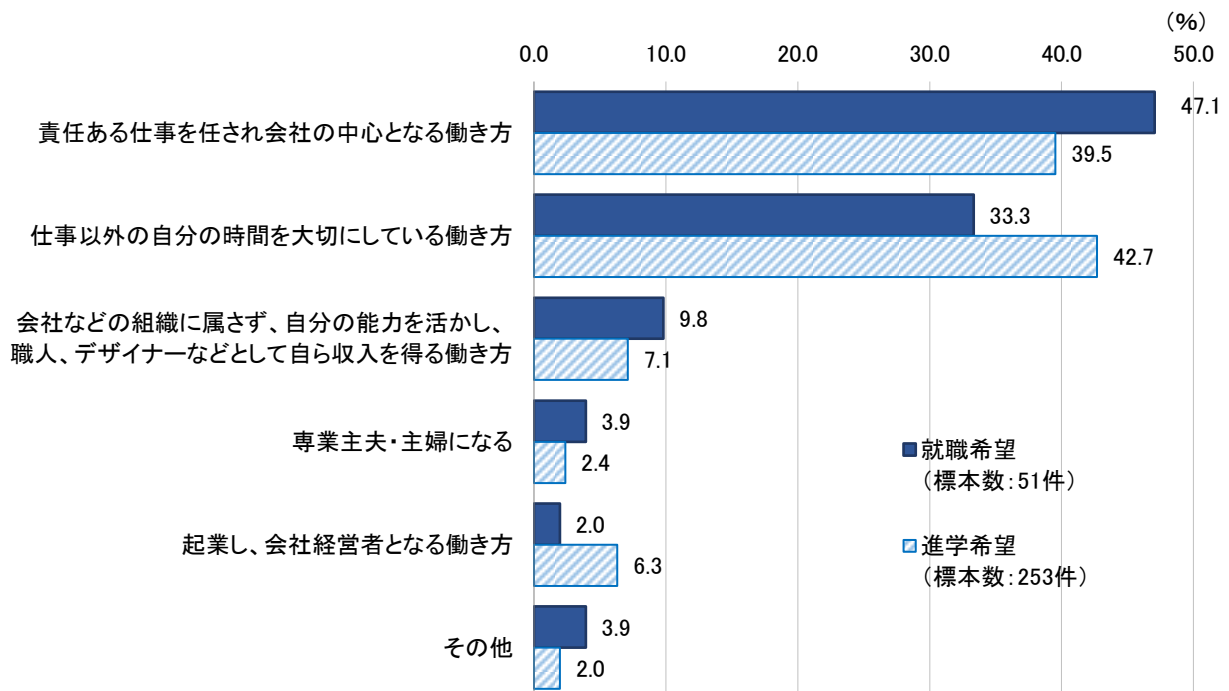
仕事を選ぶ上で重視していること	前回調査(1位のみ掲載)		1位		2位		3位	
	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)
仕事の面白さややりがい	156	30.5%	85	33.3%	40	18.9%	43	23.5%
給料のよさ	115	22.5%	70	27.5%	76	35.8%	35	19.1%
企業の安定性・将来性	101	19.7%	43	16.9%	42	19.8%	26	14.2%
自分の技能、経験を生かせること	82	16.0%	25	9.8%	23	10.8%	17	9.3%
社会に貢献できること	26	5.1%	15	5.9%	12	5.7%	16	8.7%
自分のキャリアアップにつながる事	11	2.1%	10	3.9%	5	2.4%	11	6.0%
企業の知名度	4	0.8%	2	0.8%	4	1.9%	8	4.4%
子育てに理解がある職場環境であること	6	1.2%	2	0.8%	3	1.4%	10	5.5%
勤務地	7	1.4%	1	0.4%	6	2.8%	15	8.2%
その他	4	0.8%	2	0.8%	1	0.5%	2	1.1%
合計	512	100.0%	255	100.0%	212	100.0%	183	100.0%

- 将来、希望する働き方としては「責任ある仕事を任され会社の中心となる働き方」と「仕事以外の自分の時間を大切にしている働き方」が並んで 40.4% で最も高くなっている。
- 就職・進学別にみると、進学希望者の方が「仕事以外の自分の時間を大切にしている働き方」を希望する割合が高くなっている。

図表 128 将来、どのような働き方をしたいか



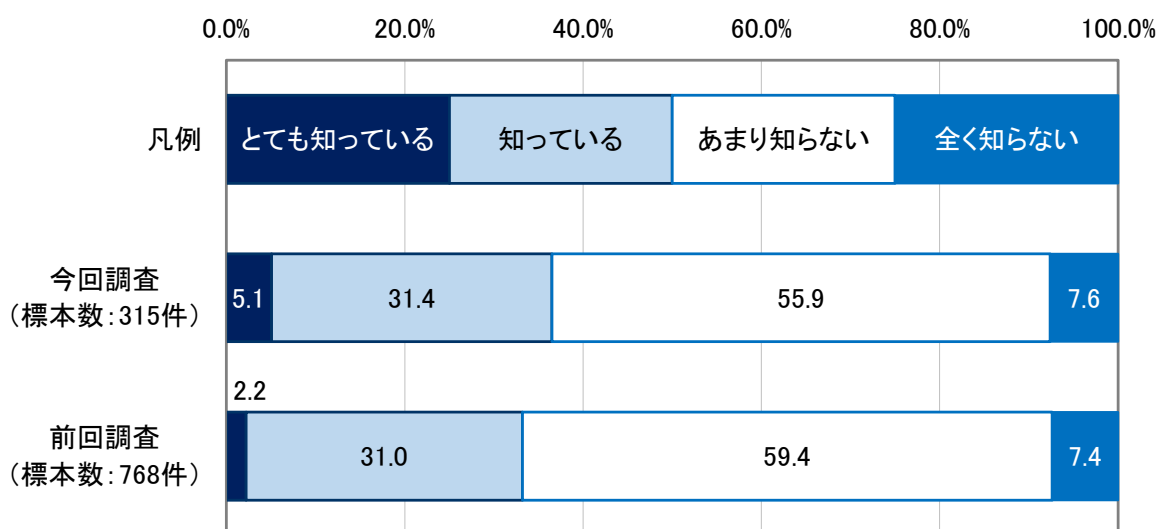
図表 129 就職・進学別 将来、どのような働き方をしたいか



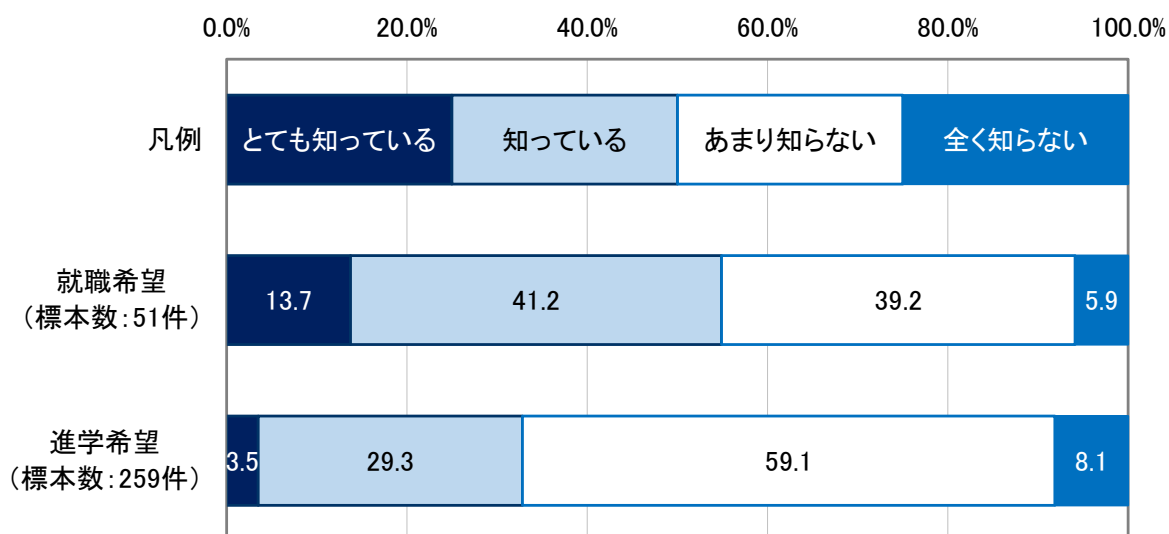
(6) 飛騨地域の企業や職場の認知度等

- 飛騨地域にある会社や仕事に関する認知度としては、「あまり知らない」が55.9%で最も高く、次いで「知っている」が31.4%となっている。
- 前回調査と比較すると、「とても知っている」が2.9ポイント増加している。「あまり知らない」「まったく知らない」の合計は今回調査では63.5%となっており、前回調査から3.3ポイント減少している。
- 就職希望者は、「とても知っている」「知っている」の合計が54.9%で半数を超えているが、進学希望者は「あまり知らない」が59.1%で6割近くに及んでいる。

図表 130 飛騨地域にある会社や仕事に関する認知度

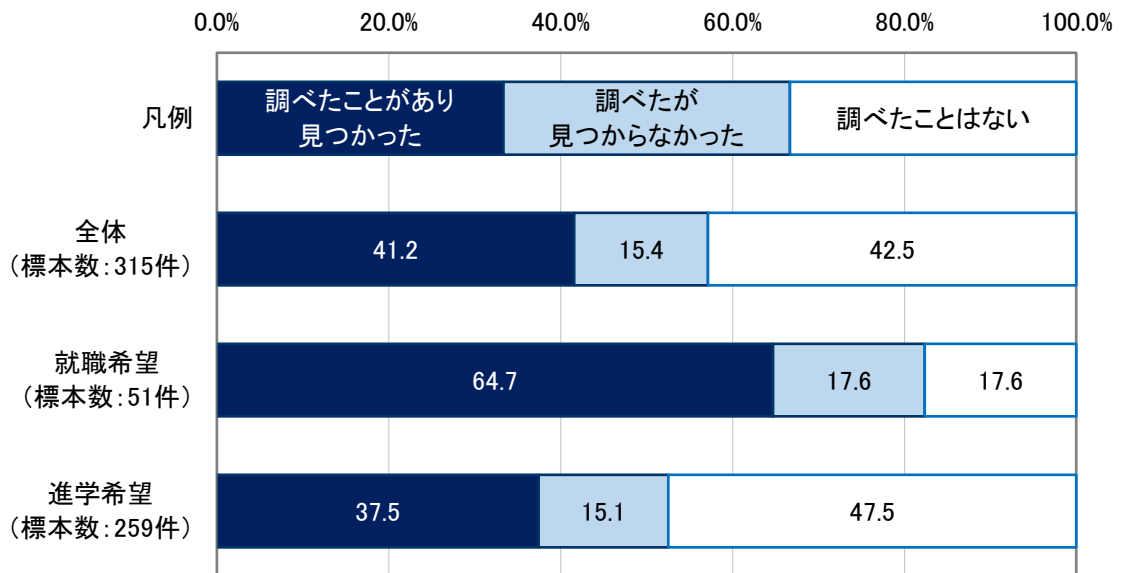


図表 131 就職・進学希望別 飛騨地域にある会社や仕事に関する認知度



- 将来、やりたい仕事について、飛騨地域でそのような企業・職場があるか調べた経験は、就職希望者は「調べたことがあり見つかった」が64.7%で最も高く、次いで「調べたが見つからなかった」と「調べていない」が並んで17.6%となっている。
- 進学希望者は、「調べたことはない」が47.5%で最も高くなっている。

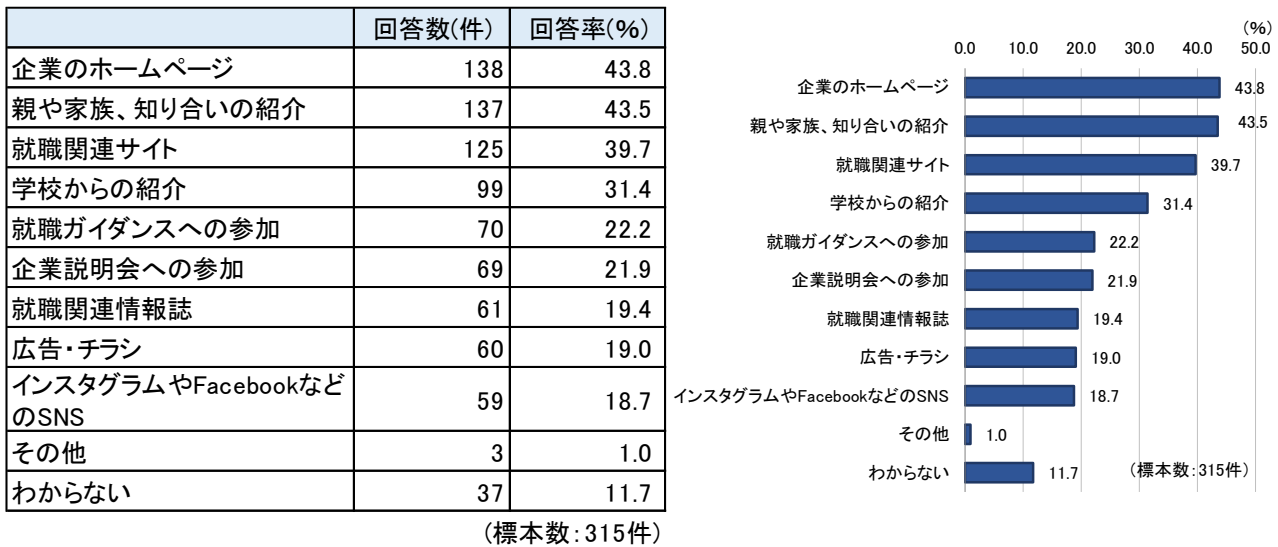
図表 132 将来、やりたい仕事について、飛騨地域でそのような企業・職場あるか調べた経験



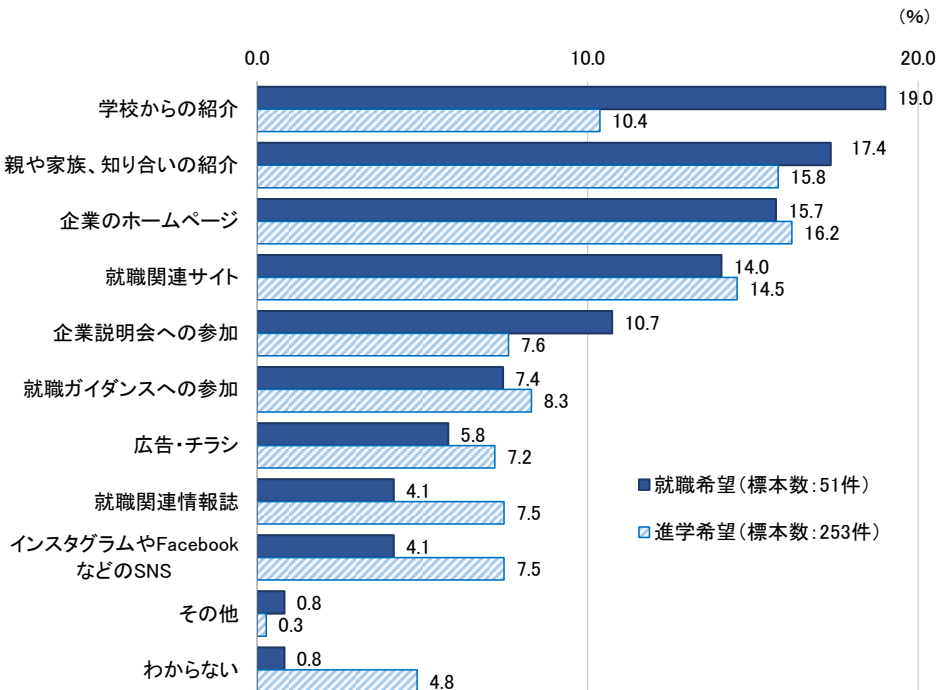
(7) 就職先を検討する際の情報源や就職ガイダンス等への参加意向

- 就職の際の参考とする情報源は、「企業のホームページ」が43.8%で最も高く、次いで「親や家族、知り合いの紹介」が43.5%、「就職関連サイト」が39.7%の順となっている。
- 就職・進学希望別にみると、就職希望者は「学校からの紹介」、「親や家族、知り合いの紹介」の割合が高くなっている。進学希望者は「企業のホームページ」の割合が高くなっている。

図表 133 就職の際の参考とする情報源 [複数回答]

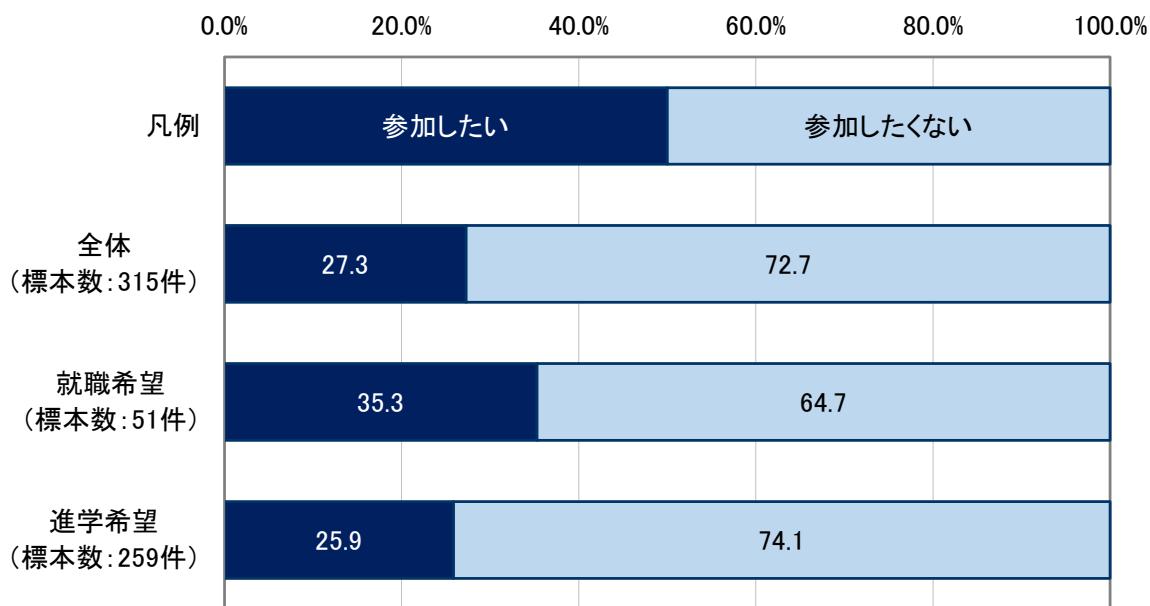


図表 134 就職・進学希望別 就職の際の参考とする情報源 [複数回答]

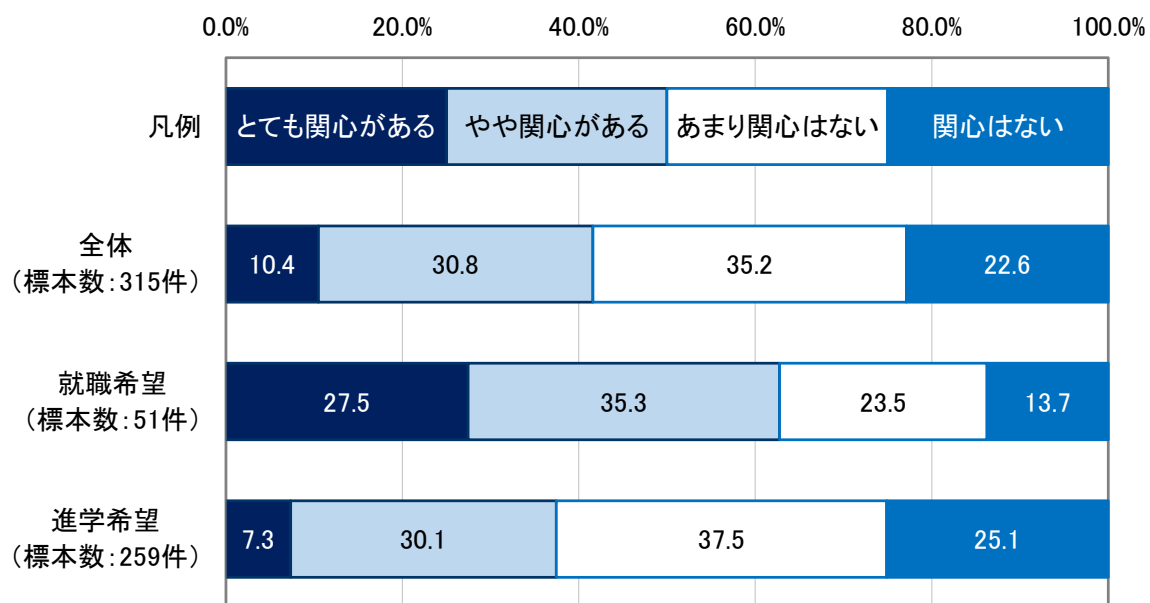


- 高山市主催の就職ガイダンスへの参加意向は、就職希望者は35.3%が「参加したい」と回答しているのに対し、進学希望者は25.9%にとどまっている。
- 職場見学会への関心度についても同様の傾向にあり、就職希望者は62.8%が「とても関心がある」、「やや関心がある」と回答しているのに対し、進学希望者は37.4%にとどまっている。

図表 135 高山市主催の地元企業の採用担当者と話ができる「就職ガイダンス」への参加意向



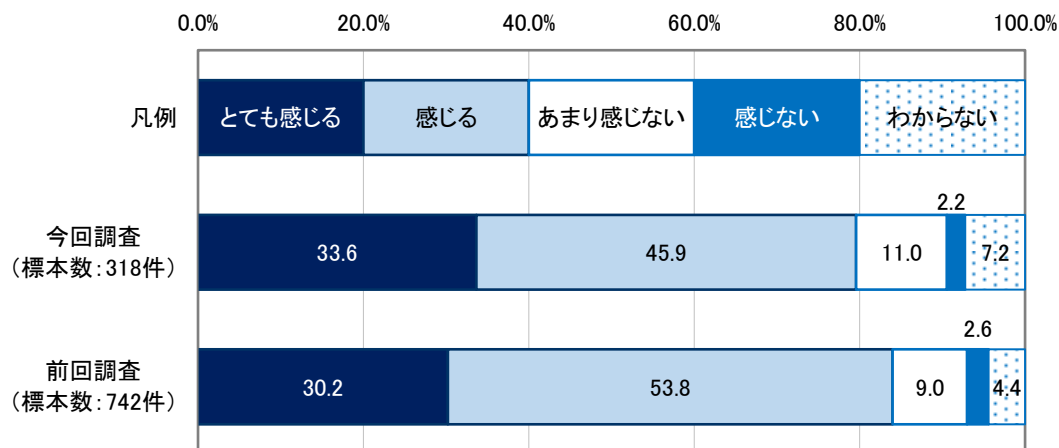
図表 136 高山市内の企業を訪問し、実際に職場を見たり話を聞いたりする「職場見学会」への関心



(8) 住んでいる地域への愛着や住みやすさ

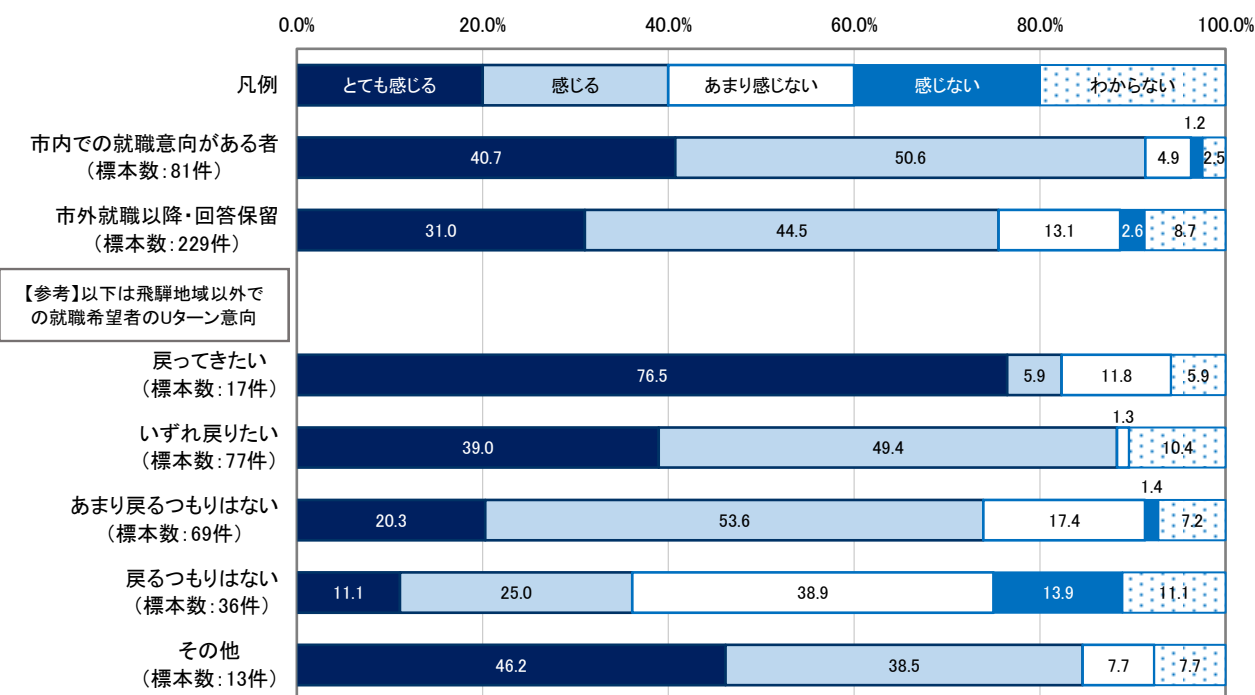
- 住んでいる地域への愛着は、「とても感じる」が33.6%、「感じる」が45.9%で合わせて79.5%となっている。
- 前回調査と比較すると、「とても感じる」の割合が3.4ポイント増加している。

図表 137 住んでいる地域への愛着



- 市内就職意向と住んでいる地域への愛着の関係をみると、市内就職意向がある者の方が愛着を感じている。また、飛騨地域以外での就職希望者は、「戻ってきたい」、「いずれ戻りたい」というUターン意向がある者ほど地域への愛着を強く持っている。

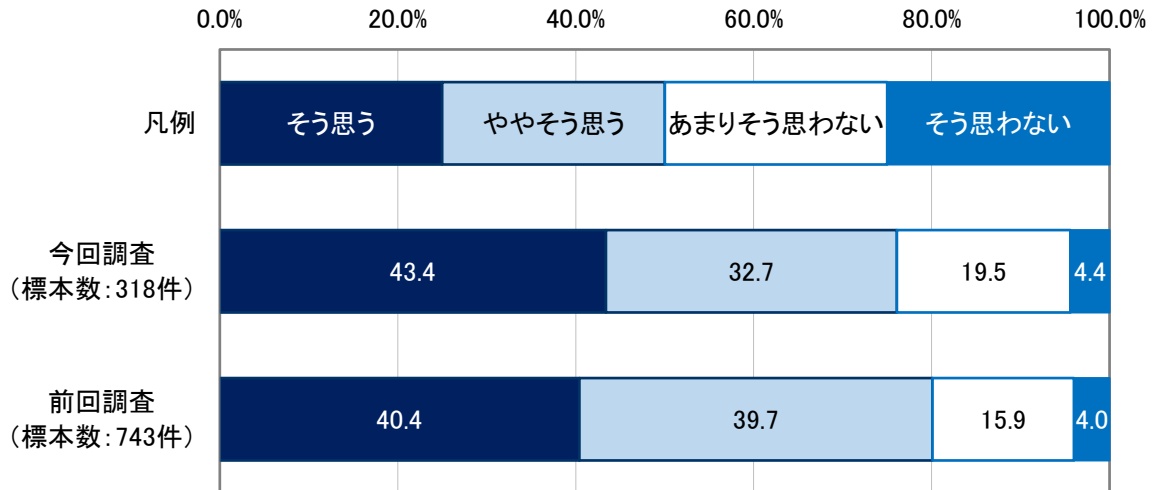
図表 138 市内就職意向別・Uターン意向別 住んでいる地域への愛着



※「市内での就職意向がある者」は、進路先（就職希望・進学希望）にかかわらず、高山市での就職を希望した者である。

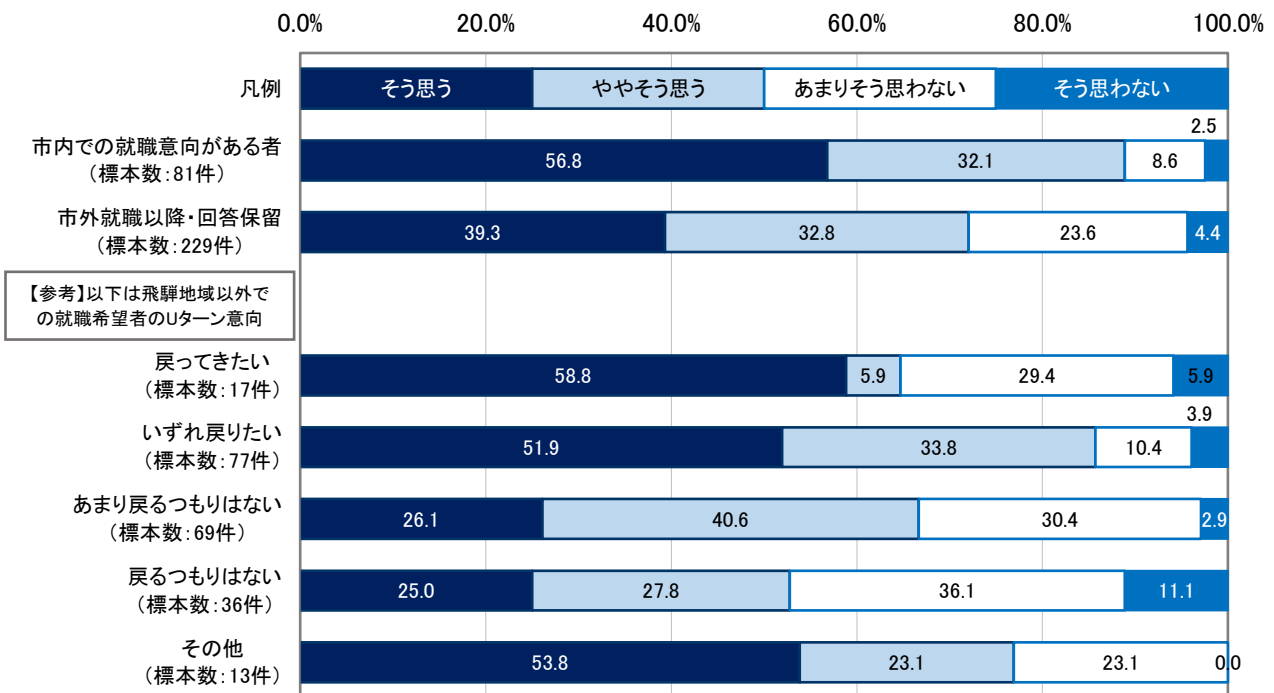
- 住んでいる地域の住みやすさについては、「そう思う」が43.4%、「ややそう思う」が32.7%で、合わせて76.1%となっている。
- 前回調査と比較すると、「そう思う」が3.0ポイント増加しているが、肯定的な意見（「そう思う」「ややそう思う」の合計）は4.0ポイント減少している。

図表 139 住んでいる地域の住みやすさ



- 市内就職意向と地域の住みやすさの関係をみると、市内就職意向がある者の方が住みやすさを感じている。また、飛騨地域以外での就職希望者は、「戻ってきたい」、「いずれ戻りたい」というUターン意向がある者ほど住みやすさを感じている。

図表 140 市内就職意向別・Uターン意向別 住んでいる地域の住みやすさ

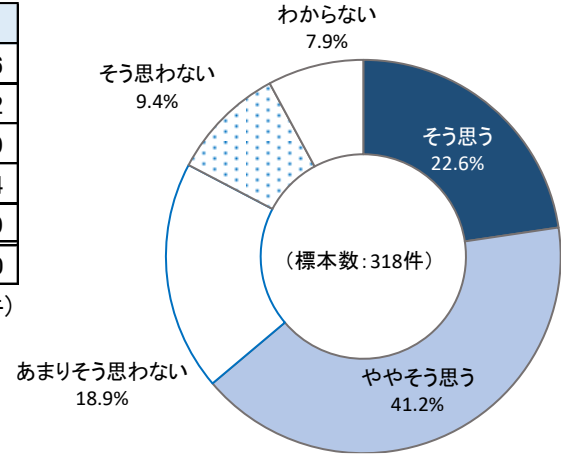


- 高山市の様々なことを市外にお住まいの方に自慢したいかについては、「そう思う」が22.6%、「ややそう思う」が41.2%で合わせて63.8%となっている。

図表 141 高山市の様々なことを市外にお住まいの方に自慢したいか

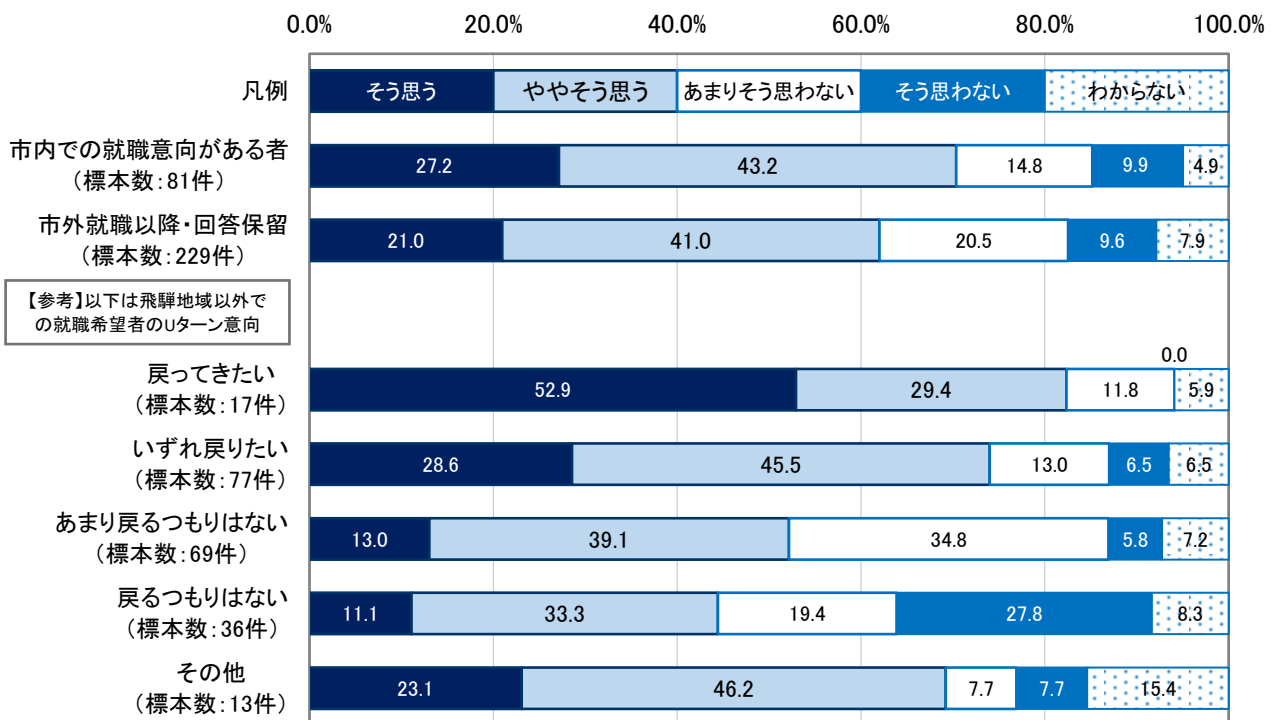
	回答数(件)	回答率(%)
そう思う	72	22.6
ややそう思う	131	41.2
あまりそう思わない	60	18.9
そう思わない	30	9.4
わからない	25	7.9
合計	318	100.0

(標本数:318件)



- 市内就職意向と高山市の様々なことを市外にお住まいの方に自慢したいかの関係を見ると、市内就職意向がある者の方が自慢したいと回答している。また、飛騨地域以外での就職希望者は、「戻ってきたい」、「いずれ戻りたい」というUターン意向がある者は、自慢したいという回答の割合が高くなっている。

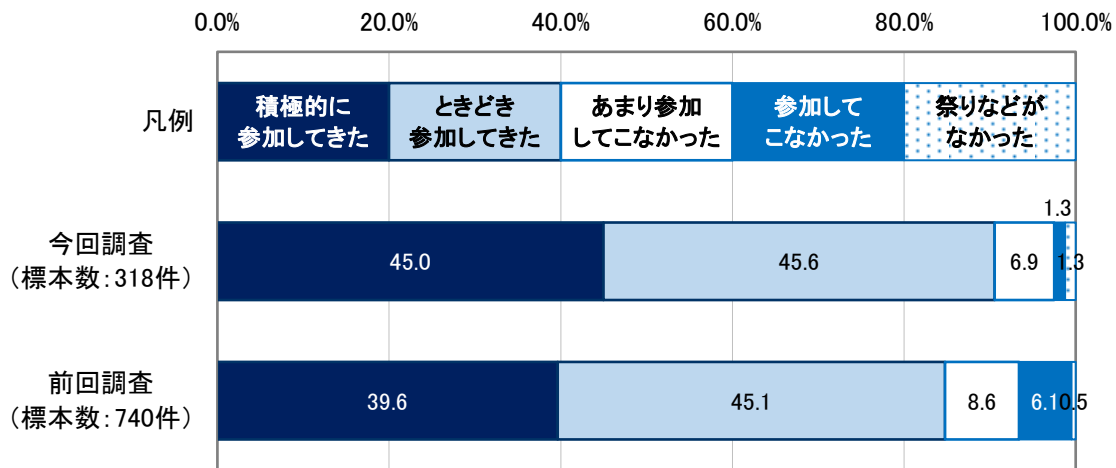
図表 142 市内就職意向別・Uターン意向別
高山市の様々なことを市外にお住まいの方に自慢したいか



(9) 地域の祭り等への参加状況や都会への憧れ

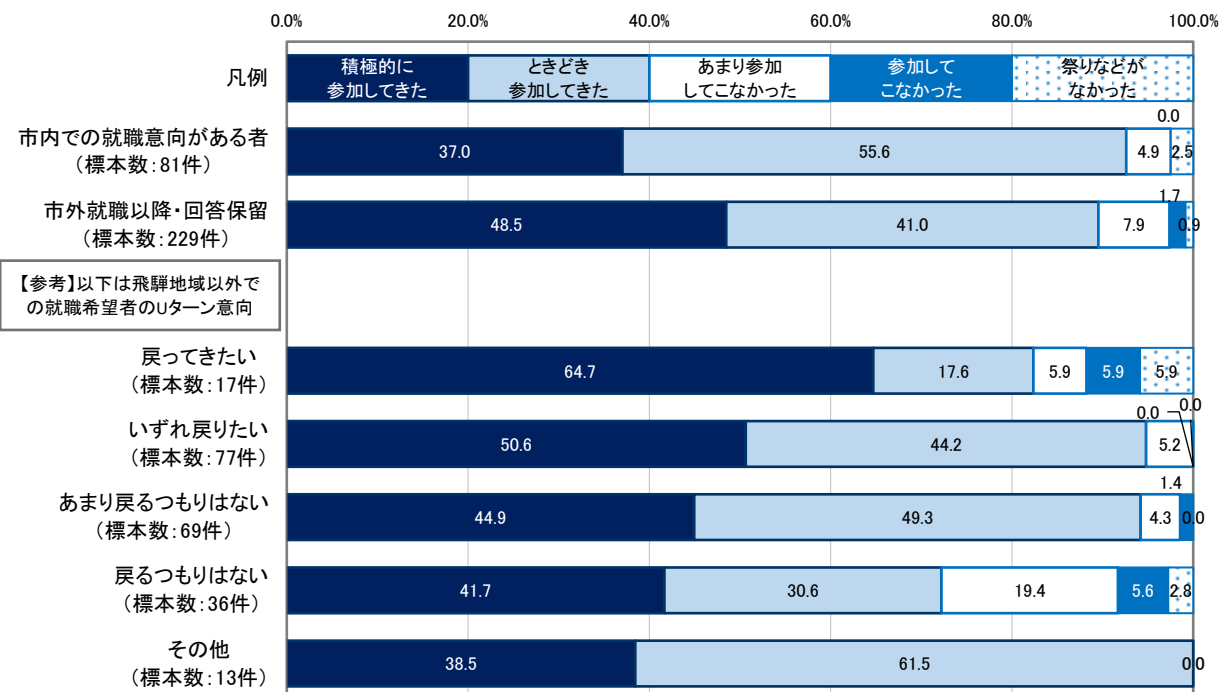
- 子どもの頃からの地域の祭りや地域活動への参加状況は、「積極的に参加してきた」が45.0%、「ときどき参加してきた」が45.6%で、合わせて90.6%となっており、前回調査と同様の傾向となっている。

図表 143 子どもの頃からの地域の祭りや地域活動への参加状況



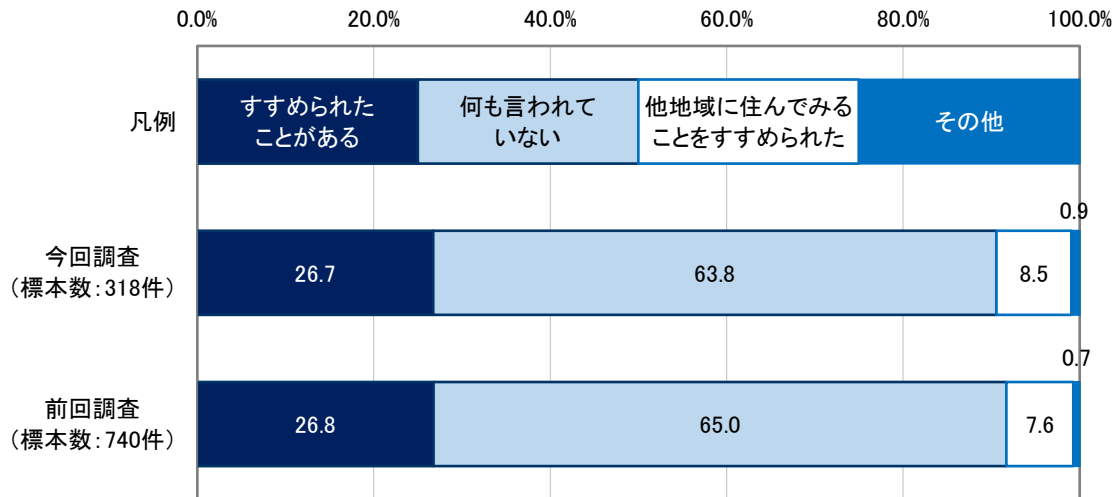
- 市内就職意向と子どもの頃からの地域の祭りや地域活動への参加状況の関係をみると、市内就職意向がある者の方が参加経験（「積極的に参加してきた」「ときどき参加してきた」の合計）がやや高い。飛騨地域以外での就職希望者の、参加経験とUターン意向に関連性は見られないものの、「戻らなりたい」と回答したUターン意向がない者は、参加経験が最も低くなっている。

図表 144 市内就職意向別・Uターン意向別 子どもの頃からの地域の祭りや地域活動への参加状況



- 親や親戚などに、将来、今住んでいる地域に住み続けることをすすめられたことがあるかについては、「何も言われていない」が63.8%で最も高く、次いで「すすめられたことがある」が26.7%となっている。前回調査と同様の傾向となっている。

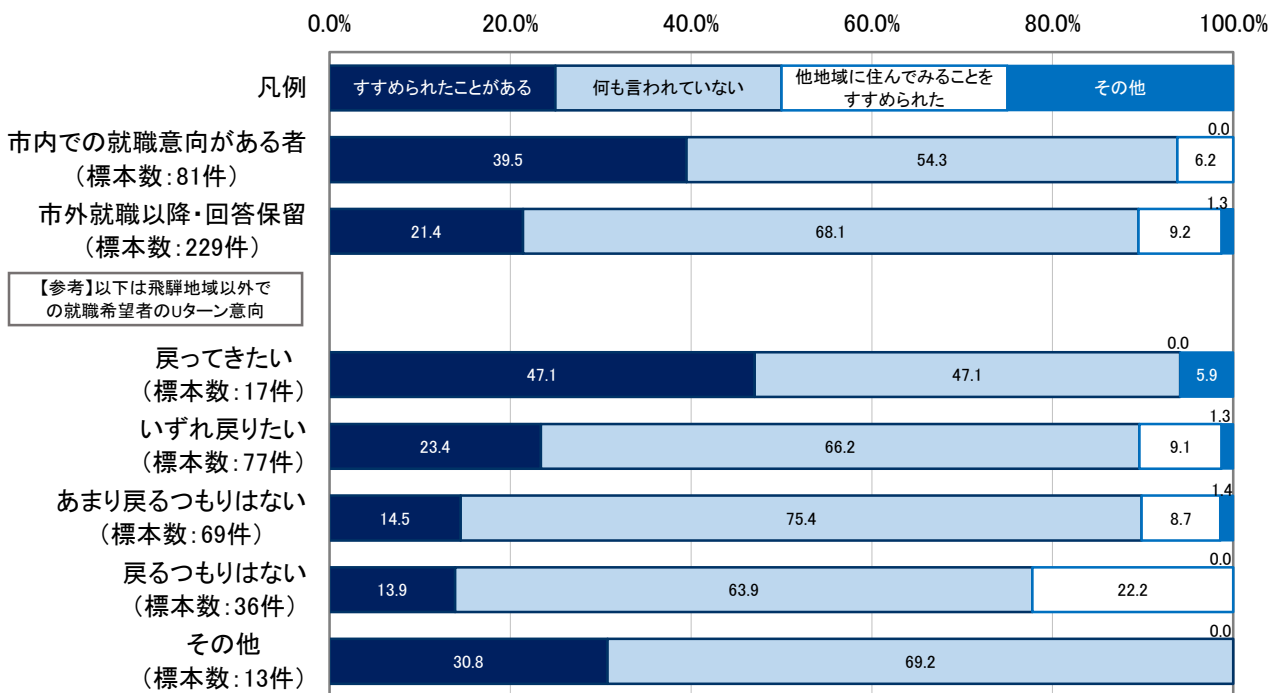
図表 145 親や親戚などに、将来、今住んでいる地域に住み続けることをすすめられたことがあるか



- 市内就職意向と親や親戚などから住み続けることをすすめられたこととの関係を見ると、市内就職意向がある者の方がすすめられた割合がやや高い。飛騨地域以外での就職希望者のUターン意向は、「戻ってきたい」と考えている者の方が、すすめられた割合がやや高くなっている。

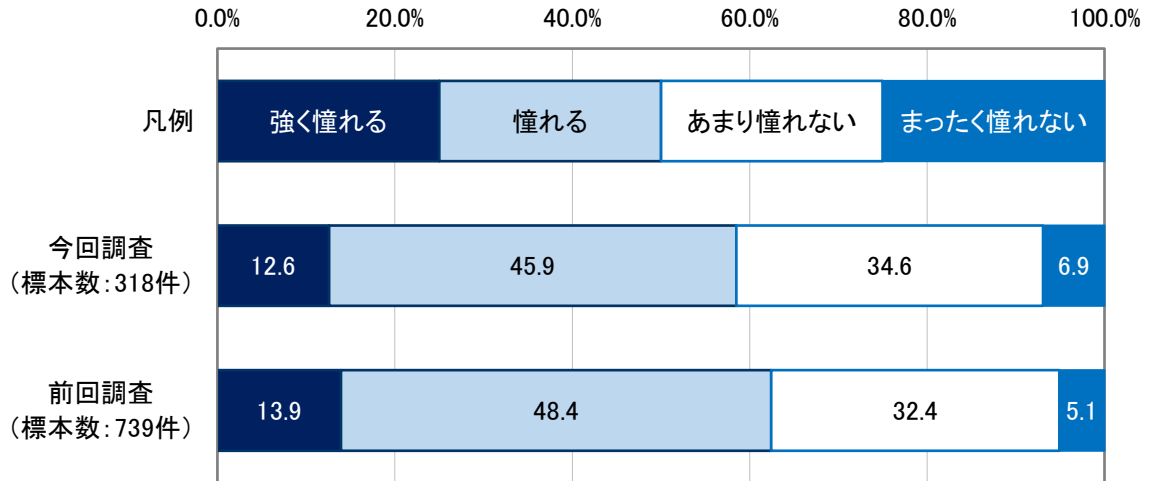
図表 146 市内就職意向別・Uターン意向別

親や親戚などに、将来、今住んでいる地域に住み続けることをすすめられたことがあるか



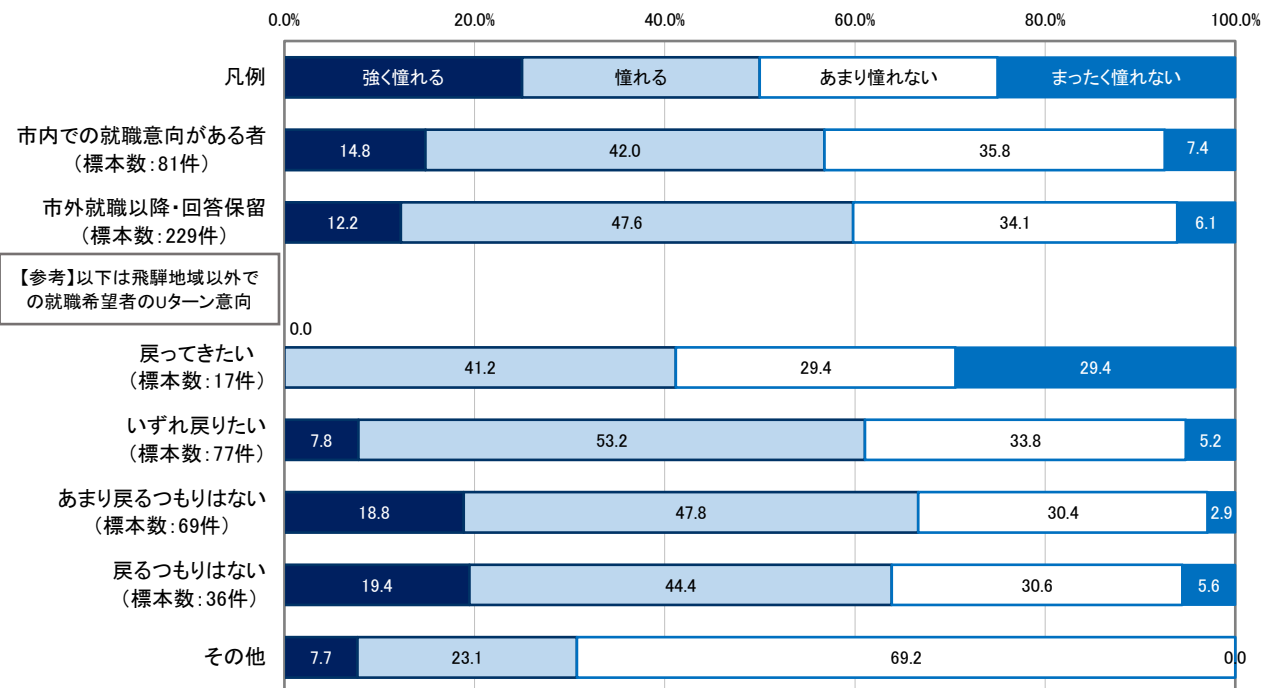
- 都会で暮らすことへの憧れは、「憧れる」が45.9%で最も高く、次いで「あまり憧れない」が34.6%となっており、前回調査と同様の傾向となっている。

図表 147 都会で暮らすことへの憧れ



- 市内就職意向と都会で暮らすことへの憧れの関係を見ると、市内就職意向がある者の方が都会への憧れを感じている人はやや少ない。飛騨地域以外での就職希望者のUターン意向は、「戻るつもりはない」と考えている者の方が、都会への憧れが強い傾向にある。

図表 148 市内就職意向別・Uターン意向別 都会で暮らすことへの憧れ



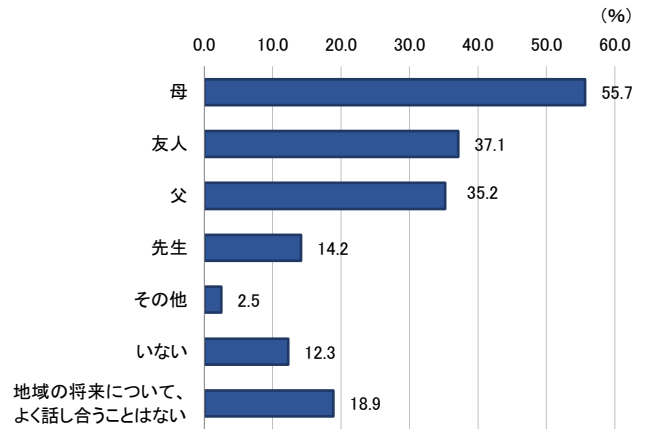
(10) 地域の将来や人口減少の実感、必要な取り組み

- 地域の将来について、よく話し合う人が身近にいるかについては、「母」が55.7%で最も高く、次いで「友人」が37.1%、「父」が35.2%、「先生」が14.2%の順となっている。

図表 149 地域の将来について、よく話し合う人が身近にいるか [複数回答]

	回答数(件)	回答率(%)
母	177	55.7
友人	118	37.1
父	112	35.2
先生	45	14.2
その他	8	2.5
いない	39	12.3
地域の将来について、よく話し合うことはない	60	18.9

(標本数:318件)



● 市政全体について

- ・ 観光に力を入れることも大切だと思うが高山に住んでいる 1 個人、1 家庭の意見としてももう少し支援が欲しい。観光業での利益が私たち市民に還元されているとは残念ながら感じられない。
- ・ 市民向けの施設やイベント、サービス、支援を増やす。
- ・ 若者が市政の中核を担えるような体制を整える。今のままの市政だと若者や移住者は飛騨市の方に偏ると思う。
- ・ 新しいことにたくさん取り組んでいる行政を望む。
- ・ 何か 1 つ特徴を作ること(観光業が強い、子育てしやすい)。
- ・ 頑張った人を応援しない市には戻ってきたくない。もう少し市民の意見に耳を傾けるべきだと思う。

● 交通網の充実

- ・ 交通手段を整備する。
- ・ 若い頃は車があるのでいいがその先のことを考えるとあまり住もうとは思えない。高山市街地なら住んでもいいが、交通網が充実していない地域は不便すぎて住もうとは思えない。
- ・ 高山から他の地域への交通の便を良くし、気軽に高山から出られる、同様に帰って来やすい交通にするべきである。今では、バスや電車でもそこそこお金、時間もかかる。もちろん、自家用車の場合も同じである。助成金などを用意することで高山から出る、帰るがしやすい環境になってほしい。

● 大型店（ショッピングモール・娯楽施設等）の誘致

- ・ 遊ぶ場所を増やす(観光客用ではなくて地元の人用の)。
- ・ 映画館をつくる。
- ・ 他の地域にはあって高山にはない人気のお店が増えると便利になって良いと思う。
- ・ 休日リフレッシュできるところを作る。コンビニを増やす。
- ・ メジャーなチェーン店を増やす。
- ・ いろいろな専門店やモールなどがあればいいと思う。

● 若い人がいきいきと暮らせるまち

- ・ 高校生は県外で映画などを観るにしても、交通費も往復でかかる。バイトのできない高校にとってはとても不便である。公園があっても雨の日は遊べないし、児童センターがあっても中学生や高校生は入りづらいと感じている。中学生や高校生が気軽に入れる室内で体を動かして遊んだり、映画を観たり、椅子や机をたくさん置いて休憩したり勉強できるスペースがほしい。古い町並はカフェもあり楽しめる。
- ・ 若者が興味を引くような施設を古い町並景観に沿って作るといいと思う。
- ・ 若い人たちが遊ぶ場所が少なく、映画館や人気の服屋など、もっと大きな施設を作るべきである。高山に帰ってきたときに若い人たちが交流し合うことができる場所が必要だと思う。

帰ってきて遊ぶ場所がない。

- ・若い人が集まりやすい物を作るなど、若い人のアイデアを増やしたら良いと思う。
- ・高山に建つ建物はほとんどがドラッグストアかホテルである。こんなにホテルがあっても全てが埋まってしまうタイミングなんて年一回くらいだと思う。私はもっと若者が活動できる建物や施設を増やしてほしい。
- ・子どもたちが自然と触れ合えるような施設をつくる。

● 子育て環境の充実

- ・子どもたちの遊べる場所を増やす。
- ・簡単にできる娯楽がまちなかにはボウリングとバッティングセンターしかない。(冬はボウリングのみ) 大人が遊ぶパチンコ店が多すぎると思った。もし、大人になったとき、子どもを育てるにはあまり適していないと思った。
- ・教育福祉の支援を拡大する。遠出がするのが大変なのだから例えば受験や大会で遠方に行く子ども達の交通費だけでも出すなど子育てがしやすい環境をもっと整える。
- ・将来結婚して家庭を持った時に安心して暮らすことができるまちや家族連れに優しい制度があると良い。
- ・家族ができた時の援助などがあると良い。

● 仕事・雇用・進学先の充実

- ・大学、専門学校などの進学先を増やす。
- ・給料アップ、職種アップ。
- ・有名な企業をつくる。
- ・就職をもっと充実させることと、大手企業の誘致。
- ・たくさんの仕事を選べる、作れる環境作り。
- ・高山でしかできない仕事を増やす。

● 地域の魅力向上・発信

- ・愛着を持ってもらうことが一番だと思う。
- ・もうすでに学校等では高山の良さを見つけるといった授業が行われているが、それは表面的なものでありあまり効果は感じられない。自然に高山への愛を育てるには、幼い頃から自然や伝統文化などに親しむことで高山の良さを体で感じ、心に根付かせることが大切だと思う。
- ・高校生にも市内散策をさせて、進路決定の時期にもう一度高山の良さを確認出来たらいいと思う。
- ・住みやすいが「特にこれ」というものがあまりないので、「高山は〇〇があるからいいよね」と言われるようなものをつくる。
- ・確実に人が来る観光地などを作る。
- ・豊かな自然と古来の伝統を守るのも大切だけど、ある程度の都会感も新時代には必要だと思う。
- ・このまま自然を守る。都会とのギャップを大切にす。
- ・映画を作る。

- ・ 高山祭り以外にも若い世代にも知ってもらえる物を作る。又は今あるものを広める。
- ・ 市の魅力を、SNS を用いて伝えること。

● 経済対策について

- ・ ガソリン代を値下げして高山の企業の経営費を削減させる。
- ・ 経営者や会社への支援を充実させる。

● 居住環境の向上、移住定住の促進について

- ・ 年齢に限らず楽しめる公園を作ればいいと思う。
- ・ 夜に人の家の周りで騒いだりなど、そのへんにゴミをポイ捨てしたりなどマナーの悪いことをしない。
- ・ 汚くないまち、きれいなまち
- ・ 障がいや多様性があっても暮らしやすい。自然が魅力的である。山林の管理ができており、荒れていない。
- ・ 戻ってきた人への給付金制度を創設する。
- ・ 古い考えが多い。住みやすいまちをアピールして移住者を増やすことで市の魅力が観光だけじゃなくなり戻ってこようと思う若者が増えると思う。
- ・ まちの人が優しく、地域づきあいがよいことをもっと PR する。
- ・ 地域の温かさといつでも帰って来られる環境があること、高山祭りなど自慢できる伝統文化が残っていること。
- ・ 一人暮らしから家族までそれぞれにあったマンションがある。
- ・ 高山より田舎の方へ行くと、地域の人同士親交が深く距離が近い点で凄く魅力を感じるの、高山もそのような、人の繋がりがもっとあって暖かいまちになれば戻ってきたい人も増えると思う。
- ・ 住宅地が増えるといいと思う。

● 現状維持

- ・ 今のままで懐かしくなり戻りたくなると思うからこのままでいい。
- ・ 今の地域の環境を今のまま保ち続けること。そして、この土地にしかない文化や名産物を残し、もっと多くの人に知ってもらう。

5 高校生まちづくりアンケート調査

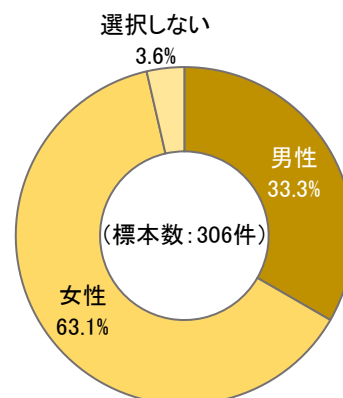
(1) 回答者の属性

- 回答者の性別は、63.1%が女性、33.3%が男性となっている。
- 回答者の居住地は高山地域が67.4%、居住年数は「15年以上」が78.6%で、それぞれ最も高くなっている。

図表 150 性別

	回答数(件)	回答率(%)
男性	102	33.3
女性	193	63.1
選択しない	11	3.6
合計	306	100.0

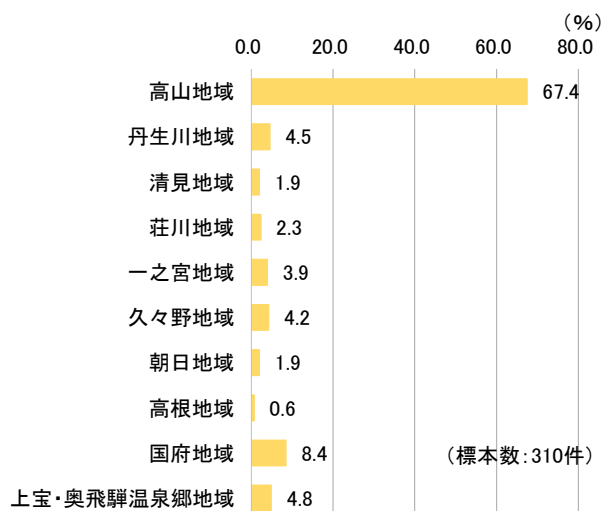
(標本数:306件)



図表 151 居住地

	回答数(件)	回答率(%)
高山地域	209	67.4
丹生川地域	14	4.5
清見地域	6	1.9
荘川地域	7	2.3
一之宮地域	12	3.9
久々野地域	13	4.2
朝日地域	6	1.9
高根地域	2	0.6
国府地域	26	8.4
上宝・奥飛騨温泉郷地域	15	4.8
合計	310	100.0

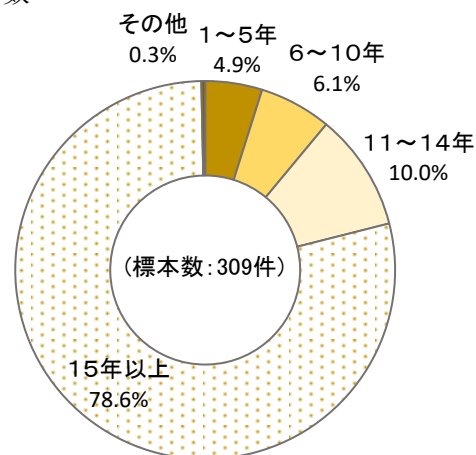
(標本数:310件)



図表 152 現在の地域での居住年数

	回答数(件)	回答率(%)
1~5年	15	4.9
6~10年	19	6.1
11~14年	31	10.0
15年以上	243	78.6
その他	1	0.3
合計	309	100.0

(標本数:309件)



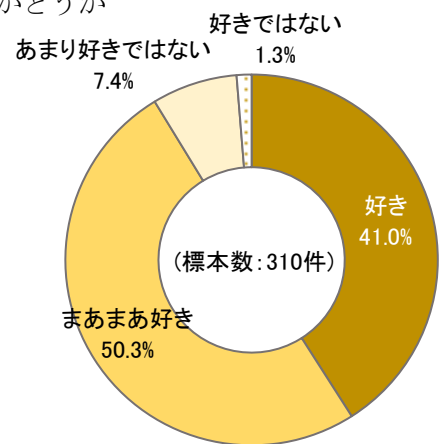
(2) 回答者の高山市への愛着

- 高山市や居住地域を好きな回答者は、「好き」が 41.0%、「まあまあ好き」が 50.3%で合わせて 91.3%となっている。
- 高山市や居住地域を「好き」、「まあまあ好き」と回答した者の、高山市や居住地域の好きなところは、「自然がたくさん」が 69.2%で最も高く、次いで「水や食べ物がおいしい」が 63.1%となっている。
- 高山市や居住地域を「あまり好きではない」、「好きではない」と回答した者の、高山市や居住地域がどうなると好きになれるそうかは、「遊ぶところがたくさんある」が 76.9%で最も高く、次いで「自然がたくさん」が 57.7%となっている。

図表 153 高山市や居住地域が好きかどうか

	回答数(件)	回答率(%)
好き	127	41.0
まあまあ好き	156	50.3
あまり好きではない	23	7.4
好きではない	4	1.3
合計	310	100.0

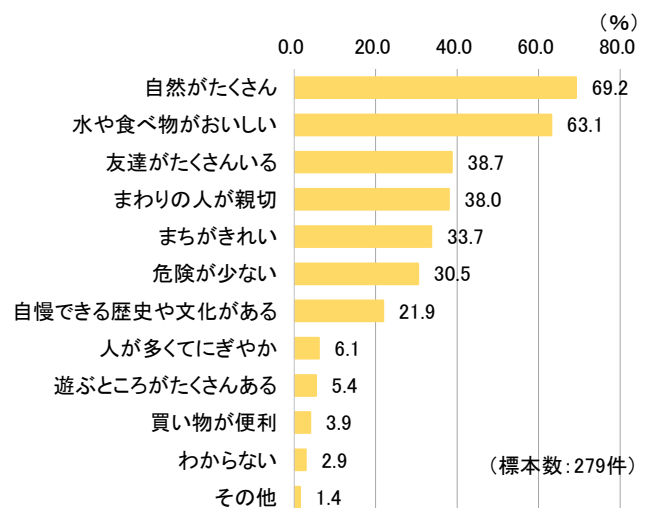
(標本数:310件)



図表 154 【高山市や居住地域が好きな回答者】高山市や居住地域の好きなところ [複数回答]

	回答数(件)	回答率(%)
自然がたくさん	193	69.2
水や食べ物がおいしい	176	63.1
友達がたくさんいる	108	38.7
まわりの人が親切	106	38.0
まちがきれい	94	33.7
危険が少ない	85	30.5
自慢できる歴史や文化がある	61	21.9
人が多くてにぎやか	17	6.1
遊ぶところがたくさんある	15	5.4
買い物が便利	11	3.9
わからない	8	2.9
その他	4	1.4

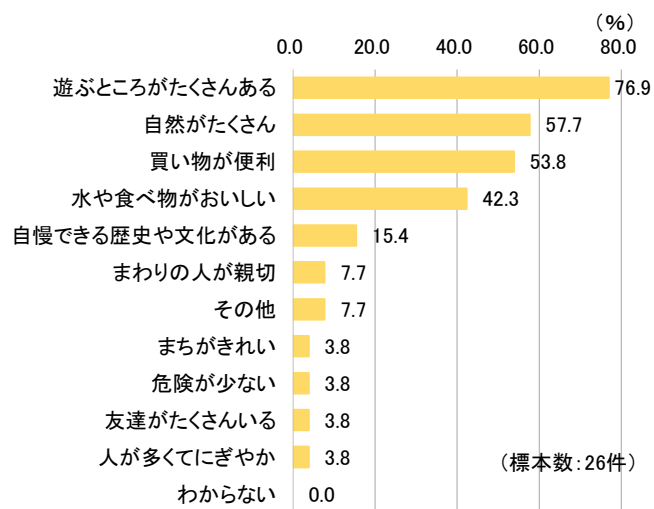
(標本数:279件)



図表 155 【高山市や居住地域が好きではない回答者】
高山市や居住地域がどうなると好きになれるそうか [複数回答]

	回答数(件)	回答率(%)
遊ぶところがたくさんある	20	76.9
自然がたくさん	15	57.7
買い物が便利	14	53.8
水や食べ物がおいしい	11	42.3
自慢できる歴史や文化がある	4	15.4
まわりの人が親切	2	7.7
その他	2	7.7
まちがきれい	1	3.8
危険が少ない	1	3.8
友達がたくさんいる	1	3.8
人が多くてにぎやか	1	3.8
わからない	0	0.0

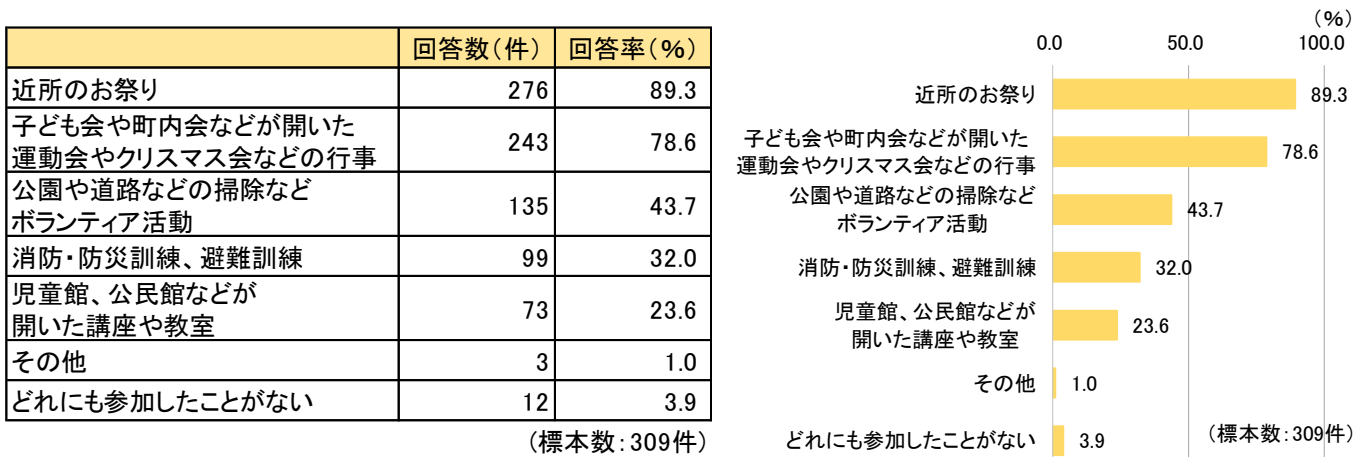
(標本数:26件)



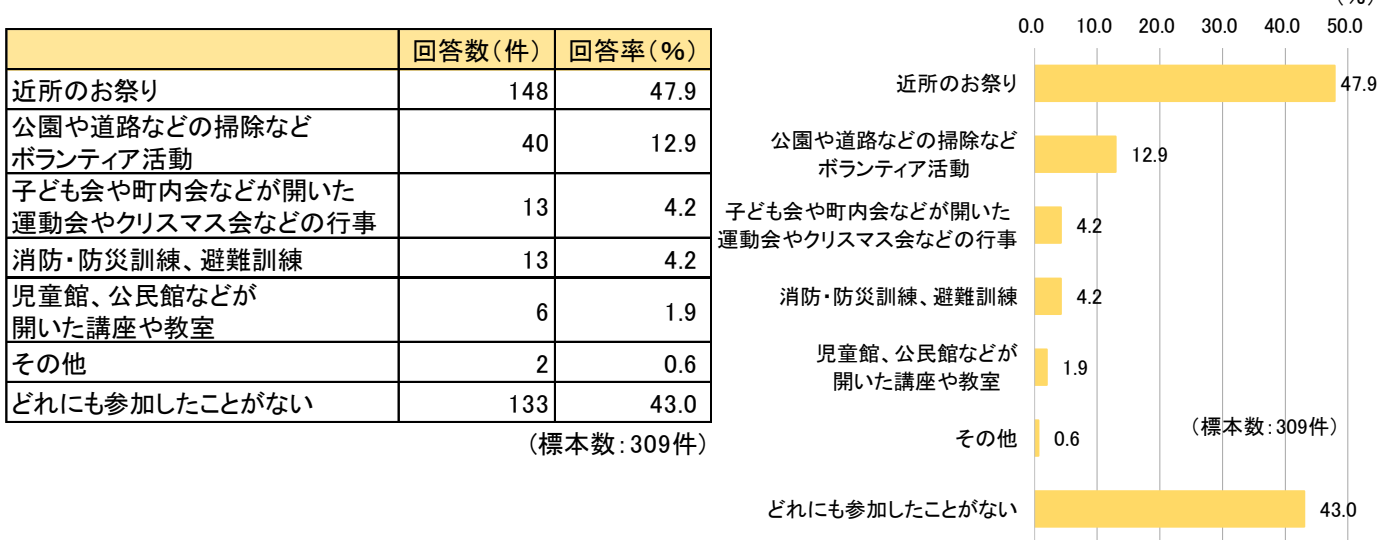
(3) 地域の祭り等への参加状況

- 地域活動への参加状況は、中学生まで、高校生でのどちらにおいても「近所のお祭り」への参加割合が最も高く、中学生までは89.3%で、高校生では47.9%となっている。次いで、中学生までは「子ども会や町内会などが開いた運動会やクリスマス会などの行事」が78.6%となっているのに対し、高校生では、「どれにも参加したことがない」が43.0%となっている。

図表 156 中学生までの地域の祭りや地域活動への参加状況 [複数回答]



図表 157 高校生での地域の祭りや地域活動への参加状況 [複数回答]



(4) 居住地や仕事について

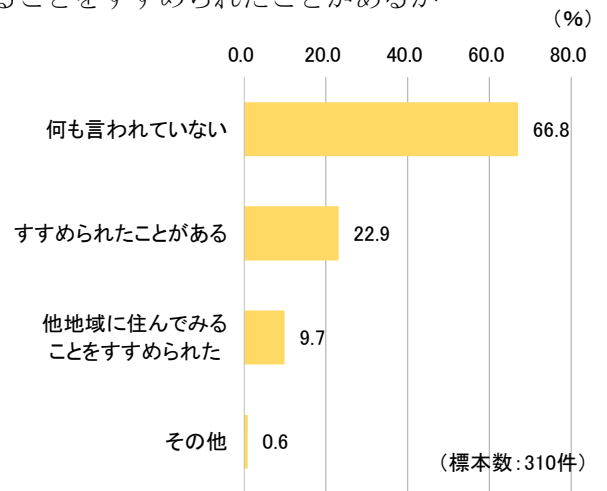
- 親や親戚などに、将来、今住んでいる地域に住み続けることをすすめられたことがあるかについては、「何も言われていない」が66.8%で最も高く、次いで「すすめられたことがある」が22.9%となっている。

図表 158

親や親戚などに、将来、今住んでいる地域に住み続けることをすすめられたことがあるか

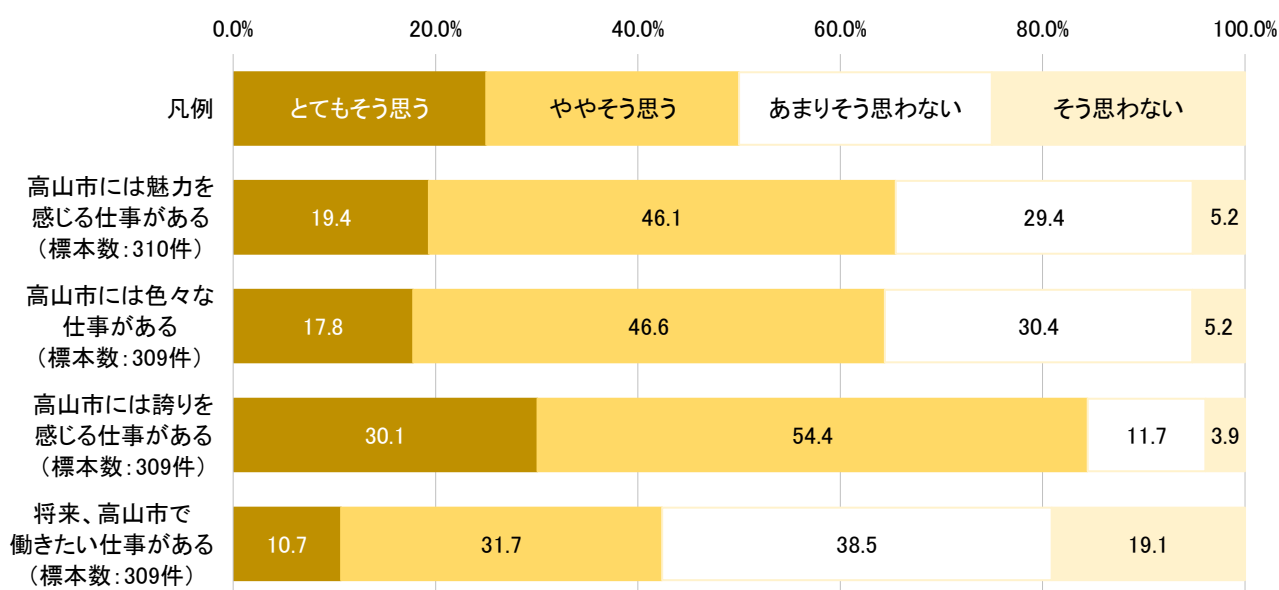
	回答数(件)	回答率(%)
何も言われていない	207	66.8
すすめられたことがある	71	22.9
他地域に住んでみることをすすめられた	30	9.7
その他	2	0.6
合計	310	100.0

(標本数:310件)



- 居住地域にある仕事について感じていることをみると、高山市には魅力を感じる仕事があると回答した者は、「とてもそう思う」、「ややそう思う」を合わせて、65.5%と7割近い割合となっている。同様に、高山市には色々な仕事があると回答した者も、「とてもそう思う」、「ややそう思う」を合わせて、64.4%となっている。
- 高山市には誇りを感じる仕事があると回答した者に関しては、「とてもそう思う」、「ややそう思う」を合わせて、84.5%と8割を超えた割合となっている。
- 将来、高山市で働きたい仕事があると回答した者は、「とてもそう思う」、「ややそう思う」を合わせて、42.4%に留まっており、「あまりそう思わない」、「そう思わない」と回答した者の割合が、57.6%と半数を超えている。

図表 159 高山市にある仕事について感じていること

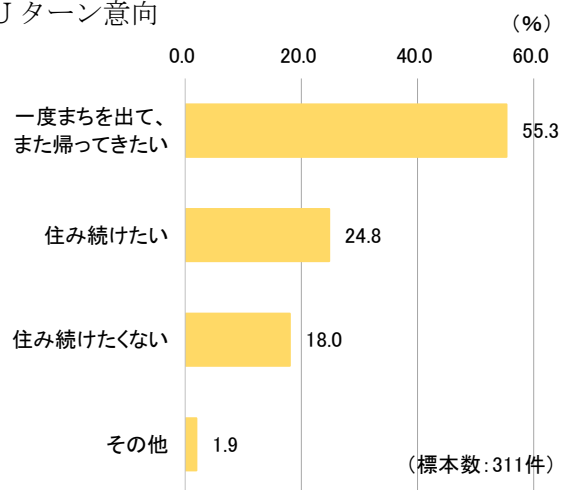


- 居住地域への継続居住、Uターン意向は、「一度まちを出て、また帰ってきたい」が55.3%と最も高く、次いで「住み続けたい」が24.8%となっている。

図表 160 居住地域への継続居住、Uターン意向

	回答数(件)	回答率(%)
一度まちを出て、また帰ってきたい	172	55.3
住み続けたい	77	24.8
住み続けたくない	56	18.0
その他	6	1.9
合計	311	100.0

(標本数:311件)

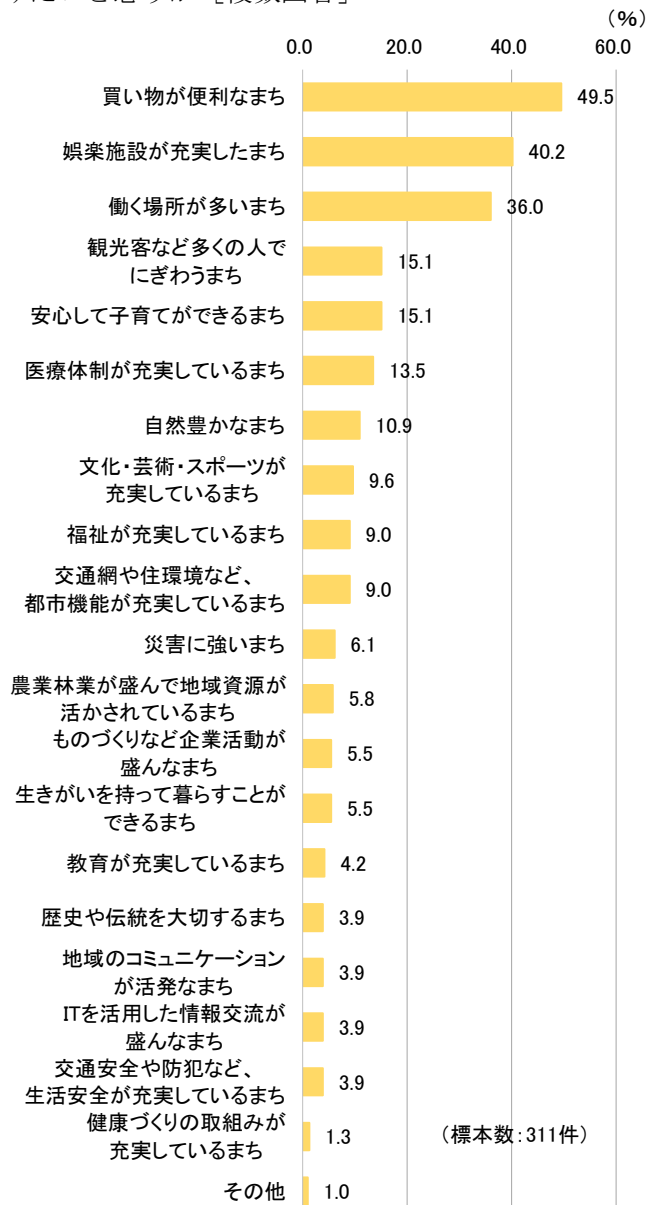


- どのようなまちであれば住んでみたいと思うかについてみると、「買い物が便利なまち」が49.5%と最も高く、次いで「娯楽施設が充実したまち」が40.2%、「働く場所が多いまち」が36.0%という順になっている。

図表 161 どのようなまちであれば住んでみたいと思うか [複数回答]

	回答数(件)	回答率(%)
買い物が便利なまち	154	49.5
娯楽施設が充実したまち	125	40.2
働く場所が多いまち	112	36.0
観光客など多くの人でにぎわうまち	47	15.1
安心して子育てができるまち	47	15.1
医療体制が充実しているまち	42	13.5
自然豊かなまち	34	10.9
文化・芸術・スポーツが充実しているまち	30	9.6
福祉が充実しているまち	28	9.0
交通網や住環境など、都市機能が充実しているまち	28	9.0
災害に強いまち	19	6.1
農業林業が盛んで地域資源が活かされているまち	18	5.8
ものづくりなど企業活動が盛んなまち	17	5.5
生きがいを持って暮らすことができるまち	17	5.5
教育が充実しているまち	13	4.2
歴史や伝統を大切するまち	12	3.9
地域のコミュニケーションが活発なまち	12	3.9
ITを活用した情報交流が盛んなまち	12	3.9
交通安全や防犯など、生活安全が充実しているまち	12	3.9
健康づくりの取組みが充実している	4	1.3
その他	3	1.0

(標本数:311件)



(標本数:311件)

自由記述：転出した若い人たちが“戻ってきたいまち”と思えるためには、何をすればいいか
(コメント抜粋)

● 大型店（ショッピングモール・娯楽施設等）の誘致、若い人がいきいきと暮らせるまち

- ・遊ぶ場所が沢山あったり、治安が良いまち。もっと楽しい場所や遊ぶ場所を作るべき。
- ・若い方たちが大人数、少人数で集まれる場所。映画館など若い方たちの好きなところを増やしてほしい。
- ・娯楽施設や買い物ができる場所を増やす。
- ・買い物やショッピングモール、アミューズメントパークなどが建てられること。
- ・若者が来れるような建物を作ってほしい。
- ・ショッピングモールなど、買い物が便利なところ。
- ・もっと運動できるスペースが欲しい。
- ・体験型施設をもう少し作る。
- ・もっと最近の流行りのお店を増やしたらいいと思う。
- ・高山を盛り上げるため、若者だけの町内を試験的に作る。

● 仕事・雇用・進学先の充実

- ・働く場所や種類が少ないので増やした方が良くと思う。
- ・職場の多種多様化。
- ・賃金が高くなる。
- ・仕事や、店などが充実していて、他の地域に行かなくても高山で欲しいものが買えたり、仕事ができたりする、近代的なまちになる。
- ・リモートワークなど高山にしながら都市部の企業に勤められる。
- ・長く続けられる仕事が増えれば良いと思う。
- ・若者を増やすために大企業を誘致する。
- ・大学をつくる。
- ・大学の数を増やす。私立高校の数を増やす事により市外から入学する人を増やし、市には無いものをもたらす。
- ・大学において、地域枠を増やす。
- ・高校まで医療費、教育費、給食費を無料化や、大学に通うための必要な費用を支援する。大学、専門学校などの進学先を増やす。

● 交通網の充実

- ・高山市の交通の便をよくする。
- ・交通料金を安くする。
- ・戻ってきやすい交通環境にする。
- ・バスや電車の本数を増やしたりして、交通の便をよくする。
- ・交通のルートを増やし、より移動がしやすくする交通手段を整備する。
- ・街灯を増やすべきだと思う。

● 居住環境の向上、移住定住の促進について

- ・ 観光より市内の人達にもっと力をいれる。
- ・ 観光や宿泊施設ばかりにお金をかけずもっと地域の人達の生活のために、施設を作ったり、子どもが住みやすいまちづくりをした方がいいと思う。そしてもっと地域資源や環境を活用して農業やものづくりなどをもっと盛んにすることが重要だと思う。
- ・ 買い物できる場所を増やす。
- ・ 買い物がしやすいなど、住みやすい環境を整える。
- ・ 生活面が便利になれば良い(買い物や移動など)。
- ・ 買い物ができる大型他施設やチェーン店が少ないと思う。もう少し都会なところに行けば、色々お店が揃っていて便利だから、という理由で高山を離れる人も少なくないと思う。
- ・ 綺麗なまちにする。
- ・ コンビニが沢山あるまち
- ・ 人があたたかいまち
- ・ 高山に戻ってきて働いたら何万円が貰えるみたいに若者が戻ってきたいと思えたり、高山市以外の人たちに自慢できるようなまちにする。

● 子育て環境の充実

- ・ 高校まで医療費、教育費、給食費を無料化。
- ・ もっと家族を作りやすい環境を作る。もっと子どもにお金をかける(私たちが大人になったら)。
- ・ 子育てがしやすく、暮らしやすいところにすればいいと思う。
- ・ 結婚とかしてたら子育てしやすいまち
- ・ 子育てを支援するもの(お金だったりものだったり)が増える。

● 自然・伝統の維持

- ・ 地元の特産品を使った美味しい料理や、伝統的なイベントの開催など、地元の歴史や文化を学ぶことができる施設や、自然に触れることができる公園やレジャースポットを作る。
- ・ この自然を守りつつ、都市化を目指すこと。
- ・ 古い町並を守る。
- ・ 緑を大切にす。

● 地域の魅力向上・発信

- ・ もっと高山について魅力を感じさせる
- ・ 高山市は自然が綺麗だし災害もあまりおこらないからそういう良いところをネットなど活用して伝えていく。

● 医療・福祉について

- ・ 医療や福祉の体制が充実していること。
- ・ 医療、施設が充実しているまち

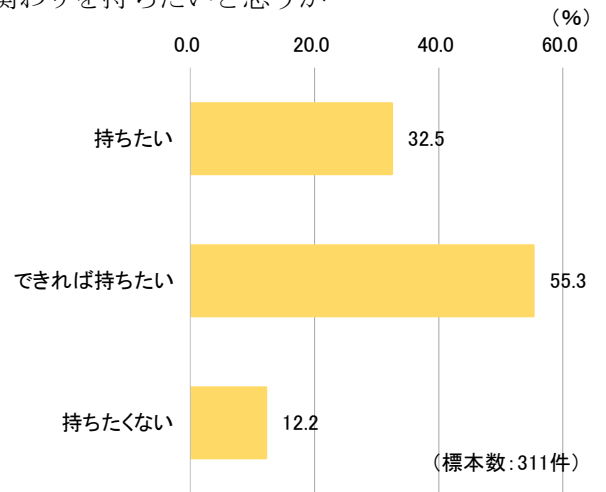
(5) 高山市との関わり仕事を選ぶ上で重視していることや希望する働き方

- 高山市外に住んでも高山市と関わりを持ちたいと思うかどうかをみると、「持ちたい」が32.5%、「できれば持ちたい」が55.3%で合わせて87.8%となっている。
- 関わりを「持ちたい」、「できれば持ちたい」と回答した者が高山市に期待することとしては、「高山市以外の地域でも、飛騨高山の農産物や商品を購入できる場や機会を増やしてほしい。」が38.1%と最も高くなっている。

図表 162 高山市外に住んでも高山市と関わりを持ちたいと思うか

	回答数(件)	回答率(%)
持ちたい	101	32.5
できれば持ちたい	172	55.3
持ちたくない	38	12.2
合計	311	100.0

(標本数:311件)

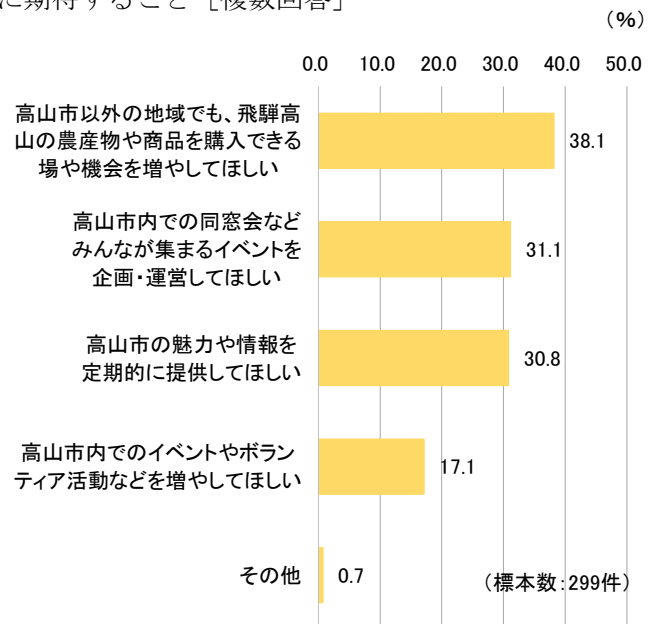


図表 163 【関わりを持ちたい、できれば持ちたい回答者】

高山市と関わりを持つうえで、高山市役所に期待すること [複数回答]

	回答数(件)	回答率(%)
高山市以外の地域でも、飛騨高山の農産物や商品を購入できる場や機会を増やしてほしい	114	38.1
高山市内での同窓会などみんなが集まるイベントを企画・運営してほしい	93	31.1
高山市の魅力や情報を定期的に提供してほしい	92	30.8
高山市内でのイベントやボランティア活動などを増やしてほしい	51	17.1
その他	2	0.7

(標本数:299件)



● 自然

- ・ 自然豊かなまち
- ・ 自然を大切にする町
- ・ 自然が多いまち
- ・ 思いやり溢れる自然綺麗なまち
- ・ 自然が一番の町
- ・ 自然豊かなあたたかいまち
- ・ 自然豊かで平和なまち
- ・ 自然で溢れるまち
- ・ 自然や観光地を大切にする町
- ・ 自然と歴史が自慢のまち
- ・ 人も自然もキレイなまち
- ・ 緑を大切にするまち
- ・ 自然いっぱいなまち
- ・ 水が綺麗な街
- ・ 空気が美味しいまち

● 歴史・伝統・文化

- ・ 伝統を大切にするまち
- ・ 古い歴史を大切にするまち
- ・ 文化を大切にする街
- ・ 歴史や文化を大切にするまち
- ・ 昔ながらを大切にするまち
- ・ 古き良き街
- ・ 古く、新しいまち

● 観光

- ・ 観光客を大切にするまち
- ・ 観光客が意外と多いまち
- ・ 市民も観光客も快適に過ごせるまち
- ・ 観光の街

● 住みやすさ

- ・ みんなを大切にする町
- ・ みんなが安心して楽しく暮らせる町
- ・ みんなが幸せなまち
- ・ みんなが安心して住めるまち
- ・ みんなが住みやすいまち

- ・ 誰もが幸せと思えるまち
- ・ 世界一安全楽しい街
- ・ 安心安全なまち
- ・ 生活が豊かな町
- ・ 平和な町

● 人

- ・ 周りの人を大切にするまち
- ・ 人と人の関りを大切にするまち
- ・ 人が優しい街
- ・ 親切な人が沢山いる町
- ・ 人がいい町
- ・ 人が親切な町高山
- ・ 人があたたかいまち
- ・ 人の心を大切にするまち
- ・ 優しい人が多い町
- ・ 外国人でにぎやかなまち
- ・ みんなが笑顔で優しい大人がふえるまち
- ・ 学生を大切にするまち
- ・ 子どもを大事にするまち
- ・ 市民が考える町

● 風土・雰囲気

- ・ げんきなまち
- ・ あたたかいまち
- ・ 笑顔を大切にする町
- ・ 楽しいまち
- ・ 静かでにぎやか

● 産業

- ・ ものづくりのまち
- ・ もの作りが自慢のまち
- ・ 農業が一番なまち

● その他

- ・ 娯楽を大切にする町
- ・ 地域を大切にするまち
- ・ 日本一大きい市のまち
- ・ 面積しか誇れない町
- ・ スポーツが一番のまち

● ボランティア

- ・ ボランティア活動。
- ・ ゴミ拾いとかボランティア活動をしたい。
- ・ 普段小さい子どもと関わる機会がないので、子どもと関わるボランティアで交流出来たらいいと思う。

● 娯楽やイベント（参加側）

- ・ 映画館に行って楽しみたい。
- ・ 高山祭り行きたい。
- ・ 有名人のコンサートを聞きたい。祭りなどでもっと人と人がかかわれる場がほしい。
- ・ 綺麗な景色を見に行く。
- ・ プロバスケットボールの試合観戦
- ・ テニス

● 娯楽やイベント（設立・運営側）

- ・ 巨大遊園地を作る
- ・ 映画館や遊ぶところを増やしたい。
- ・ 高山ならではのイベント（高山の食べ物食べ比べ）など開く
- ・ ライブイベントをスタッフ、アーティストともにやりたい人だけで作る。
- ・ 祭りなどイベント
- ・ 100万円かけたおにごっこ
- ・ 高山祭りをスタッフ側で参加してみたい
- ・ 若い人が活躍するイベント
- ・ 大規模な花火大会
- ・ 盛大な野外ライブ
- ・ 高山市の人をたくさん集めて、一緒に食べ物を食べたり盆踊りをしたい。

● 起業・開業・開発など

- ・ 高山の名物や伝統料理と、有名な飲食店とのコラボ（期間限定などで商品を作る）
- ・ 将来外に出てから帰ってきたらお店を開きたい。
- ・ 訪問看護の会社を立ち上げたい
- ・ 学生で運営するお店

● 改革

- ・ 高山に入ってくる若者を増やす
- ・ 古い町並を新しくする
- ・ 交通が便利なまちにしていきたい。そのためには不便なところを改善していきたい。改善することで都市化をすすめることができるから
- ・ 農業がしやすい環境をつくりたい。

● 高山の体験

- ・ 高山の伝統のものの体験
- ・ 高山巡り
- ・ 歴史に関する穴場スポットを巡るツアー
- ・ 自然に触れ合いたい。
- ・ 文化に触れられること。
- ・ 地域の仕事を体験する(伝統産業だけではなく)

● 仕事

- ・ になりたい職業になって働きたい
- ・ 教師として働きたい

● その他取組み

- ・ 自転車のルールを知らせる
- ・ 外国人に向けた取組み。外国人がもっと沢山来れるように工夫する。
- ・ 外国人観光客の案内
- ・ 海外、都心との交流

6 考察

ここでは、4つのアンケートを基に、これらの現状・課題等を整理し、以下のとおり考察する。

(1) 結婚・子育ての現状・課題

①結婚に関する現状・課題・特徴

■未婚者の結婚意向が 8.9 ポイント減少

- ・未婚者の今後の結婚意向に関して「結婚するつもりがある」とする割合は、63.1%で前回調査から 8.9 ポイント減少している。
- ・年代別にみると、20～24 歳は前回調査から微減であるが、25～29 歳では前回調査から 11.2 ポイント (76.5%→65.3%)、35～39 歳では 11.2 ポイント (71.9%→60.7%)、40～44 歳で 15.2 ポイント (47.5%→32.3%) 減少している。20 代後半と 35 歳以降で結婚への意向が大きく低下している。

■独身でいる理由は「結婚を意識する相手にまだめぐり会っていないから」が男女ともに最多

- ・独身でいる理由としては男女ともに「結婚を意識する相手にまだめぐり会っていないから」が最も多く、次点に「結婚後の経済的な生活設計に不安があるから」、「結婚生活のための資金がないから」、「独身の場合、自由さや気楽さを感じるから」が続いている。
- ・独身でいる理由において、性別で顕著な違いが見られる理由は、男性では「異性とうまくつきあえないから」となっており、異性との関係性の構築に苦勞を感じる人が多くなっている。一方、女性では「結婚するにはまだ若すぎるから」となっており、今後のキャリア形成などのライフステージや経済状況を勘案した場合、結婚する選択肢が現実的ではないと判断していると思われる。

■結婚を希望する人への支援策は男女別に異なる傾向

男性は「出会いの場を提供すること」「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと」

女性は「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと」「子育て支援が充実していること」

- ・結婚を希望する人への支援策は、男女別に重視することが異なる。特に「出会いの場を提供すること」と「子育て支援が充実していること」は、性差が大きい。

図表 164 【未婚者のうち結婚希望者】結婚を希望する人への支援策

順位	男性 (標本数: 54 件)	回答率 (%)	女性 (標本数: 66 件)	回答率 (%)
1	出会いの場を提供すること	33.3	結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと	30.3
2	結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと	22.2	子育て支援が充実していること	27.3
3	結婚した方が有利となるような支援を行うこと	16.7	出会いの場を提供すること	12.1
4	子育て支援が充実していること	13.0	結婚した方が有利となるような支援を行うこと	10.6
5	結婚しても働きつづけられるような職場環境を充実すること	5.6	婚しても働きつづけられるような職場環境を充実すること	7.6
6	結婚を推奨するような啓発活動を行うこと	0.0	結婚を推奨するような啓発活動を行うこと	0.0
—	特になし	1.9	特になし	3.0
—	わからない	5.6	わからない	7.6
—	その他	1.9	その他	1.5

- ・ 出会いの場については、男女で傾向が異なり、女性のニーズは男性よりも低く、実施方法等を慎重に検討する必要がある。
- ・ 女性は、子どもを育てることを想定している傾向がある。結婚する前から、結婚後・出産後の暮らしの変化や子育て環境について知る機会を持つなど、不安が少しでも軽減するよう働きかけることも有効と考えられる。
- ・ なお、市が開設している「結婚相談所」の認知度は 22.5%、「結婚ポータルサイト」の認知度は 10.6%でまだ浸透しておらず、さらなる周知が求められる。

②子育てに関する現状・課題・特徴

■子育てしやすいという評価は平成 30 年度調査から減少

- ・ 高山市は子育てしやすいまちとする評価（「そう思う」、「ややそう思う」の合計）は、前回調査と比較して 11.4 ポイント減少（62.3%→50.9%）しており、前回調査から高山市を子育てしやすいまちであると考える人が大幅に減っている。
- ・ 求めている子育て支援策は、「児童手当や扶養控除など子育てに対する経済的支援の充実」「教育費にかかる支援の充実」が、前回同様に高い。この傾向は子どもがいる回答者の方が高い傾向にある。
- ・ また、経済的支援とあわせて、自由記述からは「遊び場・公園」に関する意見が多く見られた。高山市は自然豊かな環境にあるものの、大きな公園が少なく、加えて映画館や大型商業施設なども少ないなど、経済的支援以外に施設等のハード面でも子育て環境の充実を求める意見があった。市域が広大であり、市街地、山間地によっても現状が異なるため、すべての地域で同条件の整備をすすめることは難しいが、自然に恵まれた高山市の強みを生かした子育て環境の整備などを強化していく必要があると考えられる。

■子育てと仕事の調査は平成 30 年度調査と同様の傾向

結婚・出産・子育て後も仕事を続けられる職場環境づくりはやや改善傾向にある

- ・ 「仕事と生活の調和はうまく取れている」という評価（「そう思う」、「ややそう思う」の合計）は 59.1%、「自身の職場は子育てする人にとって働きやすい」という評価（「そう思う」、「ややそう思う」の合計）は 56.9%であり、前回調査と同様の傾向にある。職場の子育て環境については、子育て経験がある人ほど肯定的評価の割合が高い。また、子どもの人数が多い人ほど肯定的評価の割合が高い傾向にある。
- ・ 結婚・出産・子育てを機に仕事を辞めたことがある人は、前回調査から 1.8 ポイント減少しているが、仕事を辞めたことがある人のうち、「勤務先や仕事の状況から、働き続けるのが難しかったため」が前回調査とあまり変わらず 58.0%となっているため、さらなる職場環境の改善が求められている。

■最終的に持ちたい子どもの人数の平均は 2.03 人であり（前回は 2.13 人）微減

理想とのギャップを埋めるためには、子育てや教育（特に高等教育）の費用の軽減が求められる

- ・ 前回調査から最終的に持ちたい子どもの人数は微減（2.13 人→2.03 人）している。また、理想とする子どもの人数についても微減（2.51 人→2.37 人）している。

- ・理想とする人数が最終的に持ちたい子どもの人数より少ない理由としては、「子育て教育にお金がかかりすぎるから」が前回調査と同様に高くなっている。理想の人数の子どもを生み・育てるために必要な条件として「大学や専門学校等進学時の負担軽減」が最も高いが、前回調査より7.5ポイント減少（50.0%→42.5%）している。一方、出産費用の負担軽減（13.2%→19.4%）、子どもの遊び場などの確保（3.8%→9.1%）、利用しやすい学童保育（3.3%→8.1%）が前回調査よりも増加している。
- ・出生率低迷の原因として市民が思う理由は、「出産・子育ては経済的負担が大きいから」「不安定な経済動向であることなど、将来に不安を感じる社会であるから」といった経済的な理由のほか、「子育てよりも仕事や趣味など、他の事柄に生きがいや価値観を見出す人が増えたから」という価値観の変化などの理由が高い割合となっている。

(2) 移住・定住に関する現状・課題

■I・Jターン者

- ・転入のきっかけは「就職・転職」「転勤・配属」など仕事に伴う理由が大半であるが、「移住(住みたい地域を探して引っ越した)」が微減
- ・定住意向が低く、冬の暮らしや移動手段など困りごとや不満の解消に向けた取組みも重要
 - ・I・Jターン者が転入する前に「高山市は魅力的な地域と感じた(「そう思う」、「ややそう思う」の合計)」とする割合は62.2%で半数以上が転入前から魅力的な地域との印象を持っており、また前回調査よりも7.8ポイント増加(54.4%→62.2%)している。
 - ・転入したきっかけとして、「就職・転職」、「転勤・配属」など仕事に伴う理由が大半となっており、「移住(住みたい地域を探して引っ越した)」は前回調査から1.0ポイント減少(11.8%→10.8%)している。
 - ・転入(移住)にあたり不安だったこととしては、「高山市に家族・知人・友人がいなかったこと」、「自分や家族が地域にうまく溶け込めるか不安だったこと」が多く挙げられているものの、「特段、心配だったこと(困ったこと)はない」が前回調査より7.4ポイント増加(23.2%→30.6%)しているなど、転入(移住)への不安軽減は図れている。さらなるI・Jターン者の不安軽減に向け、移住経験者の情報発信などの取組みを強化することは有効だと考えられる。
 - ・居住地を決める際に重視することとしては、「買い物などの便がいいこと」、「通勤・通学に便利なこと」、「住宅事情が良いこと」が多く挙げられているが、「仕事が確保できること」は前回調査より11.2ポイント減少(30.0%→18.8%)となっている。
 - ・高山市での定住意向では、20.1%が「高山市以外に移住したい」、40.2%が「定住するかどうかわからない」と回答している。転入して困ったことは「雪や寒さなど冬の生活の厳しさ」、「移動・公共交通利用」を挙げている。また、暮らしにくい点でも「冬の暮らしが大変」、「交通の便が悪い」が上位にきている。情報提供や地域でのサポートなど、慣れない生活の支援も重要である。

■Uターン者

- ・転出のきっかけは「進学」が多く、転入のきっかけは「就職・転職」が多い状況
- ・高山市での暮らしを希望して戻ってきた者が増加しており、移住後の暮らしでは収入面で課題を感じている人が多い
 - ・Uターン者の転出理由は「進学」が最多で、転入理由は「就職・転職」が多い状況である。Uターン者の戻ってきた際の心境として、「高山市で暮らしたかった」が56.0%で前回調査から9.1ポイント増加している。「住む地域にこだわりはない」が1.6ポイント減少し、28.6%となっていることから、高山市を選んで戻ってきた者が増加している。
 - ・Uターン後の生活の変化では、「仕事における収入」が悪化した(「やや悪くなった」、「とても悪くなった」の合計)とする回答が59.8%と半数以上となっている。前回調査の56.8%から微増し、依然として高い水準になっている。
 - ・転入のきっかけは「就職・転職」、「家族の事情」の順となっているが、転入時の心配ごととして「転職することにより収入が減ること」、「高山市や近隣地域にやりたい仕事や職種が少なかった(なかった)」が上位に挙げられているが、後者については前回調査から17.1ポイント減少(48.2%→31.1%)してお

り、「特段、心配だったこと（困ったこと）はない」が14.6ポイント増加（16.5%→31.1%）しており、仕事や職種などを筆頭に全体的な心配ごとは減少傾向である。

- ・暮らしにくい点として「賃金が低い」という回答が多く、Uターン者は収入面で課題を感じている傾向にある。

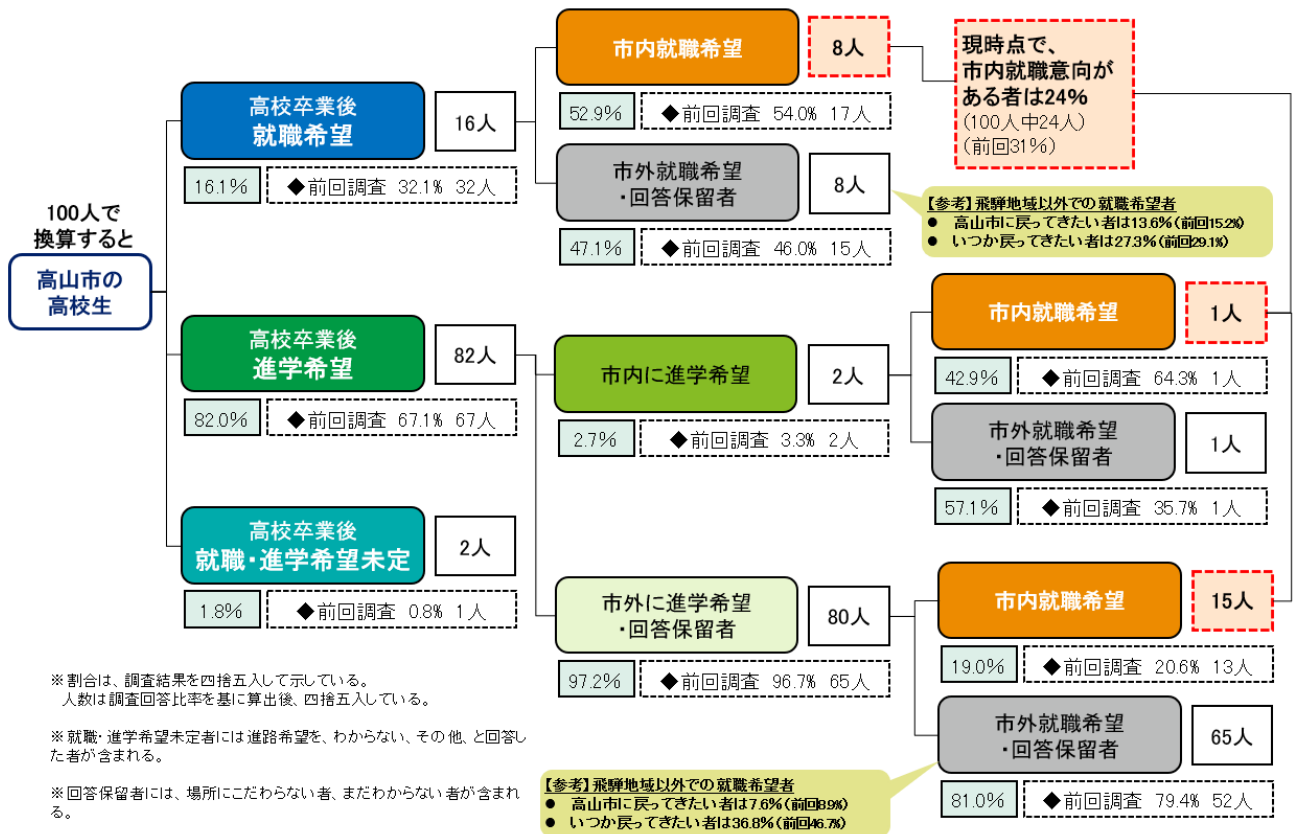
(3) 高校生の地元への就職意向等の現状・課題

① 地元への就職意向

■ 地元への就職意向は、全体の24%と前回よりも低下

- ・ 飛騨地域の高校及び特別支援学校高等部に通う本市在住の生徒のうち、高校卒業後に就職を希望する者は16.1%、進学を希望する者は82.0%である。
- ・ 高校卒業後に就職を希望している者のうち、高山市内に就職を希望する割合は52.9%と半数を超えているものの、前回調査と比較すると1.1ポイント減少している。飛騨地域以外での就職希望者における飛騨地域に戻る意向がある割合をみると、「戻ってきたい」が13.6%、「いずれ戻りたい」が27.3%で、合わせて40.9%である。前回調査では44.3%であり、3.4ポイント減少している。
- ・ 高校卒業後に進学を希望している者のうち、高山市外への進学希望・回答保留者の割合は97.2%である。市外進学希望者・回答保留者のうち、市内就職希望者は19.0%、市外就職希望者は81.0%となっている。
- ・ アンケートにおける比率をもとに100人で換算すると、現時点で市内就職意向を示しているのは100人中24人である。

図表 165 高校生アンケート調査をもとにした地元への就職意向



② 高校生の地元企業への関心

■ 就職希望者の市内企業の認知度は54.9%

- ・ 住んでいる地域の会社や仕事について、高校卒業後に就職を希望する者では半数以上が「知っている（「とても知っている」、「知っている」の合計）」と回答しており、ある程度認知されている。また、飛騨地域以外での就職希望者で飛騨地域以外での就職理由として前回調査で最も多かった

「働きたい職場がない」の項目は、36.9%から13.6%と23.3ポイントの大幅な減少となった。市内企業が参加する就職ガイダンスへの参加意向や職場見学会への関心は、進学希望者に比べて参加意向は約10ポイントも高く、関心度は半数以上となっていることから、市内企業の魅力ややりがいなどの訴求力をより高めるとともに、高校生にとって働きたいと感じるよう職場環境・労務環境等の改善を引き続き行っていく必要があると考えられる。

■進学希望者の市内企業や仕事の認知度が低く、

市内で働くイメージが持てないまま、市外へ進学する者が多い

- ・ 進学希望者では、市内の会社や仕事について「あまり知らない」が59.1%、「まったく知らない」が8.1%で、あわせて67.2%となっている。
- ・ 進学希望者の就職ガイダンスへの参加意向は25.9%、市内企業を対象とした職場見学会への関心度（「とても関心がある」、「やや関心がある」の合計）は37.4%である。少しでも市内にどのような仕事・企業があるかを知ってもらい、就職時の選択肢となるよう、継続的に働きかけを行う必要がある。
- ・ 進学希望者が仕事を選択するうえで重視することとして、「仕事の面白さ・やりがい」のほかに「給料のよさ」や「自分の技能、経験を生かせること」も就職希望者に比べてより多く挙げられていることから、賃金の底上げ施策に取り組むことや、学んだことを活かして活躍できる仕事、企業が市内にあることをPRすることも重要である。

③高校生の高山市に対する評価

■地域の住みやすさや愛着などが低下

- ・ 地域の住みやすさに対して「そう思う」とする回答が43.4%で、前回調査の40.4%から3.0ポイント増加している。地域への愛着についても、「とても感じる」とする回答が33.6%で、前回調査の30.2%から3.4ポイント増加している。一方で、地域の住みやすさに関して「そう思う（「そう思う」、「ややそう思う」の合計）」は4.0ポイント減少している。地域への愛着についても「感じる（「とても感じる」、「感じる」の合計）」も4.5ポイント減少しており、地域への評価、好意的な印象はやや減少傾向にあると考えられる。

■地元就職意向や市外就職後のUターン意向と地域の住みやすさや愛着は関係性があり、地域の良さをを感じる機会の創出が重要

- ・ 「地元就職意向」や「市外就職後の飛騨地域へのUターン意向」の高さと、地域に対する愛着や住みやすさ、自慢できるか等の肯定的な回答比率の高さには関係性が見られた。
- ・ 地域のお祭りや地域活動の参加率と市外就職後の飛騨地域へのUターン意向の高さについても、市内就職意向がある者には同様の関連性が見られた。飛騨地域以外での就職希望者には、参加経験とUターン意向に関連性が見られないものの、「戻るつもりはない」と回答したUターン意向がない者は、参加経験が最も低くなっている。
- ・ 子どもの頃から、地域と関わる経験や地域の将来について話し合う機会、地域の魅力を知る機会など、高山の良さを知ることで、市内への定住意向が高まる可能性がある。

(4) 高校生から見たまちづくりの現状・課題

① 高校生の高山市に対する愛着度

■ 約9割の回答者が高山市への愛着を感じている

- ・ 高山市や居住地域を好きな回答者は、「好き」が41.0%、「まあまあ好き」が50.3%で合わせて91.3%と、約9割の回答者が高山市に愛着を感じている結果となっており、愛着を感じる要素としては、「自然がたくさん」、「水や食べ物がおいしい」が上位を占めている。
- ・ 高山市外に住んでも高山市と関わりを持ちたいと思うかどうかをみると、「持ちたい」、「できれば持ちたい」を合わせて87.8%の回答者が高山市と関わりを持ちたいと答えている。
- ・ また、居住地域への継続居住、Uターン意向については、「住み続けたい」が24.8%、「一度まちを出て、また帰ってきたい」が55.3%と、約8割の回答者が意向を持っている結果となった。

■ 商業施設・娯楽施設の少なさ、高山市での就職先に課題

- ・ 高山市に愛着を感じる要素のうち、「人が多くてにぎやか」、「遊ぶところがたくさんある」、「買い物が便利」の回答率はいずれも10%を下回っている。現在愛着を感じていない回答者が高山市を好きになるための要素としては、「遊ぶところがたくさんある」が76.9%となっている。
- ・ 高山市の仕事については、約7割の高校生が高山市の仕事に魅力・誇りを感じているが、高山市で働きたい仕事がある高校生は約4割にとどまっている。
- ・ どのようなまちであれば住んでみたいと思うかについては、「買い物が便利なまち」、「娯楽施設が充実したまち」、「働く場所が多いまち」の3つの項目が他の項目と比べて突出している。

■ 高山市に愛着を感じている高校生に、実際に高山市に定住してもらえるような取組みが重要

- ・ 以上より、大部分の高校生が高山市に愛着を感じ、高山市と関わりを持ちたいと考えている一方で、商業施設・娯楽施設の少なさに不満を抱えていること、高山市で働きたい仕事が見つからないことがわかる。高山市に愛着を感じる高校生に、実際に高山市への定住やUターンを選択してもらえるよう、高山市に居住している高校卒業までの期間に、若者の遊びの場の提供や、高山市の企業や就職先のPRなど、高山市での暮らしの魅力を提供していくことが重要である。



高 山 市

まちづくりに関するアンケート